

厚生労働省令和2年度社会福祉推進事業

社会的孤立の実態・要因等に関する調査分析等研究事業
報告書

2021（令和3）年4月

みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

社会的孤立の実態・要因等に関する調査分析等研究 要旨

目的

本事業においては、社会的孤立のおそれのある者の状態像の把握等わが国における、孤立者を含めた生活困窮者支援制度における支援のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的として実施した。

実施内容

- ① 「社会的孤立」に関する関係省庁や民間団体による調査研究の整理並びに社会的孤立のおそれのある者の推計
- ② 生活困窮者自立支援法の支援実績に関するデータ分析
- ③ 英国における対孤独戦略政策の整理

主要な結果

◇ 第2部 社会的孤立に関する整理と分析 ～生活と支え合いに関する調査の二次利用分析より～

- リスクの検討から、会話欠如型、受領的サポート欠如型（狭義）、提供的サポート欠如型の3類型が特に注意すべき孤立と考えられた。この3類型について、孤立要素の重複別の出現率を確認すると、5.1%がいずれかの類型に該当（1要素以上に該当している12.0%のうち、社会参加欠如型（狭義）のみに該当している6.9%を除いたもの。）しており、0.2%が3つすべての類型に該当していた（3要素に該当の「会話+受領+提供」の行）。

孤立要素の重複別の出現率（狭義）

■ 会話欠如型、受領的サポート欠如（狭義）型、提供的サポート欠如型、社会参加欠如（狭義）型

	全数	男性	女性	60歳未満	60歳以上
0要素に該当	88.0	86.9	89.1	88.5	86.8
1要素に該当					
会話欠如	1.0	1.3	0.7	0.9	1.2
受領的サポート欠如	0.8	1.0	0.5	0.8	0.8
提供的サポート欠如	2.1	2.6	1.5	1.4	3.5
社会参加欠如	6.9	6.2	7.5	7.5	5.5
2要素に該当					
会話+受領	0.2	0.4	0.0	0.2	0.2
会話+提供	0.4	0.5	0.2	0.2	0.6
会話+社会参加	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
受領+提供	0.5	0.7	0.2	0.4	0.7
受領+社会参加	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
提供+社会参加	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1
3要素に該当					
会話+受領+提供	0.2	0.3	0.1	0.1	0.3
会話+受領+社会参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
会話+提供+社会参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
受領+提供+社会参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
4要素に該当	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【再掲】2要素以上に該当	1.4	2.1	0.7	1.0	2.2
N数	10,713	5,315	5,398	7,402	3,311

まう。そのため、この値は過小に評価された割合と捉える必要があるが、シビアに見積もっても5%程度の者はリスクのある孤立状態に該当する恐れがあるといえる。

◇ 第3部 生活困窮者自立支援制度の支援実績に関する分析

- 生活困窮者自立支援制度において自立相談支援機関における支援実績を見たところ、平成29・30年度に支援対象となった人は、男性が6割、平均年齢48.7歳、独居・未婚・子ども無の人が多かった。健康状態は、通院している人もしくは良くない人が半数、就労状況について求職中の人が半数弱であり、自立相談支援機関への相談内容としては「収入・生活費のこと」「仕事探し、就職について」が多かった。
- 支援プランの策定は、全体の4分の1が複数回の策定となっていた。プランにおいて設定されたサービスの利用状況としては、「自立相談支援事業による就労支援」が最も多く、5割弱

となっていた。

- プランに関わる関係機関・関係者としては、「ハローワーク」が5割弱、次いで「福祉事務所（生活保護担当部署）」となっていた。
- 支援の結果、7割の対象者に何らかの変化が見られており、最も多い変化としては「一般就労開始（目的が継続的な就労（障害者雇用含む）」、次いで「自立意欲の向上・改善」となっていた。
- 自立相談支援機関が社会的孤立の状態にあるととらえた人についての状況を、支援対象者全体と比較すると、男性が多く、年齢が若く、未婚・子ども無の人が多かったが、同居者がいる人の割合は高かった。社会的孤立が課題とされた人について支援の結果見られた変化としては、「社会参加の機会の増加」や「生活習慣の改善」、「自立意欲の向上・改善」が新対象者全体よりも高かった。「孤立の解消」についても、支援対象者全体と比べると高かったが、3割程度であった。

◇ 第4部 英国における対孤独戦略政策の整理

- 英国政府は、2018年に英国の10人に1人以上が感じている孤独問題に取り組むために、孤独担当大臣を任命し、対孤独戦略の政策に2,000万ポンドを支出し、すべての年齢の人々を対象とした、孤独に関する指標の開発に取り組むこととした。
- 対孤独戦略は長期的な取り組みが必要であり、定量的目標は設定されていないが、より繋がりのある社会を構築するために、他者と協力するという長期的な展望を政府は示している。政府はこの戦略を広く周知するため、慈善団体、企業、公共部門を含む組織が連携したLoneliness Action Groupと緊密に協力した。
- 2018年以来、政府の全省庁が取り組んできた主な活動は以下の通り。

- 公共部門全体の最前線の職員は、孤独を認識して行動するために支援を受けている。
- 社会的処方拡大と改善のために、社会的処方リンクワーカーの追加採用。
- 政府の「Let's Talk Loneliness」キャンペーンは、320を超える組織がツールキットをダウンロードしている。
- 郵便局員と地方自治体との間で、孤独のリスクがある独居高齢者を特定するための試みを行う。
- 2020年9月から小中学生に孤独について教育する。
- 国家統計局は、孤独感尺度に関する包括的な情報と、測定ツールの使用に関するガイドンスを公開した。

等

◆実施体制

【委員】

氏名	ご所属
奥田 知志	特定非営利活動法人 抱樸 理事長
斉藤 雅茂	日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授
杉山 京	日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 助教
西村 幸満	国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部 第1室長
○藤森 克彦	日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 教授

(○：座長 50音順・敬称略)

【アドバイザー】

氏名	ご所属
阿部 彩	東京都立大学 人文社会学部 人間社会学科 教授

【オブザーバー】

氏名	ご所属
唐木 啓介	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長
國信 綾希	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐
鏑木 奈津子	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 包括的支援体制整備推進官
高石 麗理湖	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者支援計画官

【事務局】

氏名	現職
田中 陽香	みずほ情報総研株式会社 社会政策コンサルティング部 福祉政策チーム 課長
小松 紗代子	みずほ情報総研株式会社 社会政策コンサルティング部 福祉政策チーム チーフコンサルタント
岡島 広枝	みずほ情報総研株式会社 社会政策コンサルティング部 福祉政策チーム コンサルタント

※みずほ情報総研株式会社は、2021年4月1日にみずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社に社名変更した。

目次

第1部	調査研究の概要	1
第1章	調査研究の概要	3
(1)	調査研究の背景・目的	3
(2)	事業実施内容	3
(3)	成果の公表方法	6
第2部	社会的孤立に関する整理と分析	
	～生活と支え合いに関する調査の二次利用分析より～	7
第1章	社会的孤立に関する情報の整理	9
(1)	孤立と孤独の違い	9
(2)	先行研究における孤立の操作的定義	9
(3)	孤立することの問題点	17
第2章	分析の枠組み	20
(1)	本事業で用いるデータ	20
(2)	「生活と支え合いに関する調査（2017）」について	20
(3)	本事業で用いる操作的定義	21
第3章	社会的孤立者である可能性が高い者の出現率	25
(1)	全体および性別の出現率	25
(2)	年齢階層別の出現率	25
(3)	婚姻状況別の出現率	27
(4)	世帯類型別の出現率	29
(5)	生活保護の受給有無別の出現率	31
(6)	孤立要素の重複別の出現率	32
第4章	社会的孤立者が陥りやすいリスクの検討	34
(1)	生活に関する状況	34
(2)	健康関連項目	43
第5章	まとめ	57
(1)	第3章「社会的孤立者である可能性が高い者の出現率」のまとめ	57
(2)	第4章「社会的孤立者が陥りやすいリスクの検討」のまとめ	57
(3)	考察	57
第3部	生活困窮者自立支援制度の支援実績に関する分析	59
第1章	分析データの概要	61
(1)	分析の目的	61

(2)	分析対象となるデータ	61
第2章	データ分析結果.....	64
(1)	生活困窮者自立支援制度における支援対象者の概要.....	64
(2)	生活困窮者自立支援制度における支援の状況	81
(3)	生活困窮者自立支援制度における支援の結果	115
(4)	社会的孤立を課題として抱える人に対する支援の状況.....	119
第4部	英国における対孤独戦略政策の整理	131
第1章	対孤独戦略の背景その対象ならびに目標.....	133
(1)	背景	133
(2)	対孤独戦略の対象者.....	133
(3)	対孤独戦略の包括的な目標.....	134
(4)	戦略の目標設定	134
(5)	孤独の定義	135
第2章	具体的な取組内容	136
(1)	協働する対孤独戦略.....	136
(2)	アプローチの原則	136
(3)	枠組みの整備.....	137
(4)	人と人との繋がりをサポートする為の活動	138
(5)	社会的繋がりを強化するコミュニティ・インフラ	141
(6)	繋がるコミュニティを支える文化の醸成.....	142
(7)	戦略の構築	144
第3章	実績・評価	145
(1)	初年度の実績報告概要	145
(2)	2年目の実績報告概要	147
(3)	生活実態調査（Community Life Survey）における孤独項目	149

参考資料

- ・ NPO 法人抱樸の発表資料
- ・ 生活困窮者自立支援制度の支援実績分析データ

第 1 部 調査研究の概要

第1章 調査研究の概要

(1) 調査研究の背景・目的

平成27年4月に生活困窮者自立支援制度が創設され、新たなセーフティネットが設けられた。制度発足から5年余りではあるが、景気の変動等、生活困窮者自立支援制度の対象者が置かれる環境や課題は変化しており、効果的な支援を実践していくために、生活困窮者自立支援制度における支援の実績を分析することにより、効果的な支援のあり方について検討を行うことが求められている。

また、生活困窮者自立支援制度の対象者に含まれる「社会的孤立」にあるおそれのある者の状態像や規模間を検討・分析を行うことにより、生活困窮者自立支援制度における潜在的な支援対象者、より注意を要する支援対象者を把握し、効果的な支援を行う際の基礎資料を作成することも求められている。

さらに近年わが国においては2021年2月に孤立・孤独担当大臣が置かれる等注目が高まっている孤立・孤独であるが、イギリスでは2018年に孤独担当大臣が置かれた。他国における支援制度の現状を把握することはわが国の施策検討においても意義深いことである。

そこで本事業においては、社会的孤立のおそれのある者の状態像の把握等わが国における、孤立者を含めた生活困窮者支援制度における支援のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的として実施した。

(2) 事業実施内容

上記目的を達成するために事業で実施した内容は以下の通りである。

- ① 「社会的孤立」に関する関係省庁や民間団体による調査研究の整理並びに社会的孤立のおそれのある者の推計
- ② 生活困窮者自立支援法の支援実績に関するデータ分析
- ③ 英国における対孤独戦略政策の整理

① 「社会的孤立」に関する関係省庁や民間団体による調査研究の整理並びに社会的孤立にある者の推計

1) 研究会の設置・開催

調査研究において、有識者による研究会を設け、主に「社会的孤立」の状態像把握の方法並びに「社会的孤立」のおそれのある者の推計に係る検討を行った。

図表 1-1-1 研究会委員

氏名	ご所属
奥田 知志	特定非営利活動法人 抱樸 理事長
斉藤 雅茂	日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授
杉山 京	日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 助教
西村 幸満	国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部 第1室長
藤森 克彦 ○	日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 教授

(○：座長，50音順・敬称略)

図表 1-1-2 アドバイザー

氏名	ご所属
阿部 彩	東京都立大学 人文社会学部 人間社会学科 教授

図表 1-1-3 オブザーバー

氏名	ご所属
唐木 啓介	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長
國信 綾希	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐
鏑木 奈津子	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 包括的支援体制整備推進官
高石 麗理湖	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 生活困窮者支援計画官

図表 1-1-4 事務局体制

氏名	現職
田中 陽香	みずほ情報総研株式会社 社会政策コンサルティング部 福祉政策チーム 課長
小松 紗代子	みずほ情報総研株式会社 社会政策コンサルティング部 福祉政策チーム チーフコンサルタント
岡島 広枝	みずほ情報総研株式会社 社会政策コンサルティング部 福祉政策チーム コンサルタント

※みずほ情報総研株式会社は、2021年4月1日にみずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社に社名変更した。

研究会は、計4回開催した。開催概要は下表のとおり。

図表 1-1-5 研究会の開催概要

研究会	開催日時	議題
第1回	2020年11月2日(月) 13時～15時	○「社会的孤立の定義について」 ○「生活と支え合いに関する調査」による「社会的孤立該当者の推計」について
第2回	2021年1月25日(月) 13時～15時	○「生活と支え合いに関する調査」による「社会的孤立該当者の推計」について
第3回	2021年2月18日(木) 10時～12時	○社会的孤立にある人への支援の現状について ○「生活と支え合いに関する調査」による「社会的孤立該当者の推計」について
第4回	2021年3月22日(月) 13時～15時	○報告書案について

2) 「社会的孤立」に関する先行研究等の文献調査

関係省庁や民間団体等の既存調査から、「社会的孤立」の実態把握に有用と考えられる文献を調査した。

3) 「社会的孤立」のおそれのある者の状態像の把握検討

2) の文献調査結果も踏まえ、「社会的孤立」の実態把握の方法について検討を行った。検討にあたっては、「生活と支え合いに関する調査」の集計結果の分析をもとに行った。

② 生活困窮者自立支援法の支援実績に関するデータ分析

平成 27 年 4 月より生活困窮者支援の中核を担う自立相談支援事業が開始された。その支援実績については、国が作成した生活困窮者自立支援統計システムの業務支援ツールを用いて各相談支援機関が管理しているものの、全国統一での集計・分析はされていない。

平成 29 年度の生活困窮者就労支援準備支援事業等補助金 社会福祉推進事業「生活困窮者自立支援制度における自立相談支援機関における支援実績の分析による支援手法向上に向けた調査研究事業」においては、各自治体の自立相談支援機関が平成 27 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの相談受付ケースについての分析を行い、支援対象者の属性や抱えている課題、具体的な支援の内容や評価結果について明らかにした。

本事業では、相談支援の状況についての経年的な状況の変化について把握すべく、平成 29 年度事業においてデータ提供にご協力いただいた自治体に再度協力を依頼し、平成 29、30 年度の支援実績に関するデータ分析を行うこととした。

③ 英国における対孤独戦略政策の整理

社会的孤立に関する行政の対応等について検討するにあたっては、他の国の動向についても参考となる部分がある。この点に関し、英国においては、2018 年より孤独問題を担当する大臣が任命され、各種施策が展開されている。

本事業においては、わが国における社会的孤立にあるおそれのある者に対する施策の検討に際し、参考とするべく、現時点における英国の対孤独戦略政策について整理した。

(3) 成果の公表方法

本調査研究の成果は、当社ホームページにおいて公開する。

第2部 社会的孤立に関する整理と分析

～生活と支え合いに関する調査の

二次利用分析より～

第1章 社会的孤立に関する情報の整理

(1) 孤立と孤独の違い

社会的孤立については、学術的な研究の分野では、タウンゼント (Townsend) による定義¹が最も多く用いられている。この定義によれば、社会的孤立 (social isolation) とは「家族やコミュニティとはほとんど接触がない」という客観的な状態であり、仲間づきあいの欠如あるいは喪失による好ましからざる感情 (主観) を意味する孤独 (loneliness) とは区別している²。

本章においても、社会的孤立は、本人の感情とは関係なく、客観的につながりのない状態を指すものとする。

(2) 先行研究における孤立の操作的定義

先行研究では、社会的孤立をどのように測定するのかという点において様々な操作的定義が用いられてきた。ただし操作的定義について検討した文献は少ない。その中で、斎藤 (2015) によれば、健康へのリスクが高まるくらいの交流の乏しさを社会的孤立と定義するならば、「同居者以外との対面・非対面交流をあわせて週1回未満という状態までがその後の要介護状態や認知症と関連し、月1回未満になると早期死亡とも密接に関連する交流の乏しさであることから、これらが社会的孤立の妥当な操作的定義」と示している³。

図表 2-1-1 先行研究にみる社会的孤立の基準の検討

文献	調査名 (調査時期)	調査 対象者	調査地区	サンプル数	指標	孤立の基準 (操作的定義について)
斎藤 (2015)	AGES (愛知老年 学的評価研究) (2013年)	要介護認 定を受け ていない 高齢者	愛知県下 6市町村	12,085	別居家族・親族 および友人と 会う頻度及び 手紙・電話・メ ールなどで連 絡を取り合う 頻度	同居者以外との対面・非対面交 流をあわせて週1回未満とい う状態までがその後の要介護 状態や認知症と関連し、月1回 未満になると早期死亡とも密 接に関連する交流の乏しさで あることから、これらが社会的 孤立の妥当な操作的定義であ ることが示唆された。

¹ Townsend, P. (1968) Isolation, desolation, and loneliness, Shanas, E., Townsend, P. and Wedderburn, D., et al. eds. Old people in three industrial societies, Routledge & Kegan Paul, 258-87

² 斎藤雅茂 (2018) 「高齢者の社会的孤立と地域福祉」明石書店、p.14

³ 斎藤雅茂ら (2015) 「健康指標との関連からみた高齢者の社会的孤立基準の検討—10年間のAGESコホートより」日本公衆衛生雑誌 62(3), 95-105.

一方、社会的孤立に関する多様な先行研究では、研究者らの判断により、様々な調査項目が用いられ調査されている。調査研究においては、「この定義が絶対的に正しい」という根拠がなくとも、調査実施者の意図や捉えたい状態像に応じて調査項目が設定される。

国内の先行研究を確認したところ、社会的孤立は大きく4類型（うち2類型については、さらに2つの小分類に分かれる）で定義されていると考えられた⁴。

図表 2-1-2 先行研究にみる社会的孤立の操作的定義

孤立の類型	内容
社会的交流	会話の頻度、家族・親族・友人等との接触の欠如
社会的サポート【受領】	他人からの支援（サポート）を受けることの欠如
道具的（物理的）	困ったときに頼りにできる人の欠如（病気の時の看病、金銭の援助、日常の手助けなど）
情緒的（心理的）	悩みごとの相談にのってくれる人、寂しい時の話し相手などの欠如
社会的サポート【提供】	他人への支援（サポート）を与えることの欠如
道具的（物理的）	困ったときに手助けをする相手の欠如（病気の時の看病、お金の援助、日常の手助けなど）
情緒的（心理的）	悩みごとの相談にのってあげる人、寂しい時の話し相手になるなどの欠如
社会参加	組織・活動（町内会、スポーツ・趣味の会など）への参加の欠如

以下では、社会的孤立の出現率を算出している先行研究について、その調査の概要（調査名、調査時期、調査対象者、調査時期、調査地区）と、用いた社会的孤立の操作的定義（指標）、および算出された社会的孤立の出現率を整理した。

⁴ 主として以下の3文献を参考にまとめた。

- ・阿部彩（2014）「包摂社会の中の社会的孤立—他県からの移住者に注目して—」社会科学 65(1), 13-30.
- ・内閣府（2014）『『絆』と社会サービスに関する調査』
- ・藤森克彦（2016）『『社会的孤立4類型』からみた単身世帯における孤立の実態分析』（国立社会保障・人口問題研究所『生活と支え合いに関する調査（2012年）二次利用分析報告書（平成27年度）』所内研究報告、第66号、2016年3月）

① 社会的交流の欠如型孤立

孤立の種類として「社会的交流」は、社会的孤立の操作的定義として、最も頻繁に使われていた。指標としては、対面接触（直接会って交流すること）と非対面接触（電話や電子メールなどにより交流すること）の両面から接触頻度を用いて定義していたり、会話頻度に絞って定義していたりする。また、接触頻度や会話頻度の低さは「週1回未満（月に2，3回以下）」を用いているものや、「2～3日に1回以下」を用いているものなど、頻度の基準も様々であった。

操作的定義の違いや調査対象者が様々であるため簡単に比較はできないが、これらの操作定義により算出された孤立の出現率は1%～60%超まで幅広く分布していた。

図表 2-1-3 先行研究にみる社会的孤立の指標と孤立の出現率【社会的交流】

文献	調査名 (調査時期)	調査 対象者	調査地区	サンプル数	操作的定義(指標)	孤立の 出現率
斉藤(2010) ⁵	一般高齢者調査 (2008年) 独居高齢者調査 (2009年)	65歳以上	和光市	独居高齢者 978人、 同居高齢者 1,529人	基準A 「別居家族・親族」と「友人・ 近所の人」との対面接触およ び非対面接触のいずれもが 「月に2, 3回」以下 基準B 「別居家族・親族」と「友人・ 近所の人」との対面接触およ び非対面接触のいずれもが 「月に1回くらい」以下	基準A 独居: 24.1% 同居: 28.7% 基準B 独居: 13.6% 同居: 13.7%
玄田(2013) ⁶	社会生活基本調査 (2011年)	20歳以上 の無業者	全国	無業者全体 54,719人 うち20-59歳の 未婚無業者(在 学中を除く) 3,106人	ふだんずっと一人か一緒に いる人が家族以外いない人 (2日間の生活時間調査に おいて、15分単位で「行動の 種類」と「一緒にいた人」を 回答している。このうち、48 時間内に「一緒にいた」項目 が家族以外いない人と定義)	無業者 48.1% 20-59歳の 未婚無業者 63.4%
小池(2014) ⁷	シニア世代の安全・ 安心な暮らしに関 する調査(2012年)	65歳以上	和光市	独居群 1,222人、 同居群 6,180人	別居家族・親族、および友人・ 近所の人との接触頻度がい ずれも週1回未満	全体 29.2% 独居群 23.0% 同居群 30.4%
阿部(2014)	福井の希望と社会 生活調査(2011年)	20歳以上	福井県	7,008人	「人(家族を含む)と2~3 日に1回以下しか話をしな い」、「友人・家族・親戚に会 いに行くことが経済的にで きない」、「親戚の冠婚葬祭へ 出席することが経済的にで きない」に1つ以上該当	6.2%
内閣府(2014)	「絆」と社会サービ スに関する調査 (2013年)	20歳から 59歳	全国	5,532人	【全会話】 家族や友人、職場の人や医 療・福祉の専門職等との直接 の会話が週に数回以下で、か つ、パソコンや携帯電話を介 してのやりとりが週に数回 以下 【私的会話】 家族や友人、近所の人との直 接の会話が月に数回以下	全会話 1.4% 私的会話 1.1%
小林(2015) ⁸	東京都老人総合研 究所(現: 東京都 健康長寿医療セン ター研究所)、東京 大学、ミシガン大学 が共同で実施して いる全国高齢者の 長期縦断研究 (2012年)	60~92歳	全国	1,324人	【非同居者孤立】 同居家族以外との接触頻度 が週に1回未満 【完全孤立】 独居で、かつ、同居家族以外 との接触頻度が週に1回未 満	非同居者孤立 23.8% 完全孤立 3.6%
藤森(2016)	生活と支え合いに 関する調査 (2012年)	20歳以上	全国	21,173人 (11,000世帯)	会話の頻度が2~3日に1 回以下	9.0%

⁵ 斉藤雅茂ら(2010)「首都圏ベッドタウンにおける世帯構成別にみた孤立高齢者の発現率と特徴」日本公衆衛生雑誌 57(9), 785-795.

⁶ 玄田有史(2013)「孤立無業者(SNEP)の現状と課題」文部科学省・日本学術振興会委託事業「近未来の課題解決を目指した実証的科学研究推進事業」報告書

⁷ 小池高史ら(2014)「居住形態別の比較からみた団地居住高齢者の社会的孤立」老年社会科学 36(3), 303-312.

⁸ 小林江里香ら(2015)「日本の高齢者における社会的孤立割合の変化と関連要因-1987年, 1999年, 2012年の全国調査の結果より」社会福祉学 56(2), 88-100.

② 社会的サポート（受領）の欠如型孤立

孤立の種類として「社会的サポート（受領）」は、社会的孤立の操作的定義として、社会的交流の次に頻繁に使われていた。指標としては、病気の時の世話やお金の援助などの「道具的サポート」や、人生相談、愚痴を聞いてくれる相手などの「心理的サポート」について頼れる人がいないことを用いて定義している。また、「そのことでは人に頼らない」場合も、対象としている先行研究もみられた。複数の項目のうち、1つ以上に該当する場合、X項目中Y項目以上に該当する場合、X項目すべてに該当する場合、など、カットオフ値の基準も様々であった。

操作的定義の違いや調査対象者が様々であるため簡単に比較はできないが、これらの操作定義により算出された孤立の出現率は2%～10%と分布していた。

図表 2-1-4 先行研究にみる社会的孤立の指標と孤立の出現率【社会的サポート<受領>】

文献	調査名 (調査時期)	調査 対象者	調査地 区	サンプル数	操作的定義（指標）	孤立の 出現率
阿部（2014）	福井の希望と社会生活調査(2011年)	20歳以上	福井県	7,008人	「病気の時の世話」 「人生相談」 「家庭内トラブルの相談」 「お金の援助」など7項目。 上記のサポートをしてくれる人が「全くいない」との回答が4項目以上該当	9.1%
内閣府（2014）	「絆」と社会サービスに関する調査(2013年)	20歳から59歳	全国	5,532人	【道具的】 「看病や介護、子どもの世話」 「お金の援助」など5項目すべてに「頼れる人はいない」または「そのことでは人に頼らない」と回答 【心理的】 「家庭内トラブルの相談」 「愚痴を聞いてくれる」など5項目すべてに「頼れる人はいない」または「そのことでは人に頼らない」と回答	【道具的】 2.8% 【心理的】 2.3%
藤森（2016）	生活と支え合いに関する調査(2012年)	20歳以上	全国	21,173人 (11,000世帯)	「看病や介護、子どもの世話」 「家庭内トラブルの相談」 「愚痴を聞いてくれる」 「お金の援助」など10項目。 上記のサポートについて「頼れる人はいない」との回答が2項目以上該当	9.6%
三谷（2019） ⁹	生活と意識に関する全国調査(2016年)	20～79歳	全国	1,631人	過去1年間「(a)悩みや心理的な問題が生じたとき」「(b)経済的な問題が生じたとき」「(c)家事・育児・介護のために人手が必要になったとき」「(d)自分が知らないことについての情報がほしいとき」「(e)自分の行いを正しく評価し、認めてほしいとき」の5項目のうち1つ以上「頼りにできる人はいなかった」と回答	8.1%
内閣府（2019） ¹⁰	高齢者の住宅と生活環境に関する調査(2018年)	60歳以上	全国	1,870人	病気の時やひとりではできない家の周りの仕事など頼れる人	(いない) 3.1%

⁹ 三谷はるよ「社会的孤立に対する子ども期の不利の影響—『不利の累積仮説』の検証」福祉社会学研究 16, 179-199.

¹⁰ 内閣府（2019）「平成30年度 高齢者の住宅と生活環境に関する調査」

③ 社会的サポート（提供）の欠如型孤立

孤立の種類として「社会的サポート（提供）」は、社会的孤立の操作的定義として、近年の研究で使われているものがいくつかあった。指標としては、病気の時の世話やお金の援助などの「道具的サポート」や、人生相談、愚痴を聞いてくれる相手などの「心理的サポート」について頼ってくれる人がいないことを用いて定義している。

社会的サポートの提供的な側面を社会的孤立の操作的定義のひとつとして用いるのは、「頼ってくれる人がいない」ことが「(自分は) 社会から必要とされていない」と回答者が感じている可能性が高いことと関係する。人間関係の豊かさや自己肯定感を保つためには、社会的サポートを受けるだけでなく、提供することも重要であるとの考えに基づく。

複数の項目のうち、X 項目中 Y 項目以上に該当する場合、X 項目すべてに該当する場合、など、カットオフ値の基準も様々であった。

操作的定義の違いや調査対象者が様々であるため簡単に比較はできないが、これらの操作定義により算出された孤立の出現率は2%～10%と分布していた。

図表 2-1-5 先行研究にみる社会的孤立の指標と孤立の出現率【社会的サポート<提供>】

文献	調査名 (調査時期)	調査 対象者	調査地区	サンプル数	操作的定義（指標）	孤立の 出現率
内閣府 (2014)	「絆」と社会サービスに関する調査 (2013年)	20歳から 59歳	全国	5,532人	【道具的】 「身の回りの世話」 「家計の担い手となる」 「病気や事故の時の支援」の 3項目すべてに「(あなたに 期待している人は) いない」 と回答 【心理的】 「安否を気遣う」 「特別な日を祝う」 「正月・盆と一緒に過ごす」 「愚痴を聞いたり相談にの る」の4項目すべてに「(あな たに期待している人は) いな い」と回答	【道具的】6.4% 【心理的】2.3%
藤森 (2016)	生活と支え合いに 関する調査 (2012年)	20歳以上	全国	21,173人 (11,000世 帯)	「家族・親族」「友人・知人」 「近所の人」「職場の人」の4 種類の相手に対する9場面。 上記の人が手助けを必要と しているときに「(いずれの) 手助け(も)しない」の回答 として2種類以上の相手が 該当	9.8%

④ 社会参加の欠如型孤立

孤立の種類として「社会参加」は、社会的孤立の操作的定義として、特に社会からの排除（社会的排除）の文脈の研究で使われているものがいくつかあった。指標としては、町内会やボランティア活動への参加（参加したいのにできない、参加していない）を用いて定義している。複数の項目のうち、X 項目中 Y 項目以上に該当する場合というカットオフ値の基準も様々であった。

操作的定義の違いや調査対象者が様々であるため簡単に比較はできないが、これらの操作定義により算出された孤立の出現率は 10%～18%と分布していた。

図表 2-1-6 先行研究にみる社会的孤立の指標と孤立の出現率【社会参加】

文献	調査名 (調査時期)	調査 対象者	調査地区	サンプル数	操作的定義（指標）	孤立の 出現率
阿部 (2007) ¹¹	社会生活に関する 実態調査 (2006 年)	20 歳以上	川崎市南部	584 人	旅行、外食、社会活動（町内会、ボランティア活動、趣味・スポーツなど 6 項目）の計 8 項目のうち 4 項目以上について、理由を問わず参加していない者	17.60%
阿部 (2014)	福井の希望と社会 生活調査 (2011 年)	20 歳以上	福井県	7,008 人	「町内会・老人会・婦人会」 「子供会・PTA など」 「ボランティア・社会奉仕活動」 「趣味・スポーツ」の 4 項目。 上記の活動がしたいのにできないとの回答が 3 項目以上該当	9.5%
藤森 (2016)	生活と支え合いに 関する調査 (2012 年)	20 歳以上	全国	21,173 人 (11,000 世帯)	「自治会や町内会」 「ボランティア・NPO」 「宗教団体」など 9 項目。 参加したいができないとの回答が 2 項目以上該当	11.0%

¹¹ 阿部彩 (2007) 「日本における社会的排除の実態とその要因」季刊社会保障研究 43(1), 27-40.

⑤ 社会的孤立の複合指標

孤立の種類としてこれまでとりあげた「社会的交流」「社会的サポート（受領）」などをまとめて、ソーシャルサポートネットワークの欠如として尺度化されたものを用いた先行研究もあった。

調査対象者は65歳以上に限られるが、この操作的定義により算出された孤立者の出現率は38%～44%と分布していた。

図表 2-1-7 先行研究にみる社会的孤立の指標と孤立の出現率【複合指標】

文献	調査名 (調査時期)	調査 対象者	調査地区	サンプル数	操作的定義(指標)	孤立の 出現率
新井(2015) ¹²	A市営団地居住者 調査、2013年	65歳以上	名古屋市の 市営団地居 住者	288人	日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6) を用いて、12点 未満	44.1%
永井(2017) ¹³	訪問看護ステーシ ョン利用者の介護 者調査(2011年)	65歳以上 の介護者	A県	104人	日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6) を用いて、12点 未満	37.5%

<コラム>LSNS-6 尺度

Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6) は高齢者の社会的孤立をスクリーニングする尺度として国際的に広く使用されている。日本語版 LSNS-6 は、栗本ら¹⁴により信頼性および妥当性が報告されている。

以下の6項目からなり、合計30点満点。12点未満が社会的孤立と判定される。

日本語版 LSNS-6

家族 ここでは、家族や親戚などについて考えます。

1. 少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする家族や親戚は何人いますか？
0=いない 1=1人 2=2人 3=3人 4=4人 5=5～8人 6=9人以上
2. あなたが、個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親戚は何人いますか？
0=いない 1=1人 2=2人 3=3人 4=4人 5=5～8人 6=9人以上
3. あなたが、助けを求めることができるくらい親しく感じられる家族や親戚は何人いますか？
0=いない 1=1人 2=2人 3=3人 4=4人 5=5～8人 6=9人以上

友人関係 ここでは、近くに住んでいる人を含むあなたの友人全体について考えます。

4. 少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする友人は何人いますか？
0=いない 1=1人 2=2人 3=3人 4=4人 5=5～8人 6=9人以上
5. あなたが、個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人は何人いますか？
0=いない 1=1人 2=2人 3=3人 4=4人 5=5～8人 6=9人以上
6. あなたが、助けを求めることができるくらい親しく感じられる友人は何人いますか？
0=いない 1=1人 2=2人 3=3人 4=4人 5=5～8人 6=9人以上

LSNS-6の総得点は、これらの6項目の各点数を均等に加算して求めます。総得点の範囲は0点～30点です。

¹² 新井清美ら(2015)「都市公営住宅における高齢者の低栄養と社会的孤立状態との関連」日本公衆衛生雑誌 62(8), 379-389.

¹³ 永井眞由美ら(2017)「高齢介護者の社会的孤立とその関連要因」日本地域看護学会誌 20(1), 79-85.

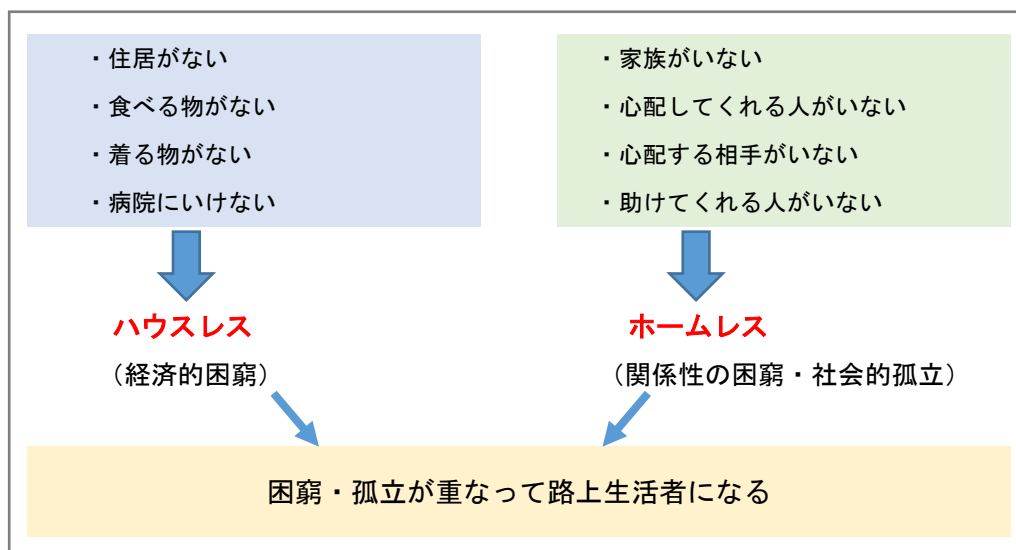
¹⁴ 栗本鮎美ら(2011)「日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6) の作成と信頼性および妥当性の検討」日本老年医学会雑誌 48(2), 149-157.

(3) 孤立することの問題点

生活困窮者自立支援制度では、「働きたくても働けない」「住むところがない」などの生活に困りごとや不安を抱えている場合の相談窓口として自立相談支援事業が実施されている。相談者は社会的に孤立しているという課題を抱えていることも少なくないと考えられる。

生活困窮者への支援を行っている NPO 法人抱樸¹⁵によれば、困窮には大きく2つの側面があるという。ひとつは「住居がない、食べる物がなく、着る物がなく、病院にいけない」という経済的な困窮であり、物理的な物の欠如から「ハウスレス」と表現することができる。もうひとつは「家族がいない、心配してくれる人がいない、心配する相手がない、助けてくれる人がいない」という関係性の困窮・社会的孤立であり、精神的な拠り所の欠如から「ホームレス」と表現することができる。後者は、家族間の関係性が希薄であるために「家があっても帰るところがない」「家族がいても誰からも心配されていない」という状態である。そしてそれは、どの年代の人間にも（子供にも、高齢者にも）生じうる問題である。路上生活を行っている生活困窮者は、多くの場合、上記の「経済的困窮（ハウスレス）」と「関係性の困窮・社会的孤立（ホームレス）」の両方の状態に陥っているという。

図表 2-1-8 困窮の2つの側面



(NPO 法人抱樸作成の資料をみずほ情報総研が加工、一部改変)

¹⁵ 1988年に活動を開始し、福岡県を拠点として生活困窮者への支援を行ってきた非営利組織。ホームレスからの自立者を延べ3,500人達成し、現在も生活サポート支援を約2,000人に実施している。

NPO 法人抱撲によると、これまでに支援を行ってきた経験から、孤立には4つのリスクがあるという。

一点目は自己認知が適切にできなくなることである。他者からみると明らかに困窮していて、今すぐにでも支援が必要と考えられる（支援者として支援を開始したいと思う状態）であったとしても、本人は不安を感じず「まだ、大丈夫です」と答えるという。本人が支援の必要性を認識できないと、当事者主体の支援ができない。そのような場合には、対話により客観的に自分自身の状況を理解し、支援の必要性を認識してもらうことが必要となる。つまり、適切な自己認知のためには他者との関わりが必要なのである。

二点目には、生きる意欲や働く意欲が低下することである。あるいは生きる動機や働く動機が見いだせないと言い換えることもできる。自立支援の現場で働きかけることのできる動機には「外発的動機」と「他者志向的動機」がある。外発的動機は「お金を得るため、食べるため」など、働くことにより得られる報酬をもって動機づけしようとするのだが、これだけでは現状を打破しようという強い動機とはなりにくい。生きる意欲や働く意欲を引き出すためには、「愛する人のため、仲間のため」など、誰のために働くのかという他者志向的動機を見出すことが必要だという。

三点目には、社会的サポートとつながらないことである。世の中にはフォーマル・インフォーマルな支援を含め様々な社会的サポートが存在するが、孤立者には支援が届きにくい。フォーマルな社会的サポートとしては、生活困窮者自立支援制度や生活保護など、生活困窮者に対する支援制度は様々なメニューが用意されているが、どれだけ良い制度があったとしても、社会から孤立している者が制度につながらなければ制度が無いこと同じになってしまう。

四点目には、対処の遅延により問題が深刻化することである。例えば、軽い症状のうちに支援につながれば風邪薬や栄養ある食事によってすぐに回復する風邪であっても、対処の遅延により重篤な肺炎を発症し入院治療が必要になるケースなどが当てはまる。孤立状態を放置することは、社会保障費の増大にもつながっているといえる。

図表 2-1-9 孤立のリスク

①自分自身からの疎外（自己認知不全） ⇒不安さえ感じられない（大丈夫です、と答える若者） ⇒当事者主体が成立しない ⇒自己認知には他者が必要
②生きる意欲や働く意欲の低下 ⇒人は何のために働くのか・・・お金、食べるため（外発的動機） ⇒人は誰のために働くのか・・・愛する人のため（他者志向的動機）＜重要＞
③社会的サポートとつながらない ⇒どれだけ良い制度を創ってもつながらないと無いと同じ
④対処の遅延で問題深刻化・意欲一層低下⇒社会保障費の増大

(NPO 法人抱樸作成の資料をみずほ情報総研が加工、一部改変)

第2章 分析の枠組み

(1) 本事業で用いるデータ

本事業では国立社会保障・人口問題研究所が発表している「生活と支え合いに関する調査（2017）」の二次利用分析を行っているワーキングペーパー¹⁶の付表をもとにまとめた。

(2) 「生活と支え合いに関する調査（2017）」について

「生活と支え合いに関する調査（2017）」は、国立社会保障・人口問題研究所が平成29（2017）年7月に実施した全国調査で、人々の生活、家族関係と社会経済状態の実態、社会保障給付などの公的な給付と、社会的ネットワークなどの私的な支援が果たしている機能を精査し、年金、医療・介護などの社会保障制度の喫緊の課題のみならずその長期的なあり方、社会保障制度の利用と密接に関わる個人の社会参加のあり方を検討するための基礎的資料を得ることを目的として実施された。

本調査は、厚生労働省が実施する「平成29年国民生活基礎調査」で全国を対象に設定された調査地区（1,106地区）内から無作為に選ばれた調査地区（300地区）内に居住する世帯主および18歳以上の個人を対象として平成29年7月1日現在の世帯および個人の状況について調べたものである。

世帯票と個人票の2種類の調査票から構成されており、有効票数は1万件を超える。

図表 2-2-1 「生活と支え合いに関する調査（2017）」の調査客対数、回収票数ならびに有効票数¹⁷

	調査票の回収状況	
	世帯票	個人票
調査客体数	16,341	26,383
回収票数	10,959(回収率 67.1%)	22,800(回収率 86.4%)
有効票数	10,369(有効回収率 63.5%)	19,800(有効回収率 75.0%)

¹⁶ 西村幸満（2021）「単身女性の生活保障—家族と雇用に注目して」国立社会保障・人口問題研究所ワーキングペーパーNo.46

(http://www.ipss.go.jp/publication/j/WP/IPSS_WPJ46.pdf, 2021/3/31accessed)

¹⁷ 国立社会保障・人口問題研究所「2017年社会保障・人口問題基本調査 生活と支え合いに関する調査 報告書」より抜粋。

(3) 本事業で用いる操作的定義

ワーキングレポートでは、孤立の4要素として「会話の欠如」「受領的サポートの欠如」「提供的サポートの欠如」「社会参加の欠如」を以下①～④のように定義している。

これらの操作的定義は、第1章でまとめた先行研究の「社会的交流」「社会的サポート（受領）」「社会的サポート（提供）」「社会参加」の定義にそれぞれ対応しているものであり、「生活と支え合いに関する調査（2017）」の個人票から設定することが可能な定義である。

① 会話の欠如型孤立

個人票の間23「あなたはふだんの程度、人と会話や世間話をしますか。（家族との会話や電話でのあいさつ程度の会話も含みます）」を用いている。この問に対して、「2週間に1回以下」と回答した人を「会話欠如型孤立者」と定義している。

挨拶程度の会話でさえも「2週間に1回以下」しかない状態は、会話が欠如していると考えられる。また、先行研究においても「週に1回未満（月に2、3回）」の定義を用いている調査が多くあったことから、妥当な基準と考えられる。

図表 2-2-2 会話の欠如型孤立の定義

利用する設問	選択肢	孤立の定義
あなたはふだんの程度、人と会話や世間話をしますか。（家族との会話や電話でのあいさつ程度の会話も含みます）	「毎日」 「2～3日に1回」 「4～7日（1週間）に1回」 「2週間に1回」 「1か月に1回」 「ほとんど話をしない」	「2週間に1回」「1か月に1回」「ほとんど話をしない」のいずれかを選択

② 受領的サポートの欠如型孤立

個人票の間 28「あなたは次に挙げる（１）～（９）の事柄で頼れる人はいますか。」を用いている。この間に対して、９項目の事柄のすべての設問について「（頼れる人は）いない」「そのことでは人に頼らない」のいずれかを選択した人を「広義の受領的サポート欠如型孤立者」と定義している。また、９項目の事柄のすべての設問について「（頼れる人は）いない」を選択した人を「狭義の受領的サポート欠如型孤立者」と定義している。

広義の定義では、「そのことでは人に頼らない」との回答は、「頼れる人がいるか／いないか」という２分類では、「頼れる人がいない」に含めている。

一方で、狭義の定義では、「そのことでは人に頼らない」の選択肢を、本人が必要性を感じていない状態と捉え、「（頼れる人は）いない」のみを欠如状態とみなすこととしている。この場合、例えば未婚で子供のいない回答者は、設問（１）「子どもの世話や看病」に当てはまるシチュエーションがないため、「そのことでは人に頼らない」と回答する可能性が高いが、そのような者が（２）～（９）のすべてで「（頼れる人は）いない」と回答しても、受領的サポートは欠如していないと分類される。また、「人に迷惑をかけてはいけない」という強い意識により、困っていても「そのことでは人に頼らない」を選択する者もあるだろう。そのため、狭義の定義は、実際の社会的孤立に対して過小評価の可能性があると留意が必要である。

図表 2-2-3 受領的サポートの欠如型孤立の定義

利用する設問	選択肢	孤立の定義
あなたは次に挙げる（１）～（９）の事柄で頼れる人はいますか。 （１）子どもの世話や看病 （２）（子ども以外の）介護や看病 （３）重要な事柄の相談 （４）愚痴を聞いてくれること （５）喜びや悲しみを分かち合うこと （６）いざという時のお金の援助 （７）日頃のちょっとしたことの手助け （８）家を借りる時の保証人を頼むこと （９）成年後見人・保佐人を頼むこと	「いる」 「いない」 「そのことでは人に頼らない」 （１～９の各項目について回答）	【広義】 ９項目の事柄のすべての設問について「（頼れる人は）いない」「そのことでは人に頼らない」のいずれかを選択
		【狭義】 ９項目の事柄のすべての設問について「（頼れる人は）いない」を選択

③ 提供的サポートの欠如型孤立

個人票の間 29「あなたは、(1) から (4) の人が、次に挙げる 1 から 7 の事柄について助けを必要としているときに、それらの事柄をしますか。」を用いている。この間に対して、4 種類の相手のすべての設問について「1～7までのこと(手助け)はしない」を選択した人を「提供的サポート欠如型孤立者」と定義している。

どのような相手に対しても手助けを行わない状態は、提供的サポートが欠如していると考えられる。

図表 2-2-4 提供的サポートの欠如型孤立の定義

利用する設問	選択肢	孤立の定義
あなたは、(1) から (4) の人が、次に挙げる 1 から 7 の事柄について助けを必要としているときに、それらの事柄をしますか。 (1) 家族・親族 (2) 友人・知人 (3) 近所の人 (4) 職場の人	「1. 子どもの世話や看病」 「2. (子ども以外の) 介護や看病」 「3. 重要な事柄の相談」 「4. 愚痴を聞くこと」 「5. 喜びや悲しみを分かち合うこと」 「6. いざというときのお金の援助」 「7. 日頃のちょっとした手助け」 「8. 1～7までのことはしない」 (複数回答)	4 種類の相手のすべての設問について「1～7までのことはしない」を選択

④ 社会参加の欠如型孤立

個人票の間 25「あなたは次に挙げる（１）から（７）の会やグループに参加していますか。」を用いている。この間に対して、７項目の事柄のすべての設問について「参加したいができない」「参加する予定はない」のいずれかを選択した人を「広義の社会参加欠如型孤立者」と定義している。また、７項目の事柄のすべての設問について「参加したいができない」を選択した人を「狭義の社会参加欠如型孤立者」と定義している。

広義の定義では、「参加する予定はない」との回答は、「会やグループに参加をしているか／いないか」という２分類では、「参加をしていない」に含めている。

一方で、狭義の定義では、「参加する予定はない」の選択肢を、本人が必要性を感じていない状態と捉え、「参加したいができない」のみを欠如状態とみなすこととしている。

なお、本定義は調査票に記載された社会参加項目についての欠如であるため、家族とのつながりや親しい友人等との付き合いがある場合でも「社会参加の欠如」に該当する場合がある。

図表 2-2-5 社会参加の欠如型孤立の定義

利用する設問	選択肢	孤立の定義
あなたは次に挙げる（１）から（７）の会やグループに参加していますか。 （１）自治会や町内会 （２）ボランティア・NPO （３）宗教団体 （４）PTAや保護者会 （５）趣味の会やスポーツクラブ （６）職場内の会やグループ （７）同じ学校出身者の会やグループ	「１年以上前から参加している」	【広義】 ７項目の事柄のすべての設問について「参加したいができない」「参加する予定はない」のいずれかを選択
	「この１年以内に新たに参加するようになった」	
	「参加したいができない」	【狭義】 ７項目の事柄のすべての設問について「参加したいができない」を選択
	「参加する予定はない」 （１～７の各項目について回答）	

第3章 社会的孤立者である可能性が高い者の出現率

(1) 全体および性別の出現率

ワーキングペーパーに公表されている集計結果から、第2章の定義に従って社会的孤立である可能性が高い者の比率を算出したところ、会話欠如型孤立者は2.2%、受領的サポート欠如型（広義）孤立者は14.2%、受領的サポート欠如型（狭義）孤立者は1.7%、提供的サポート欠如型孤立者は3.2%、社会参加欠如型（広義）孤立者は34.0%、社会参加欠如型（狭義）孤立者は6.6%が該当した。

社会参加欠如型（広義）孤立者の割合が突出して多くなっているが、これは昨今の地域コミュニティなどへの関わりが希薄化している状況を反映していると考えられる。

男女別にみると、「社会参加欠如型孤立（狭義）」のみ女性が多く、それ以外の孤立については男性の出現率が高い割合となっていた。

図表 2-3-1 社会的孤立者の出現率¹⁸

定義名		全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
会話欠如型孤立		2.2	3.0	1.4
受領的サポート欠如型孤立	広義	14.2	15.2	13.3
	狭義	1.7	2.6	1.0
提供的サポート欠如型孤立		3.2	4.4	2.1
社会参加欠如型孤立	広義	34.0	36.3	31.8
	狭義	6.6	6.2	7.0

(2) 年齢階層別の出現率

次に、年齢階層別に孤立者の出現率を図表 2-3-2、図表 2-3-3 に示す。会話欠如型孤立者は特に60代以上の男性に3%以上の割合で出現している。受領的サポート欠如型（広義）孤立者は29歳以下の若者に2割以上の割合で出現している。若い世代の比率が高い理由として、受領的サポート欠如型（広義）では、「そのことでは人に頼らない」という回答者を含んでいるから、と考えられる。また、受領的サポート欠如型（狭義）孤立者は特に60代・70代の男性に3%以上の割合で出現している。提供的サ

¹⁸ それぞれの定義において、利用している設問が異なり、無回答は集計対象外となっているため、集計母数が異なる。全体集計では、会話欠如型（n=19,347）、受領的サポート欠如型（n=15,395）、提供的サポート欠如型（n=12,987）、社会参加欠如型（n=16,829）であった。

ポート欠如型孤立者は70代以上で出現率が上昇し、特に80歳以上では1割以上に出現している。社会参加欠如型（広義）孤立者は29歳以下の若者及び80歳以上の高齢者で特に5割の出現率となっていた。若い世代と80歳以上の比率が高い理由として、社会参加欠如型（広義）では「参加する予定はない」という回答を含んでいるから、と考えられる。また、社会参加欠如型（狭義）孤立者は30代・40代・50代の勤労世代で7%以上が該当した。

図表 2-3-2 年齢階級別の社会的孤立者の出現率

(%)	会話欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)
18-19歳	1.1	26.5	0.8	1.2	53.0	4.5
20-29歳	1.2	22.4	1.7	2.4	49.6	5.9
30-39歳	1.1	10.9	1.4	2.2	36.7	7.3
40-49歳	1.5	14.1	1.6	2.3	31.1	8.1
50-59歳	2.0	14.1	1.6	1.9	30.8	7.4
60-69歳	2.9	14.1	2.0	3.2	26.7	5.9
70-79歳	3.3	11.6	2.2	5.9	28.5	4.5
80歳以上	3.4	13.3	2.1	13.0	48.4	5.9

図表 2-3-3 年齢階級別の社会的孤立者の出現率（男女別）

■男性

(%)	会話欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)
18-19歳	2.3	24.6	1.6	2.7	55.6	2.0
20-29歳	1.6	24.1	2.1	3.8	51.2	4.5
30-39歳	1.6	12.5	2.5	3.6	40.5	6.3
40-49歳	2.3	15.3	2.4	3.8	37.7	7.7
50-59歳	2.8	14.6	2.3	3.1	33.2	7.2
60-69歳	3.7	15.3	3.0	4.6	28.5	5.5
70-79歳	4.9	12.7	3.1	7.1	28.6	4.6
80歳以上	4.3	12.1	2.3	10.5	45.2	7.5

■女性

(%)	会話欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)
18-19歳	0.0	28.5	0.0	0.0	50.8	6.6
20-29歳	0.9	20.9	1.2	1.1	48.3	7.1
30-39歳	0.7	9.3	0.3	0.9	33.0	8.2
40-49歳	0.8	12.9	0.9	1.0	24.8	8.5
50-59歳	1.2	13.7	1.0	0.7	28.8	7.7
60-69歳	2.2	12.9	1.0	1.7	24.9	6.2
70-79歳	1.9	10.5	1.4	4.6	28.4	4.3
80歳以上	2.7	14.2	1.9	14.9	50.7	4.8

(3) 婚姻状況別の出現率

次に、婚姻状況別に孤立者の出現率を図表 2-3-4～図表 2-3-6 に示す。

図表 2-3-4 婚姻状況別の社会的孤立者の出現率

■全体

(%)	会話 欠如者	受領的 サポート 欠如者 (広義)	受領的 サポート 欠如者 (狭義)	提供的 サポート 欠如者	社会参加 欠如者 (広義)	社会参加 欠如者 (狭義)
未婚	3.5	29.0	3.8	5.5	52.9	5.4
配偶者あり	1.3	9.7	0.9	1.7	26.5	7.1
死別	3.3	14.3	1.8	8.9	36.1	5.4
離別	5.3	17.1	3.8	5.7	42.2	7.0

図表 2-3-5 婚姻状況別の社会的孤立者の出現率（男女別）

■男性

(%)	会話 欠如者	受領的 サポート 欠如者 (広義)	受領的 サポート 欠如者 (狭義)	提供的 サポート 欠如者	社会参加 欠如者 (広義)	社会参加 欠如者 (狭義)
未婚	5.0	29.4	5.6	8.0	54.8	4.5
配偶者あり	1.8	10.1	1.3	2.5	28.5	6.7
死別	7.4	16.2	3.9	9.6	42.0	7.8
離別	7.6	24.5	7.1	10.2	49.0	6.5

■女性

(%)	会話 欠如者	受領的 サポート 欠如者 (広義)	受領的 サポート 欠如者 (狭義)	提供的 サポート 欠如者	社会参加 欠如者 (広義)	社会参加 欠如者 (狭義)
未婚	1.7	28.6	1.5	2.5	50.7	6.6
配偶者あり	0.8	9.3	0.6	0.9	24.4	7.4
死別	2.4	13.9	1.3	8.7	34.7	4.8
離別	4.0	13.3	2.0	3.3	38.6	7.2

図表 2-3-6 婚姻状況別の社会的孤立者の出現率（年齢別）

■60歳未満

(%)	会話 欠如者	受領的 サポート 欠如者 (広義)	受領的 サポート 欠如者 (狭義)	提供的 サポート 欠如者	社会参加 欠如者 (広義)	社会参加 欠如者 (狭義)
未婚	2.6	29.1	3.3	4.5	53.4	5.4
配偶者あり	0.7	8.4	0.7	0.9	26.4	8.4
死別	1.0	12.4	1.1	4.1	22.6	7.5
離別	3.4	14.3	2.6	2.6	39.9	6.7

■60歳以上

(%)	会話 欠如者	受領的 サポート 欠如者 (広義)	受領的 サポート 欠如者 (狭義)	提供的 サポート 欠如者	社会参加 欠如者 (広義)	社会参加 欠如者 (狭義)
未婚	12.4	27.8	10.1	17.2	48.4	5.8
配偶者あり	2.0	11.4	1.3	3.2	26.6	5.2
死別	3.5	14.5	1.9	9.5	37.3	5.2
離別	7.8	22.0	5.7	11.2	45.7	7.3

(4) 世帯類型別の出現率

次に、世帯類型別に孤立者の出現率を図表 2-3-7～図表 2-3-8 に示す。

特に単独高齢男性世帯で「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的サポート欠如型」の出現率が1割を超えており、他の属性と比較して突出していた。

図表 2-3-7 世帯類型別の社会的孤立者の出現率

■全体

(%)	会話欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)
子どもがない世帯						
単独世帯						
単独高齢男性世帯	14.8	26.3	11.1	17.4	47.5	6.4
単独高齢女性世帯	5.4	19.1	4.2	9.7	34.8	4.9
単独非高齢男性世帯	8.3	32.1	6.9	9.4	52.5	6.0
単独非高齢女性世帯	4.4	30.2	1.7	2.2	41.0	6.9
夫婦のみ世帯						
夫婦ともに高齢者世帯	2.4	11.5	1.7	3.4	25.5	5.3
夫婦の一方が高齢者世帯	0.6	16.3	1.0	3.6	26.6	5.4
夫婦ともに非高齢者世帯	1.1	22.7	1.5	1.3	35.5	6.9
その他世帯						
高齢者のみ世帯	3.3	12.1	3.5	10.9	41.9	10.1
高齢者以外も含む世帯	1.8	16.8	1.7	3.6	39.4	5.9
小計	2.8	18.3	2.3	4.2	37.2	6.0
子どもがある世帯						
二親世帯(三世代)	0.5	5.8	0.5	2.5	25.1	6.2
二親世帯(二世帯)	0.6	5.3	0.5	0.9	25.7	8.1
ひとり親世帯(三世代)	1.6	6.4	0.0	0.0	39.6	2.1
ひとり親世帯(二世帯)	1.8	5.8	0.4	0.5	33.2	11.3
その他有子世帯	3.6	17.4	8.7	7.7	40.0	0.0
小計	0.7	5.4	0.5	1.1	26.2	7.8

図表 2-3-8 年齢階級別の社会的孤立者の出現率（男女別）

■男性

(%)	会話 欠如型	受領的 サポート 欠如型 (広義)	受領的 サポート 欠如型 (狭義)	提供的 サポート 欠如型	社会参加 欠如型 (広義)	社会参加 欠如型 (狭義)
子どもがない世帯						
単独世帯						
単独高齢男性世帯	14.8	26.3	11.1	17.4	47.5	6.4
単独高齢女性世帯	-	-	-	-	-	-
単独非高齢男性世帯	8.3	32.1	6.9	9.4	52.5	6.0
単独非高齢女性世帯	-	-	-	-	-	-
夫婦のみ世帯						
夫婦ともに高齢者世帯	3.2	12.1	2.2	4.0	26.4	5.6
夫婦の一方が高齢者世帯	0.0	15.8	1.5	5.8	26.4	5.2
夫婦ともに非高齢者世帯	1.4	22.9	1.8	2.2	35.1	7.4
その他世帯						
高齢者のみ世帯	5.9	13.0	5.8	12.7	37.8	9.8
高齢者以外も含む世帯	2.7	17.7	2.6	4.6	41.4	5.0
小計	3.8	19.4	3.3	5.5	39.1	5.7
子どもがある世帯						
二親世帯(三世代)	0.9	6.0	0.3	2.4	24.2	4.7
二親世帯(二世代)	0.8	5.4	0.7	1.4	29.5	7.9
ひとり親世帯(三世代)	5.0	13.3	0.0	0.0	46.7	6.7
ひとり親世帯(二世代)	3.2	10.4	2.1	0.0	50.9	7.5
その他有子世帯	7.7	10.0	10.0	16.7	30.8	0.0
小計	0.9	5.7	0.7	1.6	29.1	7.2

■女性

(%)	会話 欠如型	受領的 サポート 欠如型 (広義)	受領的 サポート 欠如型 (狭義)	提供的 サポート 欠如型	社会参加 欠如型 (広義)	社会参加 欠如型 (狭義)
子どもがない世帯						
単独世帯						
単独高齢男性世帯	-	-	-	-	-	-
単独高齢女性世帯	5.4	19.2	4.2	9.8	34.8	4.9
単独非高齢男性世帯	-	-	-	-	-	-
単独非高齢女性世帯	4.4	30.2	1.7	2.2	41.0	6.9
夫婦のみ世帯						
夫婦ともに高齢者世帯	1.6	10.8	1.2	2.8	24.6	5.0
夫婦の一方が高齢者世帯	1.2	16.7	0.5	1.2	26.9	5.6
夫婦ともに非高齢者世帯	0.9	22.5	1.2	0.3	36.0	6.3
その他世帯						
高齢者のみ世帯	1.4	11.5	1.9	9.6	44.8	10.3
高齢者以外も含む世帯	1.0	15.9	0.8	2.6	37.5	6.6
小計	1.8	17.3	1.3	2.9	35.3	6.3
子どもがある世帯						
二親世帯(三世代)	0.2	5.6	0.7	2.6	25.9	7.5
二親世帯(二世代)	0.4	5.1	0.3	0.3	22.2	8.3
ひとり親世帯(三世代)	0.0	3.1	0.0	0.0	36.4	0.0
ひとり親世帯(二世代)	1.4	4.5	0.0	0.6	28.4	12.4
その他有子世帯	0.0	23.1	7.7	0.0	50.0	0.0
小計	0.4	5.2	0.4	0.7	23.6	8.4
N数	138	1,032	75	139	2,665	580

(5) 生活保護の受給有無別の出現率

次に、生活保護の受給有無別に孤立者の出現率を図表 2-3-9 に示す。

生活保護を受給している場合、「社会参加欠如型（広義）」の出現率は約7割、「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（広義）」「提供的サポート欠如型」の出現率が2割以上、「受領的サポート欠如型（狭義）」の出現率も1割以上となっており、生活保護を受けていない者を大きく上回っていた。

図表 2-3-9 生活保護の受給有無別の社会的孤立者の出現率（男女別）

(%)	会話欠如型	受領的サポート欠如型（広義）	受領的サポート欠如型（狭義）	提供的サポート欠如型	社会参加欠如型（広義）	社会参加欠如型（狭義）
生活保護						
受けている	22.1	23.9	11.0	26.1	67.9	6.4
受けていない	1.9	14.2	1.6	3.0	33.3	6.6

(6) 孤立要素の重複別の出現率

次に、複数の孤立類型に該当する者の割合を算出した。

「会話欠如型、受領的サポート欠如（広義）型、提供的サポート欠如型、社会参加欠如（広義）型」の4類型では、いずれの定義の孤立にも該当しない人は全体の59.5%いた。2要素以上に該当する人は全体の8.9%いた。

図表 2-3-10 孤立要素の重複別の出現率（広義）

■ 会話欠如型、受領的サポート欠如（広義）型、提供的サポート欠如型、社会参加欠如（広義）型

	全数	男性	女性	60歳未満	60歳以上
0要素に該当	59.5	57.0	62.0	58.1	62.7
1要素に該当					
会話欠如	0.4	0.5	0.2	0.3	0.5
受領的サポート欠如	8.4	8.2	8.6	8.2	9.1
提供的サポート欠如	0.5	0.6	0.3	0.3	0.9
社会参加欠如	22.4	23.3	21.5	24.3	18.0
2要素に該当					
会話＋受領	0.1	0.2	0.0	0.1	0.2
会話＋提供	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1
会話＋社会参加	0.5	0.6	0.3	0.4	0.6
受領＋提供	0.3	0.6	0.1	0.3	0.5
受領＋社会参加	5.3	5.6	5.1	6.2	3.3
提供＋社会参加	0.9	1.1	0.8	0.5	1.8
3要素に該当					
会話＋受領＋提供	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
会話＋受領＋社会参加	0.3	0.4	0.1	0.3	0.3
会話＋提供＋社会参加	0.2	0.3	0.1	0.1	0.4
受領＋提供＋社会参加	0.9	1.2	0.6	0.7	1.3
4要素に該当	0.2	0.3	0.1	0.2	0.3
【再掲】2要素以上に該当	8.9	10.4	7.4	8.9	8.8
N数	10,713	5,315	5,398	7,402	3,311

「会話欠如型、受領的サポート欠如（狭義）型、提供的サポート欠如型、社会参加欠如（狭義）型」の4類型では、いずれの定義の孤立にも該当しない人は全体の88.0%いた。2要素以上に該当する人は全体の1.4%いた。

図表 2-3-1 1 孤立要素の重複別の出現率（狭義）

■会話欠如型、受領的サポート欠如（狭義）型、提供的サポート欠如型、社会参加欠如（狭義）型

	全数	男性	女性	60歳未満	60歳以上
0要素に該当	88.0	86.9	89.1	88.5	86.8
1要素に該当					
会話欠如	1.0	1.3	0.7	0.9	1.2
受領的サポート欠如	0.8	1.0	0.5	0.8	0.8
提供的サポート欠如	2.1	2.6	1.5	1.4	3.5
社会参加欠如	6.9	6.2	7.5	7.5	5.5
2要素に該当					
会話＋受領	0.2	0.4	0.0	0.2	0.2
会話＋提供	0.4	0.5	0.2	0.2	0.6
会話＋社会参加	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
受領＋提供	0.5	0.7	0.2	0.4	0.7
受領＋社会参加	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
提供＋社会参加	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1
3要素に該当					
会話＋受領＋提供	0.2	0.3	0.1	0.1	0.3
会話＋受領＋社会参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
会話＋提供＋社会参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
受領＋提供＋社会参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
4要素に該当	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【再掲】2要素以上に該当	1.4	2.1	0.7	1.0	2.2
N数	10,713	5,315	5,398	7,402	3,311

第4章 社会的孤立者が陥りやすいリスクの検討

ここでは、第2章で定めた孤立の4類型（6種類）別に社会的孤立者の置かれている状況を、社会的に孤立していない層との比較から明らかにしていく。

（1）生活に関する状況

① 経済的な困窮

経済的な困窮については、「生活と支え合いに関する調査（2017）」世帯票より食料を買えない経験¹⁹、衣料を買えない経験²⁰、公共料金等の未払いの経験²¹の設問を用いる。それぞれの経験が「あった」者の割合を、孤立者と非孤立者別に集計した。

¹⁹ 「あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。」の問に対し「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」「まったくなかった」の4択の選択肢が設けられている。ここでは「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」のいずれかを回答した場合を「あった」群として集計している。

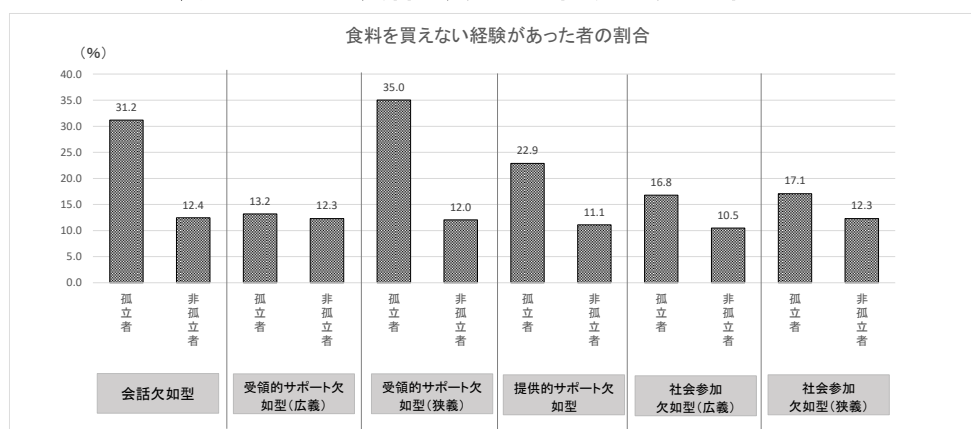
²⁰ 「あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣料が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。」の問に対し、上記の食料と同様の選択肢が設けられており、同様に「あった」群を設定している。

²¹ 「あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で公共料金の未払い、家賃・住宅ローンの滞納、債務の返済ができないことがありましたか。」の問と「電気料金の未払い」「ガス料金の未払い」「水道料金の未払い」「電話代の未払い」「家賃の滞納」「住宅ローンの滞納」「住民税の滞納」「その他の債務不履行」の8場面が提示されており、それぞれに「あった」「なかった」「該当しない」の3択の選択肢が設けられている。ここでは8場面のうち1つ以上「あった」と回答した場合を「あった」群として集計している。

図表 2-4-1 は食料を買えない経験について集計している。「会話欠如型」「受領的サポート欠如型(狭義)」「提供的サポート欠如型」において、孤立者のほうが、非孤立者と比較して、食料を買えない経験があった者の割合が 20 ポイント程度高くなっていた。

「受領的サポート欠如型(広義)」「社会参加欠如型(広義)」「社会参加欠如型(狭義)」では顕著な差はみられなかった。

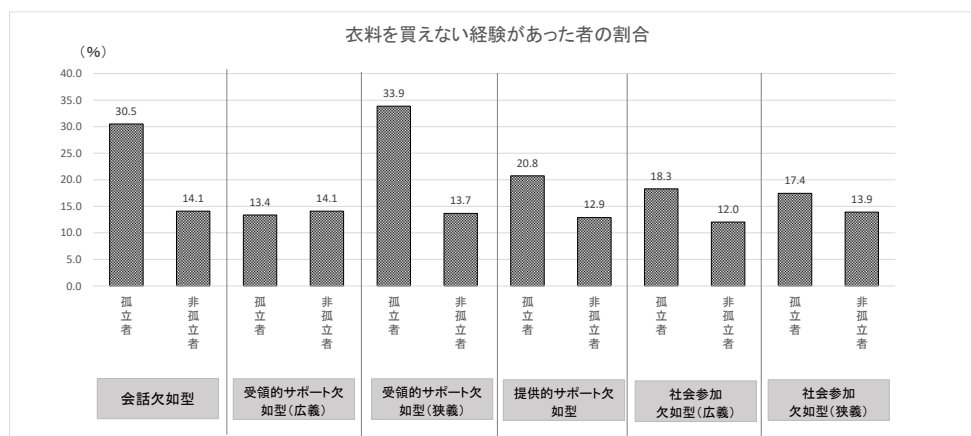
図表 2-4-1 食料を買えない経験があった者の割合



図表 2-4-2 は衣料を買えない経験の集計である。「会話欠如型」「受領的サポート欠如型(狭義)」においては、孤立者のほうが、非孤立者と比較して、衣料を買えない経験があった者の割合が 20 ポイント程度高くなっていた。「提供的サポート欠如型」では孤立者のほうが 10 ポイント程度高くなっていた。

「受領的サポート欠如型(広義)」「社会参加欠如型(広義)」「社会参加欠如型(狭義)」では顕著な差はみられなかった。

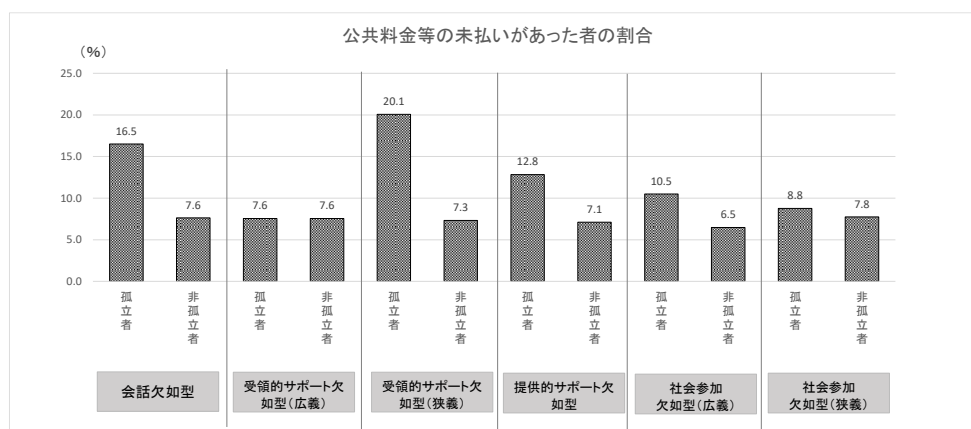
図表 2-4-2 衣料を買えない経験があった者の割合



図表 2-4-3 では、公共料金等の未払いのあった者の割合を示している。「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」においては、孤立者のほうが、非孤立者と比較して、公共料金等の未払いがあった者の割合が 10 ポイント程度高くなっていた。

「受領的サポート欠如型（広義）」「提供的サポート欠如型」「社会参加欠如型（広義）」「社会参加欠如型（狭義）」では顕著な差はみられなかった。

図表 2-4-3 公共料金等の未払いがあった者の割合



経済的な困窮を男女別、年齢別（60歳未満・以上）で集計した表を図表 2-4-4 に示す。

特に、60歳以上で「受領的サポート欠如型（狭義）」においては、孤立者のほうが、食材を買えない経験、衣料を買えない経験があった者の割合が30ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-4 経済的な困窮（男女別、年齢別）

■男性													
(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供のサポート欠如型	提供のサポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)	
食料を買えない経験													
あった(よくときどき・まれに)	30.1	12.5	13.5	12.6	33.5	12.2	24.1	10.9	17.1	10.4	18.9	12.4	
まったくなかった	69.9	87.5	86.5	87.4	66.5	87.8	76.0	89.1	82.9	89.6	81.1	87.6	
N数	266	8,693	1,108	6,192	182	7,118	262	5,966	2,864	5,089	492	7,461	
衣料を買えない経験													
あった(よくときどき・まれに)	30.2	13.8	13.6	14.1	33.2	13.5	21.5	12.4	18.0	11.7	19.3	13.6	
まったくなかった	69.8	86.2	86.4	85.9	66.9	86.5	78.5	87.6	82.0	88.3	80.7	86.4	
N数	265	8,688	1,109	6,188	181	7,116	261	5,964	2,865	5,083	492	7,456	
公共料金等の未払い													
あった(※)	15.6	7.9	8.3	7.8	18.2	7.6	13.1	7.3	10.9	6.8	10.8	8.1	
いずれもなかった	84.5	92.1	91.8	92.2	81.8	92.4	86.9	92.8	89.1	93.2	89.3	91.9	
N数	238	8,094	1,067	5,859	170	6,756	236	5,695	2,667	4,849	465	7,051	
■女性													
(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供のサポート欠如型	提供のサポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)	
食料を買えない経験													
あった(よくときどき・まれに)	33.3	12.4	12.8	12.0	38.7	11.9	20.7	11.3	16.5	10.6	15.6	12.3	
まったくなかった	66.7	87.6	87.2	88.0	61.3	88.1	79.3	88.7	83.5	89.4	84.4	87.8	
N数	138	9,668	1,024	6,679	75	7,628	140	6,296	2,685	5,764	585	7,864	
衣料を買えない経験													
あった(よくときどき・まれに)	31.1	14.4	13.1	14.2	35.6	13.8	19.4	13.3	18.6	12.3	15.9	14.2	
まったくなかった	68.9	85.6	86.9	85.8	64.4	86.2	80.6	86.7	81.4	87.7	84.1	85.8	
N数	135	9,658	1,023	6,680	73	7,630	139	6,299	2,681	5,766	586	7,861	
公共料金等の未払い													
あった(※)	18.6	7.4	6.8	7.3	24.6	7.1	12.3	7.0	10.1	6.2	7.1	7.5	
いずれもなかった	81.4	92.6	93.2	92.7	75.4	92.9	87.7	93.0	89.9	93.8	92.9	92.5	
N数	113	8,952	970	6,292	69	7,193	130	5,992	2,486	5,437	550	7,373	
■60歳未満													
(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供のサポート欠如型	提供のサポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)	
食料を買えない経験													
あった(よくときどき・まれに)	36.4	13.2	12.3	13.2	28.3	12.8	20.7	12.0	16.5	10.6	16.6	13.0	
まったくなかった	63.6	86.8	87.7	86.8	71.7	87.2	79.3	88.0	83.5	89.4	83.5	87.1	
N数	154	10,584	1,370	7,827	138	9,059	174	8,212	2,685	5,764	737	9,403	
衣料を買えない経験													
あった(よくときどき・まれに)	37.9	15.4	13.0	15.6	28.7	15.0	20.2	14.2	18.4	13.6	17.1	15.2	
まったくなかった	62.1	84.6	87.0	84.4	71.3	85.0	79.8	85.8	81.6	86.4	82.9	84.8	
N数	153	10,588	1,368	7,832	136	9,064	173	8,213	2,685	5,768	738	9,405	
公共料金等の未払い													
あった(※)	21.5	9.2	8.6	9.0	18.1	8.8	13.1	8.5	11.1	8.1	10.2	9.1	
いずれもなかった	78.5	90.8	91.4	91.1	82.0	91.2	86.9	91.5	88.9	91.9	89.8	90.9	
N数	149	10,037	1,319	7,482	133	8,668	160	7,863	3,431	6,226	703	8,954	
■60歳以上													
(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供のサポート欠如型	提供のサポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)	
食料を買えない経験													
あった(よくときどき・まれに)	28.0	11.4	14.7	10.9	42.9	10.8	24.6	9.3	17.8	9.0	18.2	11.3	
まったくなかった	72.0	88.6	85.3	89.1	57.1	89.2	75.4	90.7	82.2	91.1	81.8	88.7	
N数	250	7,777	762	5,044	119	5,687	228	4,050	1,916	4,346	340	5,922	
衣料を買えない経験													
あった(よくときどき・まれに)	25.9	12.3	14.0	11.8	39.8	11.5	21.2	10.3	18.2	9.6	18.2	11.9	
まったくなかった	74.1	87.7	86.0	88.2	60.2	88.5	78.9	89.7	81.8	90.4	81.8	88.1	
N数	247	7,758	764	5,036	118	5,682	227	4,050	1,911	4,341	340	5,912	
公共料金等の未払い													
あった(※)	12.9	5.4	5.7	5.3	22.6	5.0	12.6	4.3	9.3	3.9	5.5	5.5	
いずれもなかった	87.1	94.6	94.3	94.7	77.4	95.0	87.4	95.7	90.7	96.1	94.6	94.5	
N数	202	7,009	718	4,669	106	5,281	206	3,824	1,722	4,060	312	5,470	

② 現在の暮らし向き

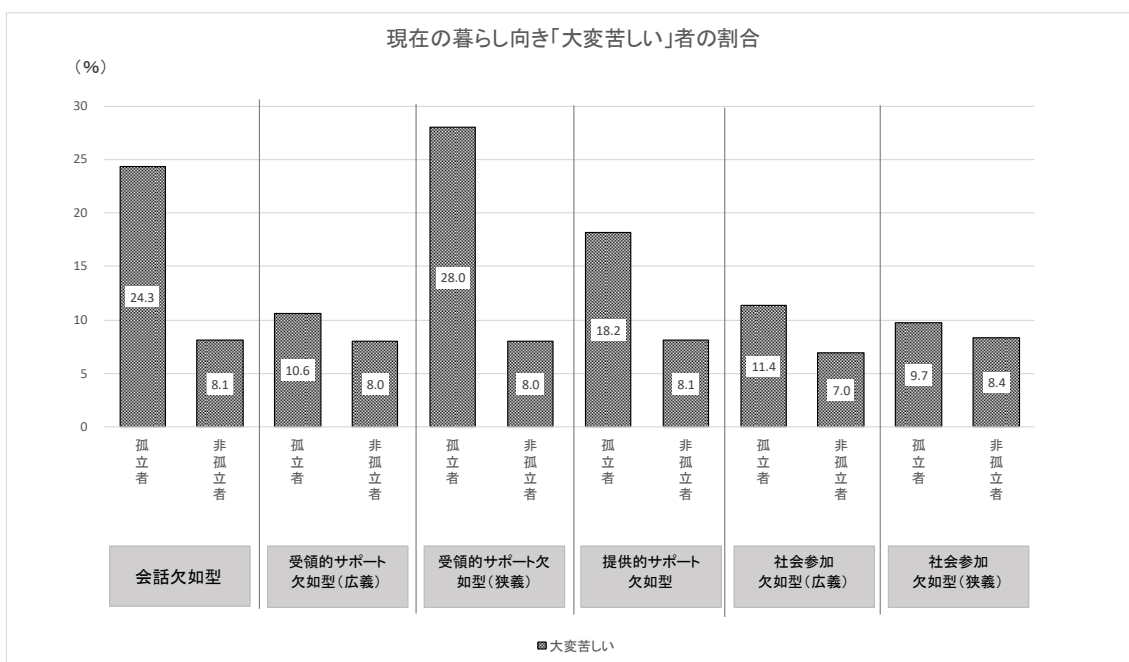
現在の暮らし向きについては、「あなたの暮らし向きについておたずねします」との問に対して、「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」「普通」「やや苦しい」「大変苦しい」の5つの選択肢が設けられている。回答の分布を、孤立者と非孤立者別に集計したものが図表 2-4-5 である。

「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的サポート欠如型」においては、孤立者で暮らし向きが「大変苦しい」という人の割合が2～3割となっており、非孤立者と比べると10～20ポイント高くなっていた。

他の類型では、孤立者と非孤立者の間に顕著な差は見られなかった。

図表 2-4-5 現在の暮らし向きの割合

(%)	会話欠如型		受領的サポート欠如型(広義)		受領的サポート欠如型(狭義)		提供的サポート欠如型		社会参加欠如型(広義)		社会参加欠如型(狭義)	
	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者
大変ゆとりがある	2.2	2.0	2.9	1.9	1.1	2.1	2.2	2.2	2.1	2.0	2.1	2.0
ややゆとりがある	1.5	9.3	10.6	9.6	3.0	9.8	3.9	10.2	6.9	10.6	11.1	9.2
普通	40.7	55.3	54.0	54.8	38.4	55.0	49.2	54.8	52.4	55.9	49.7	55.1
やや苦しい	31.3	25.4	22.0	25.8	29.5	25.2	26.6	24.8	27.2	24.6	27.5	25.3
大変苦しい	24.3	8.1	10.6	8.0	28.0	8.0	18.2	8.1	11.4	7.0	9.7	8.4
N数	415	18,732	2,181	13,149	268	15,062	413	12,508	5,665	11,045	1,103	15,607



現在の暮らし向きを男女別で集計した表を図表 2-4-6 に示す。

男女別にみると、特に男性で「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的支持欠如型」の孤立者において、非孤立者と比較して「大変苦しい」と回答した者の割合が 10～20 ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-6 現在の暮らし向きの割合（男女別）

■男性

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的支持欠如型	提供的支持非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
大変ゆとりがある	1.8	1.7	2.9	1.6	0.5	1.9	1.5	1.9	1.8	1.8	1.4	1.8
ややゆとりがある	1.8	9.5	9.9	9.8	2.6	10.0	3.6	10.3	7.0	10.8	12.2	9.2
普通	42.5	55.1	53.5	55.1	38.5	55.3	47.6	55.2	52.4	56.2	48.6	55.2
やや苦しい	27.1	25.3	21.6	25.2	29.2	24.5	28.7	24.3	26.9	24.0	28.1	24.9
大変苦しい	26.7	8.4	12.1	8.4	29.2	8.4	18.6	8.3	12.0	7.2	9.8	8.9
N数	273	8,861	1,133	6,317	192	7,258	275	6,078	2,936	5,167	502	7,601

■女性

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的支持欠如型	提供的支持非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
大変ゆとりがある	2.8	2.2	2.9	2.2	2.6	2.2	3.6	2.4	2.4	2.2	2.7	2.2
ややゆとりがある	0.7	9.2	11.3	9.4	4.0	9.7	4.4	10.1	6.9	10.3	10.2	9.2
普通	37.3	55.4	54.5	54.5	38.2	54.7	52.2	54.4	52.5	55.7	50.6	55.0
やや苦しい	39.4	25.5	22.3	26.3	30.3	25.7	22.5	25.2	27.5	25.0	27.0	25.7
大変苦しい	19.7	7.8	9.1	7.7	25.0	7.7	17.4	7.9	10.8	6.8	9.7	7.9
N数	142	9,871	1,048	6,832	76	7,804	138	6,430	2,729	5,878	601	8,006

③ 等価可処分所得

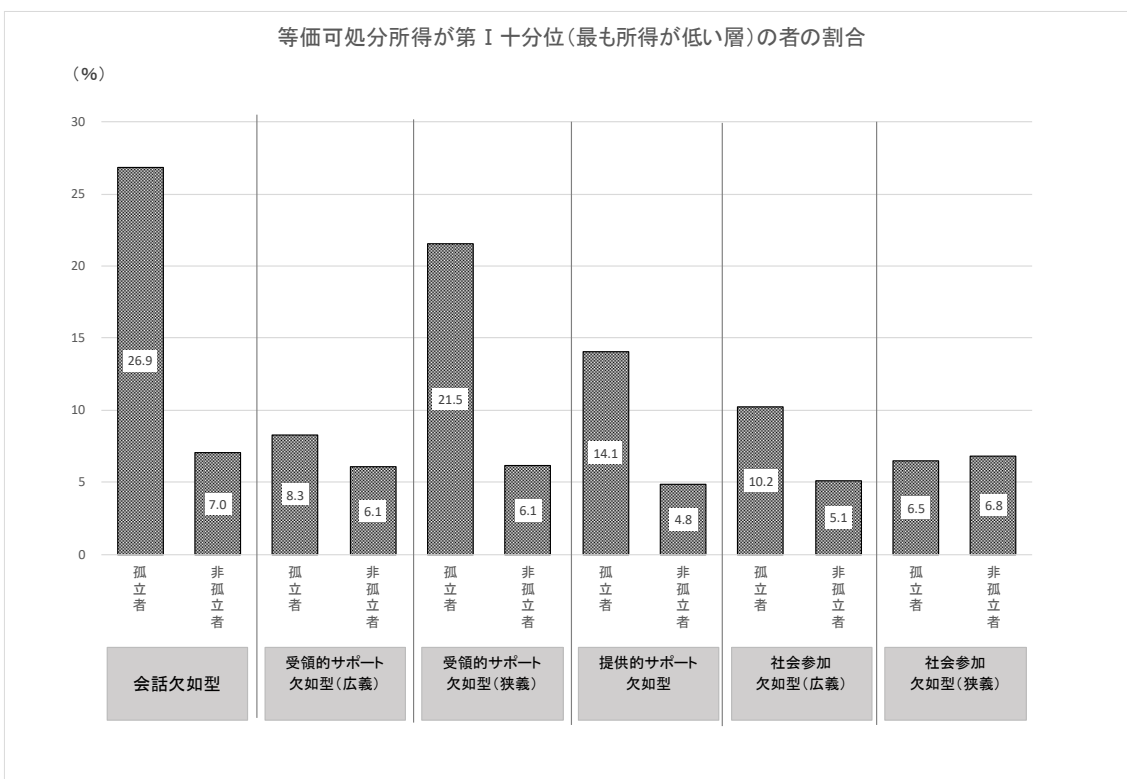
所得については、回答者全体の等価可処分所得の十分位に対して、孤立者・非孤立者の分布を集計したものが図表 2-4-7 である。

「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」においては、孤立者のほうが非孤立者より、「第 I 十分位」の者の割合が 20 ポイント程度高くなっていた。「提供的サポート欠如型」においても 10 ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-7 等価可処分所得の割合

■全体

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
第 I 十分位	26.9	7.0	8.3	6.1	21.5	6.1	14.1	4.8	10.2	5.1	6.5	6.8
第 II 十分位	15.1	7.9	6.7	7.3	14.2	7.1	13.5	6.7	8.8	7.1	9.0	7.5
第 III 十分位	12.9	9.0	8.3	8.4	9.4	8.4	14.6	7.9	9.8	8.3	8.0	8.9
第 IV 十分位	8.9	8.7	7.5	8.6	11.0	8.4	9.9	8.1	8.4	8.5	7.4	8.5
第 V 十分位	8.1	10.2	9.0	10.5	7.7	10.3	8.3	9.8	9.6	10.1	9.2	10.0
第 VI 十分位	6.2	10.2	7.6	10.7	6.1	10.3	5.2	10.6	9.7	10.5	9.7	10.3
第 VII 十分位	9.1	10.7	11.4	11.0	8.9	11.0	7.3	11.7	9.7	11.4	12.6	10.7
第 VIII 十分位	5.1	11.9	12.1	12.2	6.1	12.3	12.0	12.6	11.5	12.5	12.4	12.1
第 IX 十分位	4.3	12.6	14.4	13.1	8.9	13.4	9.4	14.0	12.7	13.1	12.4	13.1
第 X 十分位	3.5	11.7	14.7	12.3	6.1	12.7	5.7	13.8	9.7	13.5	12.8	12.1
N数	372	17,692	2,086	12,576	246	14,416	384	12,034	5,323	10,599	1,048	14,874



④ 仕事の有無

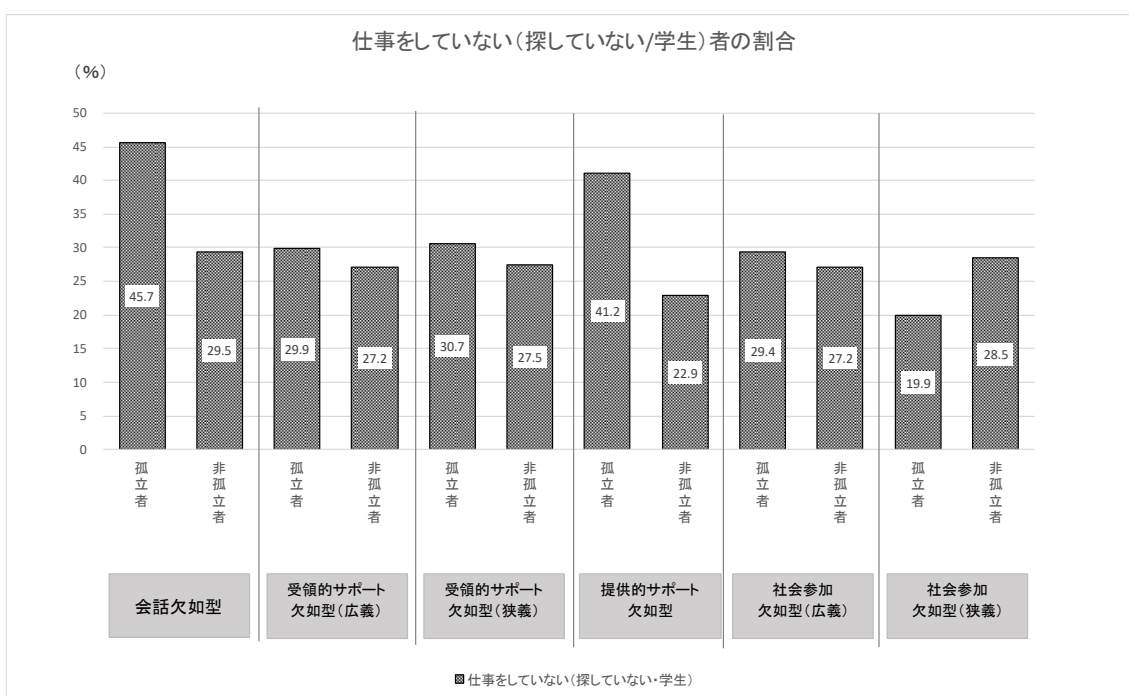
仕事の有無については、「あなたは現在、収入をとまなう仕事をしていますか」との問に対して、「仕事をしている（休業、休職中を含む）」「仕事をしていない（探している）」「仕事をしていない（探していない・学生）」の3つの選択肢が設けられている。回答の分布を、孤立者と非孤立者別に集計したものが図表 2-4-8 である。

「会話欠如型」「提供的サポート欠如型」においては、非孤立者より孤立者のほうが「仕事をしていない（探していない・学生）」者の割合が大幅に高く、4割に達しており、20ポイント弱差がついていた。

他の類型では、孤立者と非孤立者の間に顕著な差は見られなかった。

図表 2-4-8 仕事の有無の割合

(%)	会話欠如型		受領的サポート欠如型(広義)		受領的サポート欠如型(狭義)		提供的サポート欠如型		社会参加欠如型(広義)		社会参加欠如型(狭義)	
	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者
仕事をしている	36.0	63.8	62.6	66.4	56.2	66.0	49.8	71.6	62.2	67.3	72.4	65.1
仕事をしていない(探している)	18.4	6.7	7.5	6.4	13.2	6.5	9.1	5.5	8.5	5.6	7.6	6.5
仕事をしていない(探していない・学生)	45.7	29.5	29.9	27.2	30.7	27.5	41.2	22.9	29.4	27.2	19.9	28.5
N数	370	17,963	2,127	12,769	251	14,645	396	12,329	5,446	10,816	1,063	15,199



仕事の有無を男女別、年齢別（60歳未満・以上）に集計した表を図表 2-4-9 に示す。

男女別にみると、女性において「仕事をしていない（探していない・学生）」人の割合が高く、特に「提供的支持欠如型」では孤立者と非孤立者の間に 35 ポイントの差がついていた。

年齢別にみると、60歳以上では孤立者・非孤立者ともに仕事をしていない割合が高い。60歳未満では、「会話欠如型」「受領的支持欠如型（広義）」の孤立者において仕事をしていない割合が 2 割程度となり、非孤立者と比較して 6～9 ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-9 仕事の有無の割合（男女別・年齢別）

■男性

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持欠如型(狭義)	受領的支持欠如型(狭義)	提供的支持欠如型	提供的支持欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加欠如型(狭義)
仕事をしている	38.2	72.7	68.4	75.3	56.0	74.7	60.4	78.7	70.4	76.2	81.4	73.6
仕事をしていない(探している)	20.5	5.5	7.3	5.2	14.1	5.3	8.9	4.7	8.4	4.1	6.6	5.6
仕事をしていない(探していない・学生)	41.3	21.8	24.4	19.5	29.9	20.0	30.7	16.6	21.2	19.8	12.0	20.8
N数	254	8,603	1,113	6,167	184	7,096	270	5,996	2,842	5,083	484	7,441

■女性

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持欠如型(狭義)	受領的支持欠如型(狭義)	提供的支持欠如型	提供的支持欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加欠如型(狭義)
仕事をしている	31.0	55.7	56.2	58.0	56.7	57.8	27.0	64.8	53.2	59.3	64.9	56.8
仕事をしていない(探している)	13.8	7.8	7.8	7.6	10.5	7.6	9.5	6.3	8.6	7.0	8.5	7.4
仕事をしていない(探していない・学生)	55.2	36.5	36.0	34.4	32.8	34.6	63.5	28.9	38.3	33.7	26.6	35.8
N数	116	9,360	1,014	6,602	67	7,549	126	6,333	2,604	5,733	579	7,758

■60歳未満

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持欠如型(狭義)	受領的支持欠如型(狭義)	提供的支持欠如型	提供的支持欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加欠如型(狭義)
仕事をしている	54.8	80.7	75.0	82.6	73.6	81.6	75.1	83.3	75.6	83.3	83.6	80.3
仕事をしていない(探している)	22.6	5.5	6.8	5.4	12.5	5.5	9.9	4.8	7.8	4.6	5.9	5.7
仕事をしていない(探していない・学生)	22.6	13.8	18.2	12.0	13.9	12.9	14.9	11.9	16.6	12.1	10.5	14.0
N数	155	10,718	1,386	7,951	144	9,193	181	8,341	3,683	6,602	744	9,541

■60歳以上

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持欠如型(狭義)	受領的支持欠如型(狭義)	提供的支持欠如型	提供的支持欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加欠如型(狭義)
仕事をしている	22.3	38.9	39.3	39.6	32.7	39.7	28.4	47.1	34.2	42.1	46.4	39.4
仕事をしていない(探している)	15.4	8.4	8.9	8.2	14.0	8.1	8.4	7.1	9.9	7.2	11.6	7.8
仕事をしていない(探していない・学生)	62.3	52.7	51.8	52.2	53.3	52.2	63.3	45.8	56.0	50.7	42.0	52.8
N数	215	7,245	741	4,818	107	5,452	215	3,988	1,763	4,214	319	5,658

(2) 健康関連項目

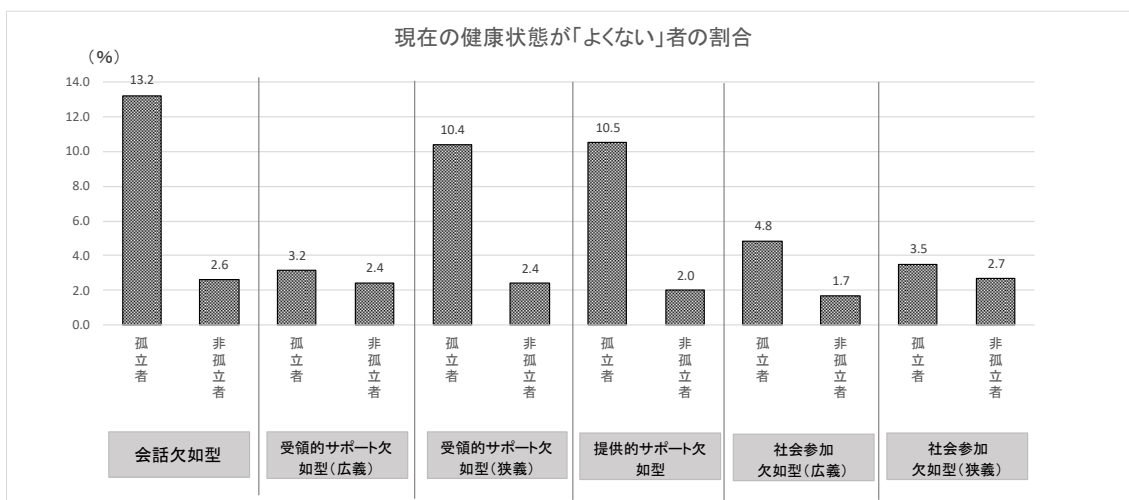
① 健康状態

健康状況については、「あなたの現在の健康状況はいかがですか」との問いに対して、「よい」「まあよい」「ふつう」「あまりよくない」「よくない」の5つの選択肢が設けられている。回答の分布を、孤立者と非孤立者別に集計したものが図表 2-4-10 である。

「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的サポート欠如型」においては、孤立者のほうが、非孤立者と比較して、健康状態が「よくない」ものの割合が10ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-10 現在の健康状態の割合

(%)	会話欠如型		受領的サポート欠如型(広義)		受領的サポート欠如型(狭義)		提供的サポート欠如型		社会参加欠如型(広義)		社会参加欠如型(狭義)	
	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者	孤立者	非孤立者
よい	11.8	23.8	25.3	24.4	14.9	24.7	14.3	26.3	22.5	25.8	24.1	24.7
まあよい	14.0	22.7	22.9	23.6	13.0	23.7	16.5	24.1	19.0	24.6	26.3	22.4
ふつう	35.9	37.1	34.2	36.7	40.2	36.2	33.4	35.9	36.7	36.3	33.3	36.7
あまりよくない	25.1	13.9	14.5	12.9	21.6	13.0	25.3	11.6	16.9	11.6	12.8	13.5
よくない	13.2	2.6	3.2	2.4	10.4	2.4	10.5	2.0	4.8	1.7	3.5	2.7
N数	423	18,872	2,186	13,181	269	15,098	419	12,550	5,708	11,087	1,106	15,689



健康状態を男女別、年齢別（60歳未満・以上）で集計した表を図表 2-4-1 1 に示す。

特に、女性の「会話欠如型」「提供的サポート欠如型」、60歳以上の「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的サポート欠如型」においては、孤立者の健康状態が「よくない」割合が、非孤立者と比較して10ポイント以上差をつけて高くなっていた。

図表 2-4-1 1 現在の健康状態（男女別、年齢別）

■男性

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
よい	13.3	24.7	27.0	24.8	15.6	25.3	19.6	26.5	23.4	26.4	27.0	25.2
まあよい	16.9	22.8	22.4	23.7	12.0	23.8	18.2	24.0	19.7	24.5	24.7	22.6
ふつう	34.9	36.6	34.6	36.2	41.7	35.8	34.6	35.9	37.1	35.7	31.2	36.6
あまりよくない	23.4	13.5	13.2	13.0	21.9	12.8	20.4	11.7	15.6	11.8	13.9	13.1
よくない	11.5	2.5	2.8	2.3	8.9	2.2	7.1	1.9	4.2	1.7	3.2	2.5
N数	278	8,927	1,134	6,332	192	7,274	280	6,093	2,958	5,184	503	7,639

■女性

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
よい	9.0	23.1	23.5	24.0	13.0	24.1	3.6	26.1	21.6	25.3	21.7	24.3
まあよい	8.3	22.6	23.4	23.5	15.6	23.6	13.0	24.2	18.3	24.7	27.7	22.3
ふつう	37.9	37.5	33.8	37.1	36.4	36.6	30.9	36.0	36.3	36.8	35.0	36.8
あまりよくない	28.3	14.2	15.9	12.8	20.8	13.2	35.3	11.6	18.2	11.5	11.8	13.8
よくない	16.6	2.7	3.5	2.6	14.3	2.6	17.3	2.1	5.5	1.7	3.8	2.8
N数	145	9,945	1,052	6,849	77	7,824	139	6,457	2,750	5,903	603	8,050

■60歳未満

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
よい	17.1	32.7	32.4	32.4	21.2	32.6	23.7	33.1	29.7	34.4	30.8	32.9
まあよい	14.6	24.4	23.6	25.2	13.7	25.1	19.4	25.3	21.0	26.1	28.0	24.0
ふつう	36.6	33.4	31.5	33.2	41.1	32.9	38.7	32.5	36.4	31.5	32.0	33.4
あまりよくない	19.5	8.1	10.4	8.0	19.9	8.1	13.4	7.9	10.5	7.0	8.3	8.3
よくない	12.2	1.3	2.1	1.3	4.1	1.3	4.8	1.3	2.4	1.0	0.9	1.5
N数	164	10,867	1,402	8,025	146	9,281	186	8,419	3,747	6,666	757	9,656

■60歳以上

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
よい	8.5	11.8	12.6	11.9	7.3	12.1	6.9	12.5	8.8	12.8	9.7	11.7
まあよい	13.5	20.3	21.6	21.1	12.2	21.4	14.2	21.7	15.3	22.2	22.6	19.9
ふつう	35.5	42.0	38.9	42.0	39.0	41.6	29.2	43.0	37.5	43.6	36.1	42.0
あまりよくない	28.6	21.6	21.8	20.7	23.6	20.8	34.8	19.3	29.0	18.6	22.4	21.8
よくない	13.9	4.4	5.1	4.3	17.9	4.1	15.0	3.4	9.5	2.8	9.2	4.6
N数	259	8,005	784	5,156	123	5,817	233	4,131	1,961	4,421	349	6,033

② 抑うつ・不安症状

抑うつ・不安症状については、「あなたの気持ちはどのようなものでしたか」(1) 周りの物事に神経過敏に感じた(2) 何かに絶望的だと感じた(3) そわそわ落ち着かなく感じた(4) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた(5) 何をするのも面倒くさいと感じた(6) 自分は価値のない人間だと感じたとの間に対して、「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」「まったくない」の5つの選択肢が設けられている。

これはケスラー心理的尺度(K6)の日本語版調査項目である。米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。質問について5段階(「まったくない」(0点)、「少しだけ」(1点)、「ときどき」(2点)、「たいてい」(3点)、「いつも」(4点))で点数化する。合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性がある²²とされている。

回答の分布を、孤立者と非孤立者別に集計したものが図表 2-4-1 2～2-4-1 8である。

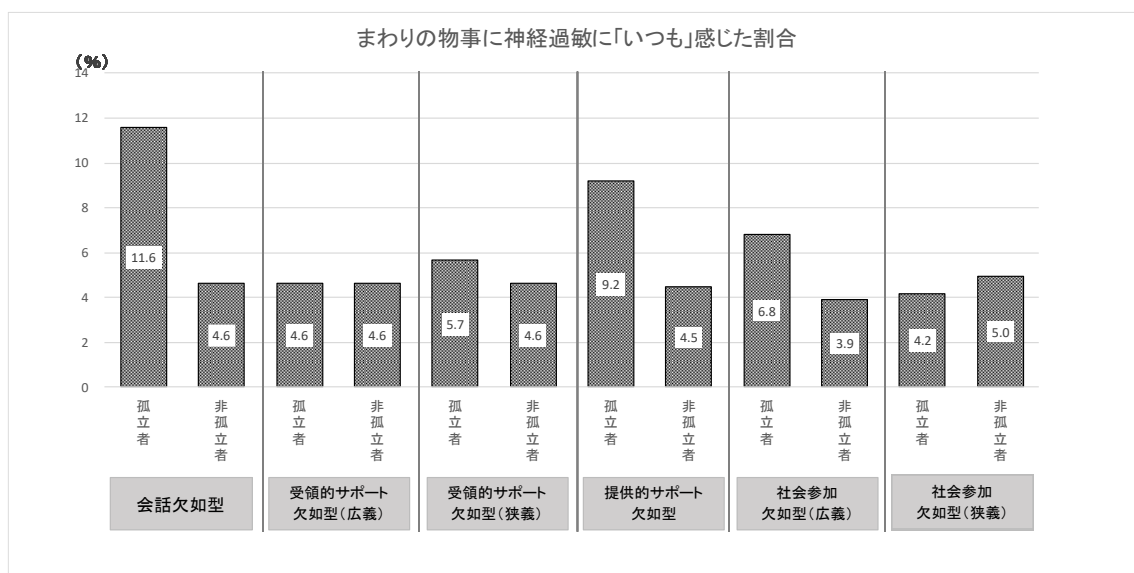
²² 国立精神・神経医療研究センター「国民生活基礎調査・K6」説明ページより
(<https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/pdf/K6setsumei.pdf>, 2021/3/31accessed)

図表 2-4-1 2によると、まわりの物事に神経過敏に感じた割合について、「いつも」と選択された割合を比較すると、「会話欠如型」「提供的支持欠如型」において、孤立者のほうが非孤立者よりも5ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-1 2 まわりの物事に神経過敏に感じた割合

■全体

(%)		会話欠如型	会話非欠如型	受領的支持欠如型(広義)	受領的支持非欠如型(広義)	受領的支持欠如型(狭義)	受領的支持非欠如型(狭義)	提供的支持欠如型	提供的支持非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
(1) 神経過敏	いつも	11.6	4.6	4.6	4.6	5.7	4.6	9.2	4.5	6.8	3.9	4.2	5.0
	たいてい	9.1	6.8	6.9	7.1	9.8	7.0	7.7	7.2	8.5	6.3	8.8	6.9
	ときどき	34.0	30.7	28.8	31.5	30.9	31.1	24.6	30.6	29.9	31.1	35.2	30.4
	少しだけ	20.9	26.8	25.8	26.6	25.3	26.5	21.3	26.5	23.2	27.5	26.7	26.0
	まったくない	24.4	31.1	33.9	30.2	28.3	30.8	37.2	31.1	31.5	31.2	25.1	31.8
	N数	406	18,743	2,177	13,139	265	15,051	414	12,515	5,666	11,058	1,097	15,627

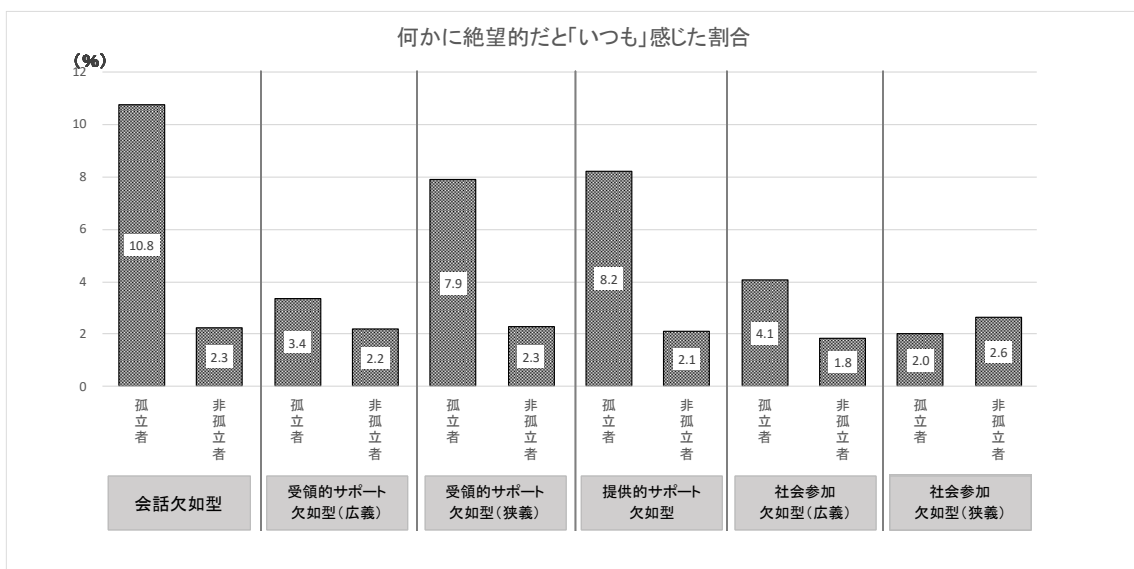


図表 2-4-1 3によると、何かに絶望的だと感じた割合について、「いつも」と選択された割合を比較すると、「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的支持欠如型」においては、孤立者のほうが非孤立者よりも5ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-1 3 何かに絶望的だと感じた割合

■全体

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的支持欠如型	提供的支持非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
(2) 絶望的												
いつも	10.8	2.3	3.4	2.2	7.9	2.3	8.2	2.1	4.1	1.8	2.0	2.6
たいてい	7.1	3.2	4.9	3.1	9.0	3.2	5.3	3.4	4.8	2.6	4.8	3.3
ときどき	23.2	13.8	16.2	13.8	25.6	14.0	21.0	13.7	17.7	12.3	15.7	14.0
少しだけ	24.2	22.5	20.9	22.2	24.8	22.0	16.4	21.8	22.8	21.7	25.0	21.9
まったくない	34.7	58.3	54.6	58.7	32.7	58.6	49.0	58.9	50.6	61.5	52.6	58.2
N数	409	18,727	2,178	13,137	266	15,049	414	12,514	5,660	11,068	1,098	15,630

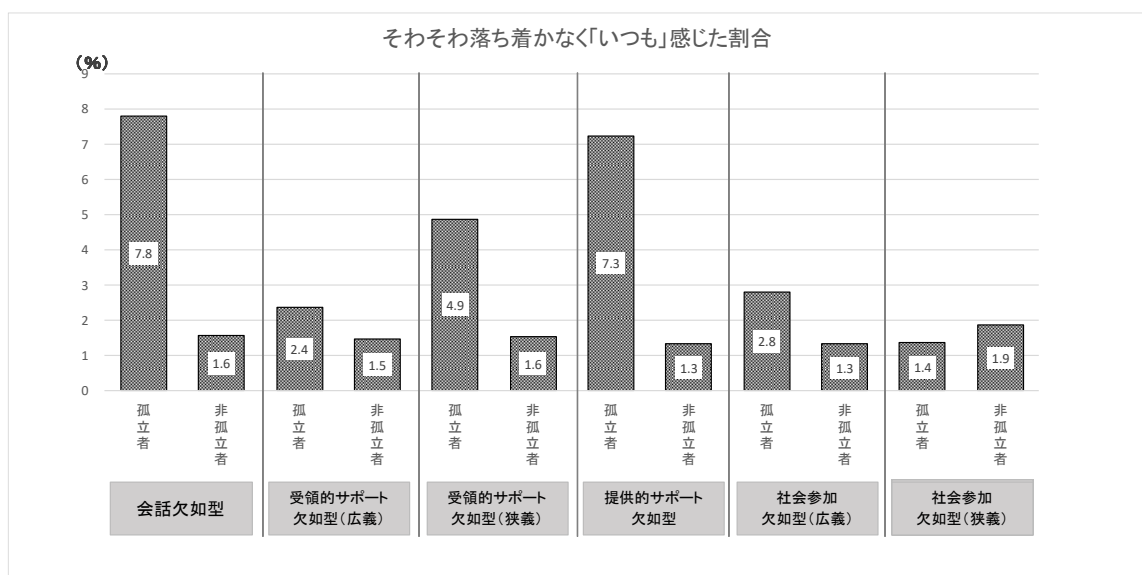


図表 2-4-1 4によると、そろそろ落ち着かなく感じた割合について「いつも」と選択された割合を比較すると、「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的サポート欠如型」においては、孤立者のほうが非孤立者よりも5ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-1 4 そろそろ落ち着かなく感じた割合

■全体

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
(3) 落ち着かない												
いつも	7.8	1.6	2.4	1.5	4.9	1.6	7.3	1.3	2.8	1.3	1.4	1.9
たいてい	8.1	3.0	3.7	3.2	6.4	3.2	4.6	3.3	4.6	2.6	4.5	3.2
ときどき	23.7	15.3	17.6	15.4	27.1	15.5	21.5	15.6	18.3	14.2	17.4	15.5
少しだけ	23.2	28.1	25.0	28.5	25.9	28.0	18.6	27.9	25.7	28.6	30.9	27.4
まったく	37.2	52.0	51.3	51.5	35.7	51.7	48.1	51.8	48.5	53.3	45.8	52.1
N数	409	18,698	2,176	13,123	266	15,033	414	12,502	5,653	11,057	1,096	15,614

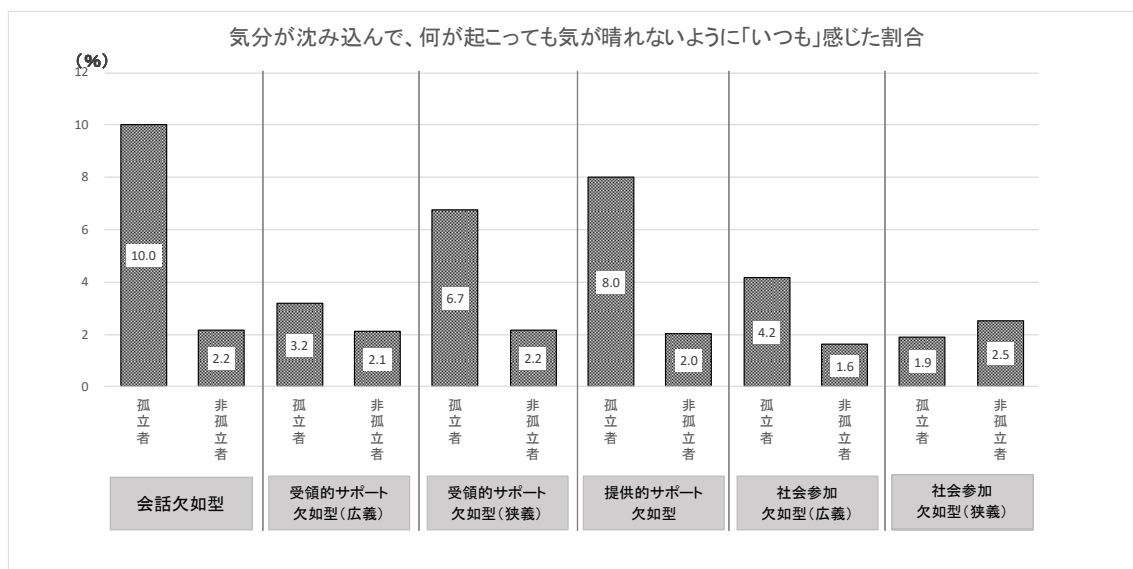


図表 2-4-15において、気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた割合について、「いつも」と選択された割合を比較すると、「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的サポート欠如型」においては、孤立者のほうが非孤立者よりも5ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-15 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた割合

■全体

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
(4) 気分が晴れない												
いつも	10.0	2.2	3.2	2.1	6.7	2.2	8.0	2.0	4.2	1.6	1.9	2.5
たいてい	8.6	3.6	5.1	3.7	8.2	3.8	5.8	4.0	5.5	3.1	5.6	3.8
ときどき	27.9	16.6	17.8	16.8	29.6	16.7	25.4	16.6	20.2	15.4	18.2	16.9
少しだけ	25.7	30.2	27.8	30.5	26.6	30.2	18.4	29.7	28.1	30.3	34.5	29.2
まったく	27.9	47.4	46.1	46.9	28.8	47.1	42.4	47.7	42.0	49.6	39.9	47.6
N数	409	18,724	2,175	13,134	267	15,042	413	12,503	5,658	11,059	1,100	15,617

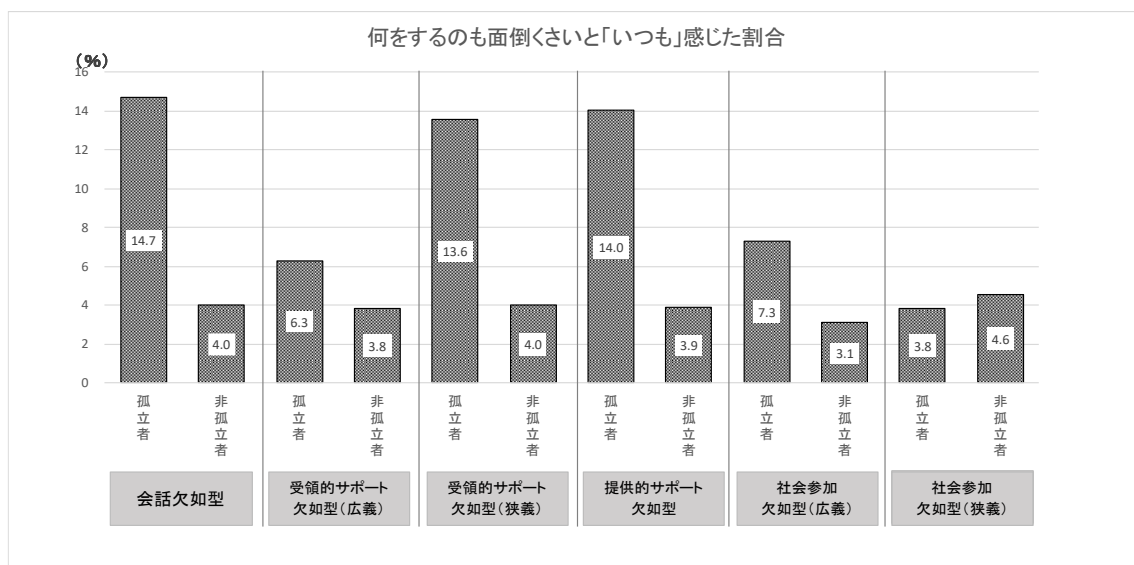


図表 2-4-16において、何をするのも面倒くさいと感じた割合について、「いつも」と選択された割合を比較すると、「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的サポート欠如型」においては、孤立者のほうが非孤立者よりも10ポイント程度高くなっていた。

図表 2-4-16 何をするのも面倒くさいと感じた割合

■全体

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
(5) 面倒くさい												
いつも	14.7	4.0	6.3	3.8	13.6	4.0	14.0	3.9	7.3	3.1	3.8	4.6
たいてい	13.5	6.2	7.9	6.3	10.6	6.5	8.7	6.7	8.6	5.6	6.5	6.6
ときどき	27.6	23.6	24.2	23.8	27.2	23.8	24.9	23.3	25.6	22.9	24.5	23.8
少しだけ	24.7	34.5	30.9	35.0	29.1	34.5	21.3	34.6	30.2	35.9	39.6	33.5
まったくしない	19.6	31.8	30.8	31.1	19.6	31.2	31.2	31.4	28.3	32.6	25.6	31.5
N数	409	18,751	2,175	13,145	265	15,055	414	12,514	5,664	11,066	1,098	15,632

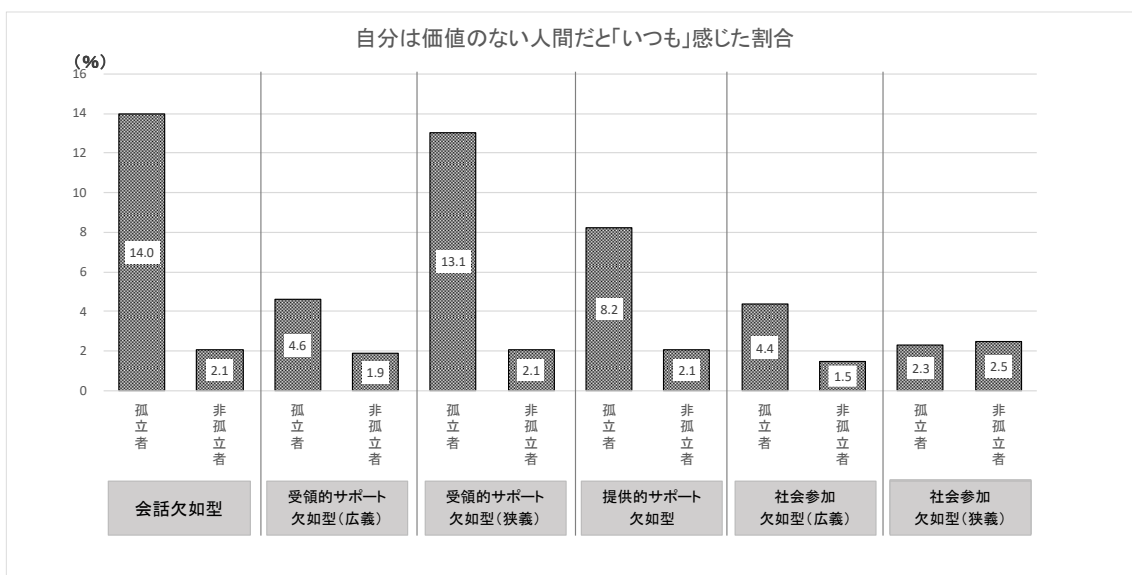


図表 2-4-17において、自分は価値のない人間だと感じた割合について、「いつも」と選択された割合を比較すると、「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」においては、孤立者のほうが非孤立者よりも10ポイント程度高くなっていた。「提供的サポート欠如型」においても、5ポイント程度高く、非孤立者の約4倍の値となっていた

図表 2-4-17 自分は価値のない人間だと感じた割合

■全体

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
(6)価値のない人間												
いつも	14.0	2.1	4.6	1.9	13.1	2.1	8.2	2.1	4.4	1.5	2.3	2.5
たいてい	7.8	2.4	4.0	2.4	7.8	2.6	6.5	2.5	4.1	1.9	3.7	2.6
ときどき	20.6	10.9	13.0	10.8	23.1	10.9	18.8	10.7	14.2	9.6	11.4	11.2
少しだけ	24.3	19.9	18.4	20.2	16.8	20.0	16.2	19.8	21.4	19.0	23.7	19.5
まったくない	33.3	64.7	60.0	64.7	39.2	64.5	50.2	65.0	56.0	68.0	58.9	64.3
N数	408	18,717	2,177	13,134	268	15,043	414	12,510	5,661	11,059	1,098	15,622



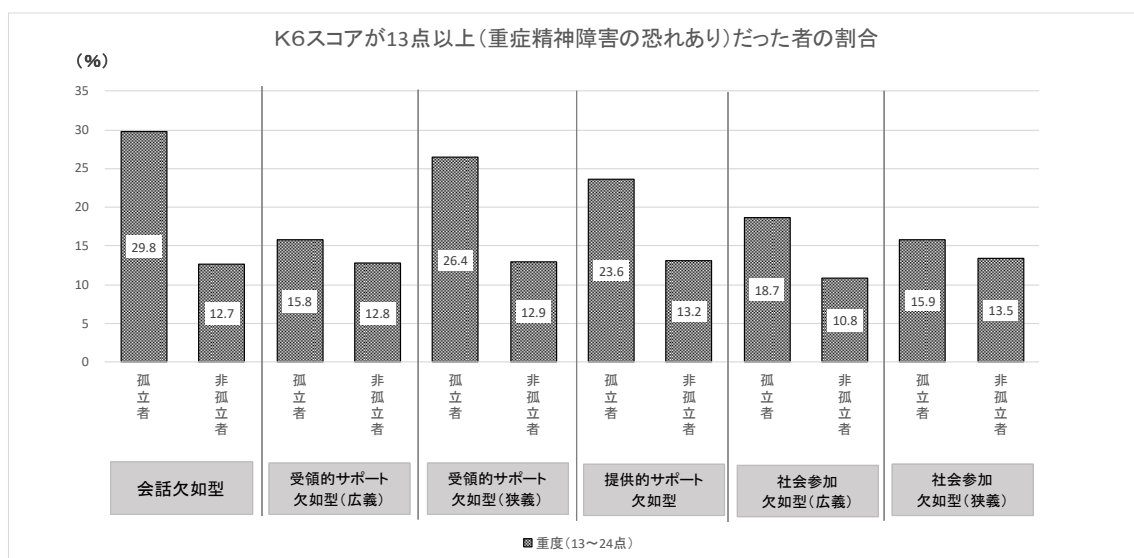
図表 2-4-18では、K6の調査項目について、「いつも：4点」「たいてい：3点」「ときどき：2点」「少しだけ：1点」「まったくない：0点」として合計点数を算出し、精神症状を「陰性（0～4点）」「軽度（5～8点）：何らかのうつ・不安の問題がある可能性」「中等度（9～12点）」「重度（13～24点）：重度のうつ・不安障害が疑われるとされる」として予測している²³。

「重度（13～24点）」と判定された割合を比較すると、「会話欠如型」「受領的サポート欠如型（狭義）」「提供的サポート欠如型」「社会参加欠如型（広義）」においては、孤立者のほうが非孤立者よりも10ポイント程度高くなっており、特に「会話欠如型」では20ポイント近く差がついていた。

図表 2-4-18 K6スコアの割合

■全体

(%)	会話欠如型	会話非欠如型	受領的サポート欠如型(広義)	受領的サポート非欠如型(広義)	受領的サポート欠如型(狭義)	受領的サポート非欠如型(狭義)	提供的サポート欠如型	提供的サポート非欠如型	社会参加欠如型(広義)	社会参加非欠如型(広義)	社会参加欠如型(狭義)	社会参加非欠如型(狭義)
K6スコア												
陰性(0～4点)	11.2	25.0	24.9	24.1	15.6	24.4	26.4	24.7	22.8	25.6	17.1	25.2
軽度(5～8点)	29.5	38.5	34.1	39.2	26.4	38.8	25.5	38.4	32.9	40.7	43.1	37.5
中等度(9～12点)	29.5	23.8	25.2	23.9	31.6	23.9	24.6	23.8	25.6	22.9	24.0	23.8
重度(13～24点)	29.8	12.7	15.8	12.8	26.4	12.9	23.6	13.2	18.7	10.8	15.9	13.5
N数	339	13,475	1,585	9,520	212	10,893	330	9,017	4,318	7,812	813	11,317



²³ 以下の複数の情報を参考にした。

- ・ 国立精神・神経医療研究センター「うつ・不安に対するスクリーニングと支援マニュアル」説明ページより
(https://www.ncnp.go.jp/nimh/behavior/phn/depanx_manual.pdf, 2021/3/31accessed)
- ・ Furukawa TA, et al.(2008) he performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. Int J Methods Psychiatr Res 2008; 17 (3) : 152-8.
- ・ 南部泰士ら (2014) 「介護予防基本チェックリストにおけるうつ項目の検討」 厚生 の 指 標, 61(5), 23-30.

抑うつ・不安症状を男女別、年齢別（60歳未満・以上）で集計した表を図表2-4-19に示す。

図表 2-4-19 気持ちの状況（男女別・年齢別）

■男性

(%)	会話 欠如型	会話 非欠如型	受領的 サポート 欠如型 (広義)	受領的 サポート 非欠如型 (広義)	受領的 サポート 欠如型 (狭義)	受領的 サポート 非欠如型 (狭義)	提供の サポート 欠如型	提供の サポート 非欠如型	社会参加 欠如型 (広義)	社会参加 非欠如型 (広義)	社会参加 欠如型 (狭義)	社会参加 非欠如型 (狭義)	
(1) 神経過敏	いつも	10.1	3.9	3.7	4.1	4.8	4.0	6.9	3.9	5.8	3.3	2.6	4.3
	たいてい	10.1	6.3	6.8	6.5	9.0	6.5	8.0	6.6	8.0	5.8	8.8	6.5
	ときどき	30.0	29.3	27.9	30.0	28.6	29.7	24.5	29.1	29.9	29.2	31.3	29.4
	少しだけ	22.5	26.7	23.8	26.8	27.0	26.3	20.8	26.4	22.6	27.7	26.9	25.7
	まったくない	27.3	33.9	37.8	32.6	30.7	33.5	39.8	34.0	33.7	33.9	30.5	34.1
	N数	267	8,865	1,130	6,312	189	7,253	274	6,080	2,934	5,168	499	7,603
(2) 絶望的	いつも	9.7	2.0	3.2	2.1	6.3	2.1	7.6	2.0	3.7	1.7	2.0	2.5
	たいてい	6.7	3.1	5.1	2.9	8.9	3.1	5.1	3.3	4.5	2.5	3.6	3.2
	ときどき	22.7	12.9	15.2	13.2	24.1	13.2	18.6	12.6	17.9	10.8	15.2	13.2
	少しだけ	22.7	21.7	20.2	21.7	26.7	21.4	17.1	21.4	22.4	21.0	26.6	21.2
	まったくない	38.3	60.2	56.3	60.1	34.0	60.2	51.6	60.8	51.5	64.1	52.6	60.0
	N数	269	8,862	1,132	6,310	191	7,251	275	6,076	2,935	5,171	500	7,606
(3) 落ち着かない	いつも	6.7	1.4	2.4	1.4	4.8	1.5	6.2	1.3	2.5	1.2	0.8	1.7
	たいてい	7.8	2.8	3.6	3.1	4.8	3.1	5.1	3.1	4.4	2.4	3.8	3.1
	ときどき	24.4	14.5	16.6	14.8	24.9	14.8	20.4	14.6	18.0	13.4	16.5	15.0
	少しだけ	23.3	27.5	23.9	28.5	26.5	27.8	17.2	27.6	25.4	28.0	31.6	26.8
	まったくない	37.8	53.7	53.5	52.3	39.2	52.8	51.1	53.5	49.7	55.0	47.3	53.5
	N数	270	8,842	1,129	6,297	189	7,237	274	6,071	2,929	5,162	497	7,594
(4) 気が晴れない	いつも	10.0	2.0	3.2	1.9	7.3	2.0	8.0	1.8	3.9	1.4	1.6	2.4
	たいてい	7.4	3.4	4.7	3.5	7.3	3.6	5.8	3.6	5.1	3.0	5.4	3.6
	ときどき	27.4	14.6	16.1	15.2	28.3	15.0	21.9	14.7	18.7	13.3	17.8	15.1
	少しだけ	23.3	29.3	26.1	30.1	26.7	29.6	18.3	29.0	27.3	29.3	32.7	28.3
	まったくない	31.9	50.7	50.0	49.2	30.4	49.8	46.0	50.9	45.0	53.0	42.5	50.6
	N数	270	8,865	1,132	6,309	191	7,250	274	6,075	2,934	5,168	501	7,601
(5) 面倒くさい	いつも	14.1	3.8	6.3	3.6	12.2	3.8	13.1	3.7	7.2	2.7	2.4	4.4
	たいてい	14.1	5.6	6.3	5.9	8.5	5.9	9.5	5.8	8.0	4.9	7.0	6.0
	ときどき	26.8	21.4	22.1	21.8	28.6	21.6	24.4	20.9	24.5	20.2	21.5	21.8
	少しだけ	23.4	33.6	31.3	34.0	31.8	33.6	21.1	33.9	29.5	35.0	37.8	32.7
	まったくない	21.6	35.6	34.1	34.7	19.1	35.0	32.0	35.7	30.8	37.2	31.3	35.1
	N数	269	8,868	1,129	6,311	189	7,251	275	6,077	2,936	5,169	498	7,607
(6) 価値のない人間	いつも	14.6	1.9	5.0	1.7	12.6	2.0	7.3	2.0	4.2	1.3	1.6	2.4
	たいてい	9.7	2.3	4.1	2.4	7.9	2.5	6.9	2.3	4.4	1.8	4.0	2.6
	ときどき	18.7	10.3	13.2	10.3	20.9	10.5	18.6	9.8	14.1	8.5	10.8	10.5
	少しだけ	22.0	18.7	16.2	19.2	18.3	18.8	15.7	18.4	20.4	17.6	22.2	18.4
	まったくない	35.1	66.8	61.6	66.3	40.3	66.3	51.5	67.5	57.0	70.9	61.3	66.2
	N数	268	8,857	1,132	6,307	191	7,248	274	6,074	2,934	5,167	499	7,602
K6スコア	除性(0~4点)	13.1	29.0	28.6	27.6	16.3	28.1	28.6	28.6	25.4	30.1	22.2	28.7
	軽度(5~8点)	29.0	37.5	33.1	38.2	29.9	37.6	25.9	37.5	32.3	39.8	42.2	36.6
	中等度(9~12点)	28.1	22.3	23.8	22.6	29.3	22.6	24.1	22.1	25.3	20.7	21.4	22.5
	重度(13~24点)	29.9	11.3	14.5	11.6	24.5	11.7	21.4	11.8	17.0	9.5	14.3	12.2
		N数	221	6,355	821	4,584	147	5,258	220	4,348	2,234	3,640	365

■女性

(%)		会話 欠如型	会話 非欠如型	受領的 サポート 欠如型 (広義)	受領的 サポート 非欠如型 (広義)	受領的 サポート 欠如型 (狭義)	受領的 サポート 非欠如型 (狭義)	提供の サポート 欠如型	提供の サポート 非欠如型	社会参加 欠如型 (広義)	社会参加 非欠如型 (広義)	社会参加 欠如型 (狭義)	社会参加 非欠如型 (狭義)
(1) 神経過敏	いつも	14.4	5.3	5.6	5.1	7.9	5.2	13.6	5.0	8.0	4.5	5.5	5.6
	たいてい	7.2	7.3	7.0	7.6	11.8	7.5	7.1	7.9	9.0	6.7	8.9	7.3
	ときどき	41.7	32.1	29.7	32.9	36.8	32.4	25.0	32.1	29.9	32.8	38.5	31.4
	少しだけ	18.0	26.9	28.0	26.4	21.1	26.7	22.1	26.7	23.9	27.3	26.6	26.2
	まったくない	18.7	28.5	29.7	28.0	22.4	28.2	32.1	28.4	29.1	28.8	20.6	29.5
	N数	139	9,878	1,047	6,827	76	7,798	140	6,435	2,732	5,890	598	8,024
(2) 絶望的	いつも	12.9	2.5	3.5	2.3	12.0	2.4	9.4	2.2	4.4	2.0	2.0	2.8
	たいてい	7.9	3.3	4.7	3.2	9.3	3.3	5.8	3.6	5.1	2.8	5.9	3.3
	ときどき	24.3	14.6	17.3	14.4	29.3	14.6	25.9	14.7	17.6	13.6	16.1	14.8
	少しだけ	27.1	23.2	21.7	22.7	20.0	22.6	15.1	22.3	23.2	22.3	23.6	22.5
	まったくない	27.9	56.5	52.8	57.4	29.3	57.1	43.9	57.2	49.7	59.3	52.5	56.6
	N数	140	9,865	1,046	6,827	75	7,798	139	6,438	2,725	5,897	598	8,024
(3) 落ち着かない	いつも	10.1	1.8	2.4	1.6	5.2	1.6	9.3	1.4	3.2	1.4	1.8	2.0
	たいてい	8.6	3.2	3.8	3.3	10.4	3.3	3.6	3.6	4.9	2.7	5.0	3.3
	ときどき	22.3	16.0	18.6	16.0	32.5	16.2	23.6	16.5	18.7	14.9	18.2	16.0
	少しだけ	23.0	28.5	26.2	28.4	24.7	28.2	21.4	28.2	26.0	29.1	30.4	28.0
	まったくない	36.0	50.5	49.0	50.7	27.3	50.7	42.1	50.3	47.2	51.8	44.6	50.8
	N数	139	9,856	1,047	6,826	77	7,796	140	6,431	2,724	5,895	599	8,020
(4) 気が晴れない	いつも	10.1	2.4	3.2	2.3	5.3	2.4	7.9	2.2	4.4	1.8	2.2	2.7
	たいてい	10.8	3.8	5.6	3.8	10.5	4.0	5.8	4.4	6.0	3.2	5.7	4.0
	ときどき	28.8	18.4	19.8	18.2	32.9	18.3	32.4	18.4	21.8	17.2	18.5	18.7
	少しだけ	30.2	31.0	29.7	30.8	26.3	30.7	18.7	30.4	29.0	31.2	35.9	30.1
	まったくない	20.1	44.4	41.8	44.9	25.0	44.7	35.3	44.7	38.8	46.7	37.7	44.7
	N数	139	9,859	1,043	6,825	76	7,792	139	6,428	2,724	5,891	599	8,016
(5) 面倒くさい	いつも	15.7	4.2	6.3	4.0	17.1	4.2	15.8	4.1	7.4	3.5	5.0	4.7
	たいてい	12.1	6.7	9.6	6.6	15.8	7.0	7.2	7.5	9.2	6.2	6.0	7.2
	ときどき	29.3	25.5	26.5	25.6	23.7	25.8	25.9	25.6	26.9	25.2	27.0	25.6
	少しだけ	27.1	35.4	30.5	36.0	22.4	35.4	21.6	35.3	30.8	36.7	41.2	34.3
	まったくない	15.7	28.3	27.2	27.7	21.1	27.7	29.5	27.4	25.7	28.5	20.8	28.1
	N数	140	9,883	1,046	6,834	76	7,804	139	6,437	2,728	5,897	600	8,025
(6) 価値のない人間	いつも	12.9	2.2	4.1	2.0	14.3	2.2	10.0	2.1	4.6	1.7	2.8	2.6
	たいてい	4.3	2.5	3.9	2.5	7.8	2.6	5.7	2.7	3.8	2.1	3.5	2.6
	ときどき	24.3	11.5	12.8	11.2	28.6	11.2	19.3	11.5	14.3	10.7	11.9	11.8
	少しだけ	28.6	21.0	20.8	21.1	13.0	21.1	17.1	21.1	22.6	20.2	24.9	20.6
	まったくない	30.0	62.7	58.4	63.3	36.4	62.9	47.9	62.6	54.9	65.4	56.9	62.4
	N数	140	9,860	1,045	6,827	77	7,795	140	6,436	2,727	5,892	599	8,020
K6スコア	陰性(0~4点)	7.6	21.4	20.9	20.8	13.9	20.9	21.8	21.0	20.0	21.8	13.0	21.8
	軽度(5~8点)	30.5	39.5	35.2	40.2	18.5	39.8	24.6	39.2	33.6	41.4	43.8	38.4
	中等度(9~12点)	32.2	25.2	26.7	25.1	36.9	25.2	25.5	25.3	25.9	24.8	26.1	25.1
	重度(13~24点)	29.7	13.9	17.2	13.9	30.8	14.1	28.2	14.4	20.6	12.0	17.2	14.7
		N数	118	7,120	764	4,936	65	5,635	110	4,669	2,084	4,172	448

■60歳未満

(%)		会話 欠如型	会話 非欠如型	受領的 サポート 欠如型 (広義)	受領的 サポート 非欠如型 (広義)	受領的 サポート 欠如型 (狭義)	受領的 サポート 非欠如型 (狭義)	提供の サポート 欠如型	提供の サポート 非欠如型	社会参加 欠如型 (広義)	社会参加 非欠如型 (広義)	社会参加 欠如型 (狭義)	社会参加 非欠如型 (狭義)
(1)神経 過敏	いつも	16.2	5.1	5.1	5.0	5.6	5.0	8.2	5.0	6.8	4.4	4.5	5.3
	たいてい	12.4	8.2	8.2	8.4	14.7	8.3	10.3	8.3	9.1	7.8	9.3	8.2
	ときどき	31.7	31.2	31.5	31.5	30.1	31.5	22.8	30.9	29.9	31.9	35.0	30.8
	少しだけ	16.8	23.2	21.5	23.4	21.7	23.1	15.2	23.7	21.1	23.9	25.5	22.7
	まったくない	23.0	32.4	33.7	31.7	28.0	32.1	43.5	32.1	33.1	32.0	25.7	33.0
	N数	161	10,816	1,396	8,003	143	9,256	184	8,394	3,725	6,641	752	9,614
(2)絶望 的	いつも	15.3	2.5	3.7	2.5	10.3	2.5	9.7	2.3	3.9	2.1	1.6	2.9
	たいてい	11.0	4.2	6.2	4.0	13.1	4.2	7.6	4.3	5.8	3.4	5.3	4.2
	ときどき	25.2	14.5	18.1	14.2	26.9	14.6	18.4	14.3	17.3	13.3	15.8	14.7
	少しだけ	19.6	20.9	20.4	20.7	20.7	20.7	15.1	20.8	21.5	20.4	22.2	20.7
	まったくない	28.8	57.9	51.7	58.6	29.0	58.0	49.2	58.4	51.6	60.8	55.1	57.7
	N数	163	10,813	1,398	8,005	145	9,258	185	8,395	3,721	6,651	753	9,619
(3)落ち 着かない	いつも	9.3	1.8	2.6	1.7	6.3	1.8	8.7	1.6	2.7	1.6	1.5	2.0
	たいてい	13.6	3.9	4.5	4.0	8.3	4.0	5.4	4.1	5.4	3.3	5.1	3.9
	ときどき	28.4	16.9	19.8	16.7	29.9	16.9	23.2	16.6	18.9	15.9	18.4	16.9
	少しだけ	21.0	26.2	24.1	26.5	24.3	26.2	14.1	26.6	24.5	27.0	28.9	25.9
	まったくない	27.8	51.2	49.1	51.1	31.3	51.1	48.7	51.1	48.5	52.3	46.2	51.3
	N数	162	10,804	1,397	7,994	144	9,247	185	8,386	3,718	6,644	751	9,611
(4)気が 晴れない	いつも	14.8	2.4	3.7	2.4	10.3	2.5	9.2	2.4	4.1	1.9	1.6	2.8
	たいてい	14.2	4.7	6.5	4.5	10.3	4.7	7.6	4.9	6.2	4.1	6.5	4.7
	ときどき	28.4	17.8	19.8	17.9	31.7	17.9	26.6	17.6	20.3	16.9	18.6	18.1
	少しだけ	21.6	28.3	27.3	28.7	21.4	28.6	11.4	28.6	27.0	28.6	32.6	27.6
	まったくない	21.0	46.7	42.6	46.5	26.2	46.3	45.1	46.6	42.4	48.6	40.7	46.8
	N数	162	10,803	1,396	7,997	145	9,248	184	8,385	3,719	6,641	752	9,608
(5)面倒 くさい	いつも	19.1	4.7	6.8	4.6	15.2	4.7	12.4	4.7	7.2	3.8	4.4	5.1
	たいてい	17.9	7.6	10.2	7.3	12.4	7.7	11.4	7.9	9.5	6.8	6.3	7.9
	ときどき	27.2	24.6	26.3	24.6	31.0	24.8	28.7	24.3	25.9	24.1	24.7	24.8
	少しだけ	21.6	31.8	27.6	32.9	24.1	32.3	15.7	32.5	28.6	33.4	37.4	31.2
	まったくない	14.2	31.3	29.2	30.6	17.2	30.6	31.9	30.7	28.9	32.0	27.3	31.1
	N数	162	10,811	1,398	8,002	145	9,255	185	8,393	3,719	6,647	752	9,614
(6)価値 のない人 間	いつも	18.5	2.5	4.9	2.3	14.4	2.5	6.5	2.6	4.6	1.8	2.7	2.8
	たいてい	13.6	3.1	5.2	3.0	10.3	3.2	9.7	3.2	4.7	2.6	4.0	3.3
	ときどき	23.5	11.7	14.7	11.4	26.0	11.7	20.0	11.2	14.2	10.5	11.3	11.9
	少しだけ	17.9	19.4	19.3	19.6	13.7	19.6	13.0	19.7	20.3	18.7	22.5	19.0
	まったくない	26.5	63.3	56.0	63.7	35.6	63.0	50.8	63.4	56.2	66.4	59.6	63.0
	N数	162	10,807	1,399	7,998	146	9,251	185	8,390	3,720	6,645	752	9,613
K6スコア	陰性(0~4点)	9.9	25.6	24.5	24.8	14.7	25.0	30.7	24.9	24.3	25.8	17.9	25.8
	軽度(5~8点)	23.9	35.8	32.2	36.7	20.7	36.2	20.3	36.3	31.6	37.7	42.3	34.9
	中等度(9~12点)	24.7	24.0	25.6	24.0	33.6	24.1	23.5	24.0	24.7	23.8	23.3	24.2
	重度(13~24点)	41.6	14.6	17.8	14.5	31.0	14.7	25.5	14.8	19.4	12.6	16.5	15.0
		N数	142	8,100	1,091	5,965	116	6,940	153	6,240	2,889	4,891	558

■60歳以上

(%)		会話 欠如型	会話 非欠如型	受領的 サポート 欠如型 (広義)	受領的 サポート 非欠如型 (広義)	受領的 サポート 欠如型 (狭義)	受領的 サポート 非欠如型 (狭義)	提供の サポート 欠如型	提供の サポート 非欠如型	社会参加 欠如型 (広義)	社会参加 非欠如型 (広義)	社会参加 欠如型 (狭義)	社会参加 非欠如型 (狭義)
(1) 神経過敏	いつも	8.6	4.0	3.8	4.0	5.7	4.0	10.0	3.4	6.9	3.2	3.5	4.4
	たいてい	6.9	4.9	4.5	5.1	4.1	5.0	5.7	5.1	7.4	4.1	7.8	5.0
	ときどき	35.5	30.1	23.9	31.5	32.0	30.5	26.1	30.0	30.0	30.0	35.7	29.7
	少しだけ	23.7	31.7	33.6	31.6	29.5	31.9	26.1	32.4	27.2	32.7	29.3	31.2
	まったくない	25.3	29.3	34.2	27.8	28.7	28.6	32.2	29.2	28.4	30.0	23.8	29.8
	N数	245	7,927	781	5,136	122	5,795	230	4,121	1,941	4,417	345	6,013
(2) 絶望的	いつも	7.7	1.9	2.7	1.8	5.0	1.9	7.0	1.7	3.9	2.1	2.9	2.3
	たいてい	4.5	1.8	2.7	1.7	4.1	1.7	3.5	1.8	5.8	3.4	3.8	1.8
	ときどき	22.0	12.9	12.8	13.2	24.0	12.9	23.1	12.6	17.3	13.3	15.4	13.0
	少しだけ	27.2	24.6	21.9	24.5	29.8	24.1	17.5	23.9	21.5	20.4	31.0	23.8
	まったくない	38.6	58.8	59.9	58.9	37.2	59.5	48.9	60.1	51.6	60.8	47.0	59.1
	N数	246	7,914	780	5,132	121	5,791	229	4,119	3,721	6,651	345	6,011
(3) 落ち着かない	いつも	6.9	1.3	2.1	1.1	3.3	1.2	6.1	0.8	3.1	1.0	1.2	1.7
	たいてい	4.5	1.8	2.3	1.9	4.1	1.9	3.9	1.8	3.2	1.5	3.2	2.0
	ときどき	20.7	13.3	13.6	13.5	23.8	13.3	20.1	13.5	17.2	11.6	15.4	13.2
	少しだけ	24.7	30.6	26.7	31.5	27.9	30.9	22.3	30.6	28.1	31.0	35.4	29.8
	まったくない	43.3	53.1	55.3	52.1	41.0	52.7	47.6	53.4	48.5	54.9	44.9	53.4
	N数	247	7,894	779	5,129	122	5,786	229	4,116	1,935	4,413	345	6,003
(4) 気が晴れない	いつも	6.9	1.8	2.2	1.6	2.5	1.7	7.0	1.4	4.3	1.2	2.6	2.1
	たいてい	4.9	2.1	2.6	2.4	5.7	2.3	4.4	2.0	4.1	1.7	3.5	2.4
	ときどき	27.5	14.9	14.3	15.2	27.1	14.8	24.5	14.5	20.1	13.1	17.2	15.1
	少しだけ	28.3	32.8	28.8	33.3	32.8	32.7	24.0	32.1	30.3	32.9	38.5	31.7
	まったくない	32.4	48.4	52.3	47.6	32.0	48.6	40.2	50.0	41.3	51.1	38.2	48.7
	N数	247	7,921	779	5,137	122	5,794	229	4,118	1,939	4,418	348	6,009
(5) 面倒くさい	いつも	11.7	3.0	5.4	2.7	11.7	2.9	15.3	2.4	7.5	2.1	2.6	3.8
	たいてい	10.5	4.3	3.7	4.7	8.3	4.5	6.6	4.3	6.9	3.9	6.9	4.7
	ときどき	27.9	22.1	20.5	22.5	22.5	22.2	21.8	21.3	25.1	21.0	24.0	22.1
	少しだけ	26.7	38.3	36.8	38.3	35.0	38.2	25.8	39.0	33.2	39.6	44.5	37.3
	まったくない	23.1	32.4	33.6	31.9	22.5	32.3	30.6	33.1	27.3	33.5	22.0	32.2
	N数	247	7,940	777	5,143	120	5,800	229	4,121	1,945	4,419	346	6,018
(6) 価値のない人間	いつも	11.0	1.5	4.1	1.2	11.5	1.4	9.6	1.0	3.8	1.0	1.5	1.9
	たいてい	4.1	1.5	1.8	1.6	4.9	1.5	3.9	1.2	2.8	1.0	3.2	1.5
	ときどき	18.7	9.9	10.0	9.7	19.7	9.6	17.9	9.6	14.1	8.3	11.6	10.0
	少しだけ	28.5	20.6	16.7	21.2	20.5	20.6	18.8	20.0	23.6	19.4	26.3	20.3
	まったくない	37.8	66.5	67.4	66.3	43.4	66.9	49.8	68.2	55.6	70.3	57.5	66.3
	N数	246	7,910	778	5,136	122	5,792	229	4,120	1,941	4,414	346	6,009
K6スコア	陰性(0~4点)	12.2	24.1	25.9	22.8	16.7	23.4	22.6	24.1	19.7	25.3	15.3	24.0
	軽度(5~8点)	33.5	42.6	38.5	43.5	33.3	43.2	29.9	43.2	35.6	45.6	44.7	42.2
	中等度(9~12点)	33.0	23.6	24.3	23.7	29.2	23.6	25.4	23.3	27.4	21.3	25.5	23.1
	重度(13~24点)	21.3	9.8	11.3	9.9	20.8	9.8	22.0	9.4	17.4	7.8	14.5	10.7
		N数	197	5,375	494	3,555	96	3,953	177	2,777	1,429	2,921	255

第5章 まとめ

(1) 第3章「社会的孤立者である可能性が高い者の出現率」のまとめ

第3章では、国立社会保障・人口問題研究所のワーキングペーパーをもとに、「生活と支え合いに関する調査(2017)」を用いて4類型(6パターン)の社会的孤立を定義し、その出現率を求めた。その結果、会話欠如型孤立者は2.2%、受領的サポート欠如型(広義)孤立者は14.2%、受領的サポート欠如型(狭義)孤立者は1.7%、提供的サポート欠如型孤立者は3.2%、社会参加欠如型(広義)孤立者は34.0%、社会参加欠如型(狭義)孤立者は6.6%が該当した。社会参加欠如型(広義)孤立者の割合が突出して多くなっているが、これは昨今の地域コミュニティなどへの関わりが希薄化している状況を反映していると考えられる。

属性別の出現率をみると、女性よりも男性のほうが、孤立者の出現率が高くなっていた。特に、「単独高齢男性世帯」で会話欠如型孤立者、受領的サポート欠如型(狭義)孤立者、提供的サポート欠如型孤立者の出現率が高くなっていた。孤立に陥りやすい属性として注意すべき対象と考えることができる。

(2) 第4章「社会的孤立者が陥りやすいリスクの検討」のまとめ

第4章では、第2章で定めた孤立の4類型(6種類)別に社会的孤立者の置かれている状況を、社会的に孤立していない層との比較から明らかにした。

生活面では、会話欠如型、受領的サポート欠如型(狭義)、提供的サポート欠如型において、孤立者のほうが経済的困窮などの課題を抱えている割合が高くなっていた。

健康面でも、会話欠如型、受領的サポート欠如型(狭義)、提供的サポート欠如型において、孤立者のほうが、健康状態が「(あまり)よくない」割合や気分・不安障害尺度で重度精神障害が予測される者の割合が高くなっていた。

従って、少なくとも「生活と支え合いに関する調査(2017)」の調査項目を用いて定義した孤立類型においては、会話欠如型、受領的サポート欠如型(狭義)、提供的サポート欠如型の3類型が、特に注意すべき孤立と考えられる。社会参加欠如型孤立については、少なくとも「生活と支え合いに関する調査(2017)」の調査項目から定義した孤立状態においては、孤立群・非孤立群でリスクに差があまり見られなかった。

(3) 考察

本分析は、すでに実施された調査の二次分析によって社会的孤立を定義し、社会的孤立に該当する恐れのある者の出現率とそのリスクを確認した。二次分析という限界は

あるものの、社会的交流（会話）のみならず、社会的サポート（受領型・提供型）、社会参加を含めた幅広い観点から、推計を行うことができた。

リスクの検討から、会話欠如型、受領的サポート欠如型（狭義）、提供的サポート欠如型の3類型が特に注意すべき孤立と考えられた。この3類型について、孤立要素の重複別の出現率（図表2-3-11）を確認すると、5.1%がいずれかの類型に該当（1要素以上に該当している12.0%のうち、社会参加欠如型（狭義）のみに該当している6.9%を除いたもの²⁴）しており、0.2%が3つすべての類型に該当していた（3要素に該当の「会話+受領+提供」の行）。

定義の説明でも述べたように、受領的サポート欠如型（狭義）の定義では、ひとつでも「そのことでは人に頼らない」と回答すると、孤立していないと判定されてしまう。そのため、この値は過小に評価された割合である可能性がある。しかしそうであってもシビアに見積もっても5%程度の者はリスクのある孤立状態に該当する恐れがあると考えられる。

また、本分析は2017年に実施された調査の二次分析であり、2020年以降のコロナ禍の状況を反映していないことにも留意が必要である。コロナ禍において、これまで実施できていた単身高齢者への対面での訪問やイベント開催時等に合わせて行われていた声掛けなどが実施できなくなり、また、密を避けるために外出を控えるよう促されていた。こうした経緯もあり、社会的孤立の問題は拡大していると推測される。今後、新たな調査の実施、分析が期待される。

自立相談支援事業の窓口などで、今回孤立の出現率の高かった単身高齢男性（未婚の高齢者）に対応する場合には、特に孤立に陥っていないか注意してアセスメントを行うことが必要だろう。会話頻度だけでなく、頼れる相手の有無、頼られる存在の有無などについて確認することが望ましい。

一方で、第1章で述べたように、孤立に陥ることで、自己認知を適切に行えなくなったり、支援が届くのが手遅れになってしまったりするといわれている。第4章の分析でも、孤立状態の者ほど「何をするのも面倒くさいと感じた」割合や、「自分は価値のない人間だと感じた」割合が高くなっていた。そのため、孤立状態だとアセスメントされた者には、特に伴走型支援を行っていくことが必要だろう。伴走型支援によって、現在抱えている就労等の課題をすぐに解決できなくとも、つながること、つなげることにより「孤立状態を解消」することが必要である。

また、相談窓口を訪れた者だけではなく、アウトリーチや関係機関での情報共有などにより支援が必要な者を相談窓口につなぐ仕組みも求められるだろう。アウトリーチの在り方については、特にコロナ禍を経てどのように取り組むことが可能か、一層の検討と事例の共有が求められる。

²⁴ 小数点以下第2位を四捨五入しているため、そのまま加算・減算すると値が一致しない。

第3部 生活困窮者自立支援制度の

支援実績に関する分析

第1章 分析データの概要

(1) 分析の目的

平成27年4月より施行された生活困窮者自立支援法のもとで、生活困窮者支援の中核を担う自立相談支援事業が開始された。自立相談支援事業では、各自治体において自立相談支援機関が、就労や健康、家計の課題、家族の課題等、生活困窮者の多様で複合的な課題を広く受け止め、適切な支援を実施すべく、アウトリーチ、アセスメント、プランの策定、支援へのつなぎと支援結果の評価等、一連のケアマネジメントを実施している。

その支援実績については、国が作成した生活困窮者自立支援統計システムの業務支援ツールを用いて各相談支援機関が管理しているものの、全国统一での集計・分析はされていない。

平成29年度の生活困窮者就労支援準備支援事業等補助金 社会福祉推進事業「生活困窮者自立支援制度における自立相談支援機関における支援実績の分析による支援手法向上に向けた調査研究事業」においては、各自治体の自立相談支援機関が平成27年4月1日から平成29年3月31日までの相談受付ケースについての分析を行い、支援対象者の属性や抱えている課題、具体的な支援の内容や評価結果について明らかにした。

本事業では、相談支援の状況についての経年的な状況の変化について把握すべく、平成29、30年度の支援実績に関するデータ分析を行うこととした。

(2) 分析対象となるデータ

平成29年度の「生活困窮者自立支援制度における自立相談支援機関における支援実績の分析による支援手法向上に向けた調査研究事業」においては、平成26年度生活困窮者自立促進モデル事業実施自治体119自治体を対象としてデータ収集を実施した。

本事業においては、上記119自治体を対象として、生活困窮者自立支援統計システム 相談支援機関業務支援ツールに登録されている支援実績に関するデータの提供依頼を行い、そのうち協力を得られた下記127市町村269相談支援機関のデータを集計対象とした。データ提供依頼に当たっては、独自に作成したデータ抽出ツールを用いて、個人名等の情報は匿名化した上で収集した。

なお、今回集計対象としたのは、平成29年4月1日から平成31年3月31日までに相談受付を行ったデータのうち、プランが作成された27,023件である。一部データについては平成27・28年度実績と比較しているが、平成27・28年度実績については、「生活困窮者自立支援制度における自立相談支援機関における支援実績の分析による支援手法向上に向けた調査研究事業報告書 別冊 平成27年4月1日～平成29年3

月 31 日までの相談受付ケースデータに基づく集計」を参照している。

図表 3-1 データ提供協力自治体・相談支援機関一覧

自治体名	事業実施者	自治体名	事業実施者	
北海道 (空知総合振興局)	特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター	埼玉県	さいたま市	
北海道 (石狩振興局)	特定非営利活動法人ワークスコープ	川越市	特定非営利活動法人 ワークスコープ	
北海道 (後志総合振興局)	特定非営利活動法人しほべし圏域総合支援センター	千葉市	社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会	
北海道 (胆振総合振興局)	特定非営利活動法人ワークスコープ	企業組合 労働船橋事業団	企業組合 労働船橋事業団	
北海道 (日高振興局)	日高コンソーシアム (特定非営利活動法人こみっと)	船橋市	社会福祉法人 生活クラブ	
	日高コンソーシアム (社会福祉法人浦河向陽会)	柏市	社会福祉法人 入風の村	
	日高コンソーシアム (社会福祉法人新冠はく花園)	野田市	野田パーソナルサポート共同企業体	
	日高コンソーシアム (社会福祉法人愛光会)	佐倉市	佐倉市生活困窮者自立支援事業共同事業体	
	日高コンソーシアム (社会福祉法人平取福祉会)	香取市	NPO法人 香取の地域福祉を考える会	
	北海道 (渡島総合振興局)	一般財団法人北海道国際交流センター	世田谷区	社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会
北海道 (檜山振興局)	一般財団法人北海道国際交流センター	豊島区	社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会	
北海道 (上川総合振興局)	有限会社ワーク	練馬区	社会福祉法人練馬区社会福祉協議会	
北海道 (留萌振興局)	特定非営利活動法人ウルナデザイナー	葛飾区	社会福祉法人新栄会	
北海道 (宗谷総合振興局)	社会福祉法人稚内市社会福祉協議会	国分寺市	社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会	
北海道 (オホーツク総合振興局)	特定非営利活動法人ワークフェア	神奈川県	粟田町、寒川町、大磯町、二宮町、蓼川町、清川村	
北海道 (十勝総合振興局)	有限会社ワーク		中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	
北海道 (釧路総合振興局)	一般社団法人釧路社会的企業創造協議会		横浜市	特定非営利活動法人コースポト横濱
北海道 (根室振興局)	社会福祉法人北海道社会福祉事業団		株式会社 K2 インターナショナルジャパン	川崎市
札幌市	キャリアバンク株式会社	相模原市		
旭川市	社会福祉法人旭川市社会福祉協議会	新潟県 (町村部)	一般社団法人新潟県労働者福祉協議会	
釧路市	一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会	新潟市	一般社団法人 新潟県労働者福祉協議会	
岩見沢市	特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター	長岡市	社団法人 新潟県労働者福祉協議会	
青森県	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	上越市	社団法人 新潟県労働者福祉協議会	
	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	富山県	社会福祉法人富山県社会福祉協議会	
	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	富山県	社会福祉法人富山県社会福祉協議会	
	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	氷見市	社会福祉法人氷見市社会福祉協議会	
岩手県	社会福祉法人岩手県社会福祉協議会	石川県	石川県	
	社会福祉法人北上市社会福祉協議会	小松市	小松市社会福祉協議会	
	社会福祉法人奥州市社会福祉協議会	福井県	永平寺町	
	社会福祉法人一関市社会福祉協議会	越前町		
	社会福祉法人住田町社会福祉協議会	池田町		
	社会福祉法人大槌町社会福祉協議会	南越前町		
	社会福祉法人大船町社会福祉協議会	美浜町		
	社会福祉法人久慈市社会福祉協議会	若狭町 (旧三方町)		
	社会福祉法人二戸市社会福祉協議会	高浪町		
	社会福祉法人花巻市社会福祉協議会	おおい町		
	社会福祉法人花巻市社会福祉協議会	若狭町 (旧上中町)		
	社会福祉法人花巻市社会福祉協議会	山梨県	山梨市	
	宮城県	一般社団法人パーソナルサポートセンター	長野県	社会福祉法人長野県社会福祉協議会
一般社団法人パーソナルサポートセンター		長野市	社会福祉法人長野市社会福祉協議会	
一般社団法人パーソナルサポートセンター		松本市	社会福祉法人松本市社会福祉協議会	
一般社団法人パーソナルサポートセンター		上田市	社会福祉法人上田市社会福祉協議会	
秋田県	(福) 湯沢市社会福祉協議会	飯田市	社会福祉法人飯田市社会福祉協議会	
	社会福祉法人山辺町社会福祉協議会	岐阜県	社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会	
山形県	社会福祉法人山形県社会福祉協議会	各務原市	社会福祉法人各務原市社会福祉協議会	
	社会福祉法人友愛の里	静岡県	社会福祉法人静岡市社会福祉協議会	
	社会福祉法人川西町社会福祉協議会	浜松市	社会福祉法人聖隷福祉事業団	
	社会福祉法人白鷹町社会福祉協議会	社会福祉法人天竜厚生会		
	社会福祉法人小国町社会福祉協議会	富士宮市	社会福祉法人富士宮市社会福祉協議会、富士宮市社会福祉法人 富士宮市社会福祉協議会	
	社会福祉法人飯豊町社会福祉協議会	東御町、豊山町、大口町、扶桑町		
	社会福祉法人酒田市社会福祉協議会	大治町、蟹江町、飛鳥村		
	社会福祉法人山形市社会福祉協議会	阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町		
	社会福祉法人福島県社会福祉協議会	幸田町	社会福祉法人愛恵協会	
	社会福祉法人福島県社会福祉協議会	設楽町、東栄町、豊根村		
福島県	東北県民センター 県民福祉課 (東北福祉事務所)	愛知県	名古屋市	
	県民福祉センター 生活保護課 (県央福祉事務所)	名古屋市	名古屋くらしサポートコンソーシアム	
茨城県	県南県民センター 県民福祉課 (県南福祉事務所)	岡崎市	生活困窮者支援共同事業体	
	県西県民センター 県民福祉課 (県西福祉事務所)	長久手市	岡崎市社会福祉法人愛恵協会	
	社会福祉法人宇都宮市社会福祉協議会	三重県	名張市	
群馬県	群馬県社会福祉協議会	伊賀市	社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会	
	吉岡町社会福祉協議会	滋賀県 (日野町)	社会福祉法人日野町社会福祉協議会	
	下仁田町社会福祉協議会	滋賀県 (竜王町)	社会福祉法人竜王町社会福祉協議会	
	長野原町社会福祉協議会	滋賀県 (愛宕町)	社会福祉法人愛宕町社会福祉協議会	
	東吾妻町社会福祉協議会	滋賀県 (豊郷町)	社会福祉法人豊郷町社会福祉協議会	
	みなかみ町社会福祉協議会	滋賀県 (甲良町)	社会福祉法人甲良町社会福祉協議会	
	玉村町社会福祉協議会	滋賀県 (多賀町)	社会福祉法人多賀町社会福祉協議会	
	大泉町社会福祉協議会	大津市	社会福祉法人大津市社会福祉協議会	
	邑楽町社会福祉協議会	特定非営利活動法人大津夜まわりの会		
	前橋市社会福祉協議会	野洲市		
	東近江市			

	自治体名	事業実施者	
京都府	大山崎町		
	久御山町、井手町、宇治田原町		
	笠置町、和束町、精華町、南山城村		
	京丹波町		
	与野野町、伊根町		
	京都市		
	長岡京市		
	京丹後市		
	池田子ども家庭センター	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会	
	雷田林子ども家庭センター		
岸和田子ども家庭センター			
大阪府	北区	社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会	
	都島区	社会福祉法人大阪市都島区社会福祉協議会	
	福島区	社会福祉法人大阪市福島区社会福祉協議会	
	此花区	大阪市此花区社会福祉協議会・みおつくし福祉会共同体	
	中央区	(社福) 大阪市中央区社会福祉協議会	
	西区	みなと寮・大阪市西区社会福祉協議会共同体	
	港区	みなと寮・大阪市港区社会福祉協議会共同体	
	大正区	社会福祉法人大阪市大正区社会福祉協議会	
	天王寺区	大阪自強館・大阪市天王寺区社会福祉協議会共同体	
	浪速区	大阪市浪速区社会福祉協議会・大阪自強館共同体	
	西淀川区	AHC・大阪市西淀川区社会福祉協議会共同体	
	淀川区	みなと寮・大阪市淀川区社会福祉協議会協共同体	
	東淀川区	社会福祉法人大阪市東淀川区社会福祉協議会	
	東成区	大阪市東成区社会福祉協議会・大阪自強館共同体	
	生野区	社会福祉法人大阪市生野区社会福祉協議会	
	旭区	リハルタ・ヒューマンワークアソシエーション共同体	
	城東区	社会福祉法人大阪市城東区社会福祉協議会	
	鶴見区	社会福祉法人大阪市鶴見区社会福祉協議会	
	阿倍野区	社会福祉法人大阪市阿倍野区社会福祉協議会	
	住之江区	社会福祉法人大阪市住之江区社会福祉協議会	
	住吉区	社会福祉法人大阪市住吉区社会福祉協議会	
	東住吉区	社会福祉法人大阪市東住吉区社会福祉協議会	
	平野区	社会福祉法人大阪市平野区社会福祉協議会	
	西成区	大阪市西成区社会福祉協議会・大阪自強館共同体	
	堺市	社会福祉法人堺市社会福祉協議会	
		豊中市	豊中市
		社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会	
	一般社団法人 キャリアラジ		
	社会福祉法人 箕面市社会福祉協議会		
	柏原市社会福祉協議会		
兵庫県	兵庫県	企業組合労協センター事業団	
	神戸市	特定非営利活動法人神戸の冬を支える会 特定非営利活動法人みちるべ神戸 社会福祉法人陽気会 社会福祉法人すいせい	
	姫路市	姫路市社会福祉協議会	
奈良県	奈良県	社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会	
	奈良市	・P・ソルフェス・カワ(株)特定委託業務共同事業体 ㈱パソナ パソナ奈良	
和歌山県	和歌山県		
鳥取県	田辺市		
	三朝町	社会福祉法人 三朝町社会福祉協議会	
島根県	大山町	社会福祉法人 大山町社会福祉協議会	
	美郷町	美郷町社会福祉協議会	
岡山県	岡山市	社会福祉法人岡山市社会福祉協議会	
	総社市	社会福祉法人総社市社会福祉協議会	
広島県	広島市	社会福祉法人広島市社会福祉協議会	
	下関市	社会福祉法人下関市社会福祉協議会	
山口県	和木町、田布施町、平生町、上関町	東部社会福祉事務所(柳井健康福祉センター)	
	徳島県	徳島県生活困窮者自立支援協議会	
香川県	高松市	高松市社会福祉協議会	
	丸亀市	丸亀市社会福祉協議会	
愛媛県	今治市	社会福祉法人今治市社会福祉協議会	
	八幡浜市	社会福祉法人八幡浜市社会福祉協議会	

	自治体名	事業実施者	
高知県	高知県	社会福祉法人奈半利町社会福祉協議会 社会福祉法人土佐町社会福祉協議会 社会福祉法人本山町社会福祉協議会 社会福祉法人大豊町社会福祉協議会 社会福祉法人大川村社会福祉協議会 社会福祉法人いの町社会福祉協議会 社会福祉法人仁淀川町社会福祉協議会 社会福祉法人佐川町社会福祉協議会 社会福祉法人越知町社会福祉協議会 社会福祉法人日高村社会福祉協議会 社会福祉法人中土佐町社会福祉協議会 社会福祉法人梶原町社会福祉協議会 社会福祉法人津野町社会福祉協議会 社会福祉法人しまんと町社会福祉協議会 社会福祉法人大月町社会福祉協議会 社会福祉法人三原村社会福祉協議会 社会福祉法人黒潮町社会福祉協議会	
	高知市	社会福祉法人高知市社会福祉協議会	
	須崎市	社会福祉法人須崎市社会福祉協議会	
	土佐清水市	社会福祉法人土佐清水市社会福祉協議会	
	福岡県	福岡県	社会福祉法人グリーンコープ
		北九州市	
	福岡市	福岡市	株式会社パソナ
		佐賀県	
	長崎県	佐賀市	特定非営利活動法人NPOステューデント・サポート・フェイス 社会福祉法人長与町社会福祉協議会 社会福祉法人時津町社会福祉協議会 グリーンコープ生活協同組合 グリーンコープ生活協同組合 社会福祉法人波佐見町社会福祉協議会 社会福祉法人佐々町社会福祉協議会 新上五島町 上五島福祉事務所
		長崎市	社会福祉法人長崎市社会福祉協議会
		熊本県	社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会
		熊本市	社会福祉法人熊本市社会福祉協議会
		菊池市	グリーンコープ生活協同組合くまもと
		大分県	社会福祉法人 大分市社会福祉協議会
		臼杵市	臼杵市社会福祉協議会
		姫島村	姫島村社会福祉協議会
		日出町	日出町社会福祉協議会
九重町		九重町社会福祉協議会	
玖珠町	玖珠町社会福祉協議会		
宮崎県	宮崎県	東諸県郡内の町 三股町 高原町 児湯郡内の町村 東臼杵郡内の町村 西臼杵郡内の町	
	宮崎市	社会福祉法人 宮崎市社会福祉協議会	
	鹿児島県	社会福祉法人さつま町社会福祉協議会 社会福祉法人湧水町社会福祉協議会 一般社団法人よりそい支援かこしま、 特定非営利活動法人ワークスコープ、 グリーンコープかこしま 社会福祉法人南種子町社会福祉協議会 社会福祉法人中種子町社会福祉協議会 社会福祉法人奄美市社会福祉協議会 社会福祉法人大和村社会福祉協議会 社会福祉法人宇核村社会福祉協議会 社会福祉法人瀬戸内町社会福祉協議会 社会福祉法人龍郷町社会福祉協議会 社会福祉法人喜界町社会福祉協議会 社会福祉法人南恵会 社会福祉法人和泊町社会福祉協議会 社会福祉法人知名町社会福祉協議会 社会福祉法人与論町社会福祉協議会	
日置市			
沖縄県		公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会	
うるま市		合同会社グレンシル	

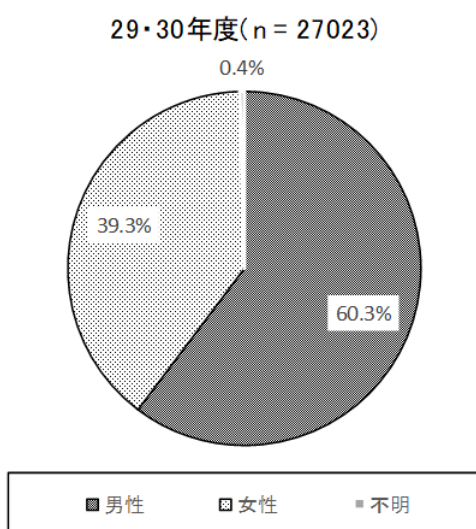
第2章 データ分析結果

(1) 生活困窮者自立支援制度における支援対象者の概要

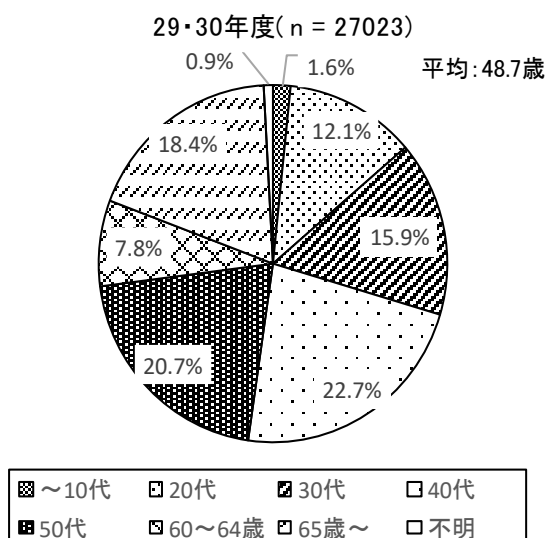
① 性別・年齢

支援対象者の半数以上が男性、年齢分布で見ると、40歳代が最も多く、平均年齢は48.7歳であった。なお、年齢階層別に男女比を見ると、いずれの年齢階層でも、男性の割合の方が高かった。

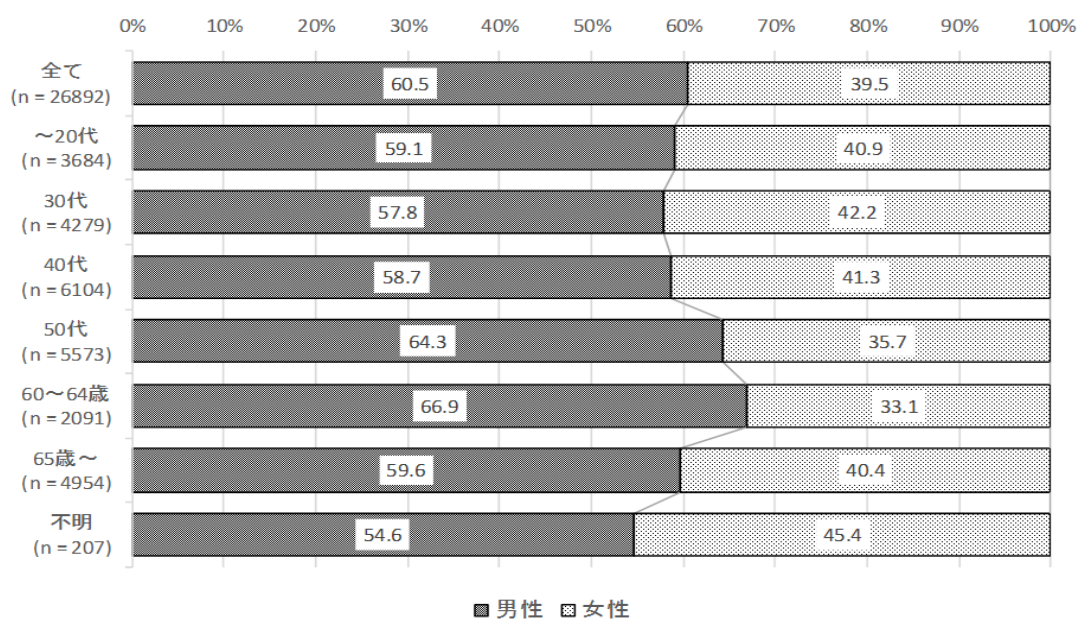
図表 3-2 支援対象者の性別



図表 3-3 支援対象者の年齢

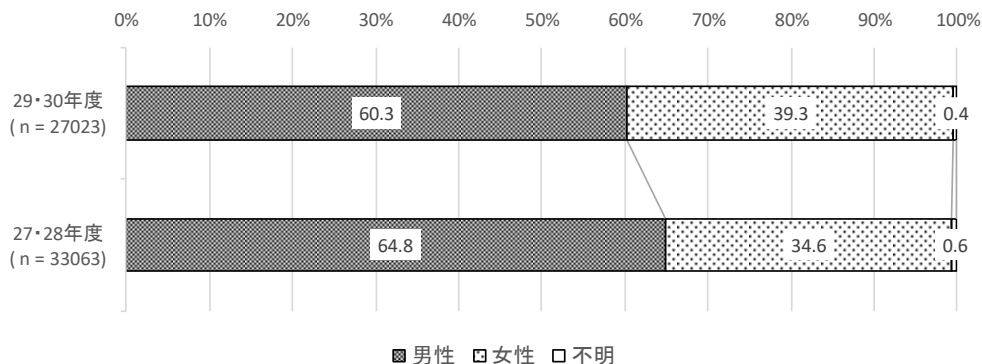


図表 3-4 年齢階層別の男女比

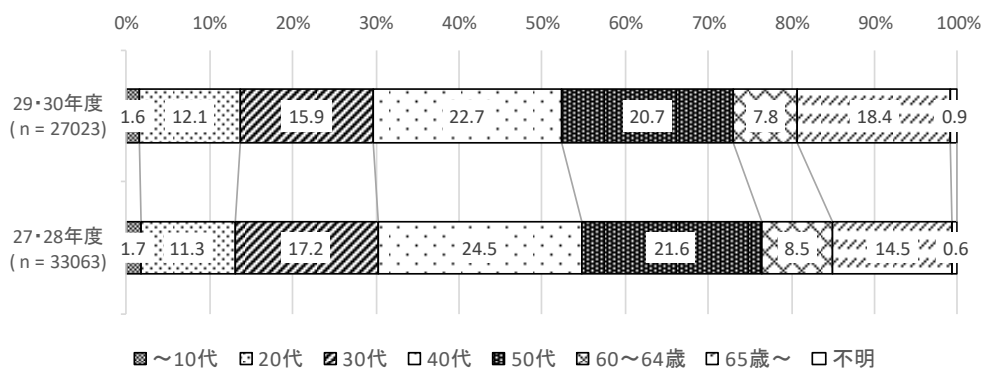


支援対象者の性別・年齢を平成 27・28 年度の支援対象者と比較すると、女性の割合が若干増え、年齢階層は高い人の割合が高くなっていった。

図表 3-5 支援対象者の性別 (27・28 年度との比較)



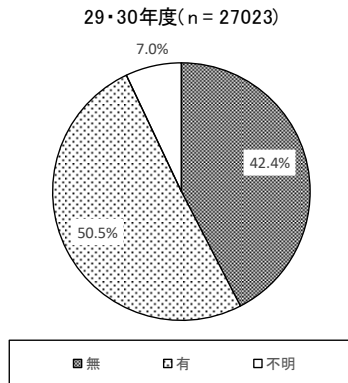
図表 3-6 支援対象者の年齢 (27・28 年度との比較)



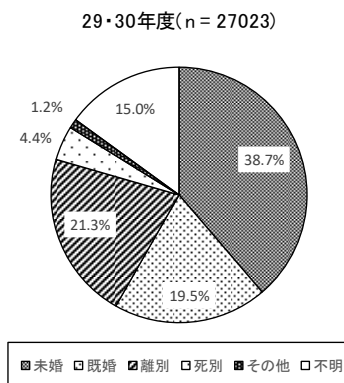
② 世帯構成等

支援対象者のうち、半数が同居者有、4割が未婚、また4割が子どもはいなかった。

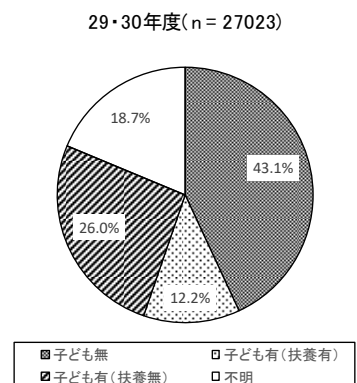
図表 3-7 支援対象者の同居者の有無



図表 3-8 支援対象者の婚姻状況



図表 3-9 支援対象者の子どもの有無

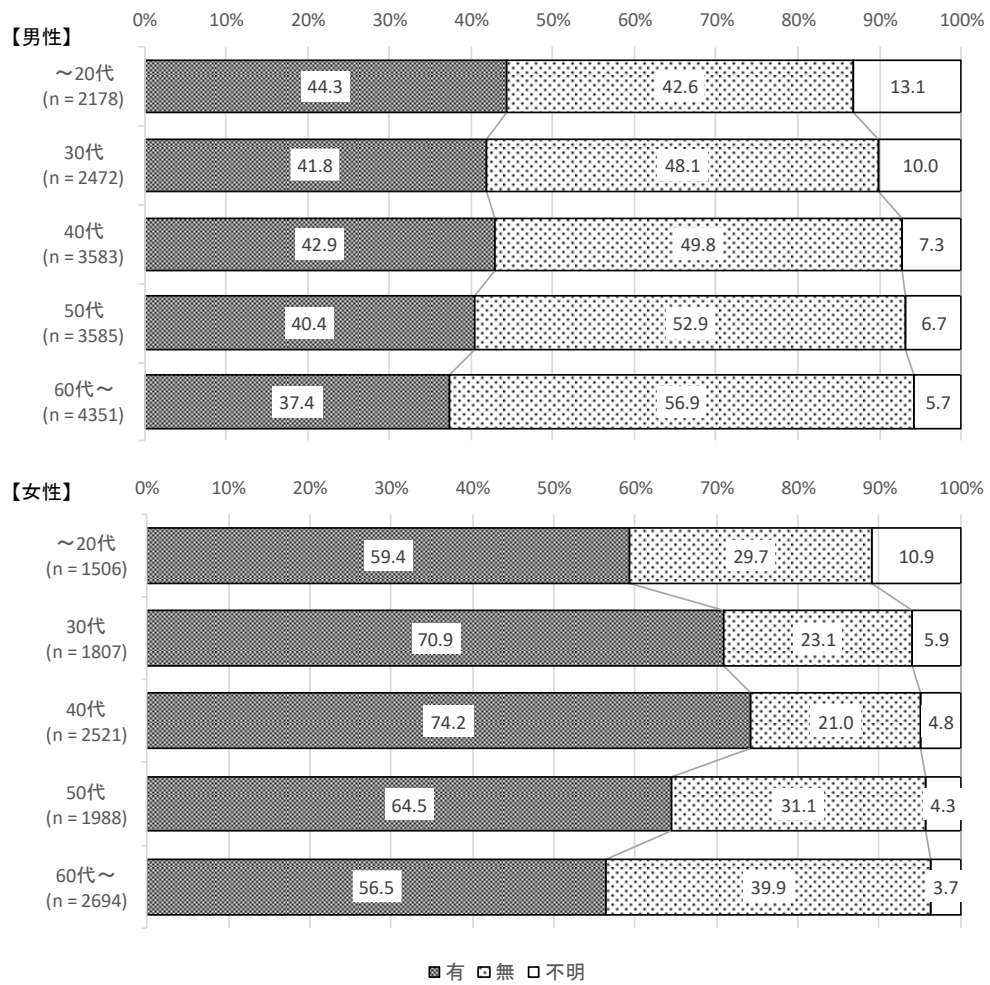


男女別年齢階層別に世帯の状況等を見ると、男性は年齢階層があがるにつれて同居者がいない人の割合が増えていた。女性については40歳代をピークに同居者のいない人の割合が増えていた。

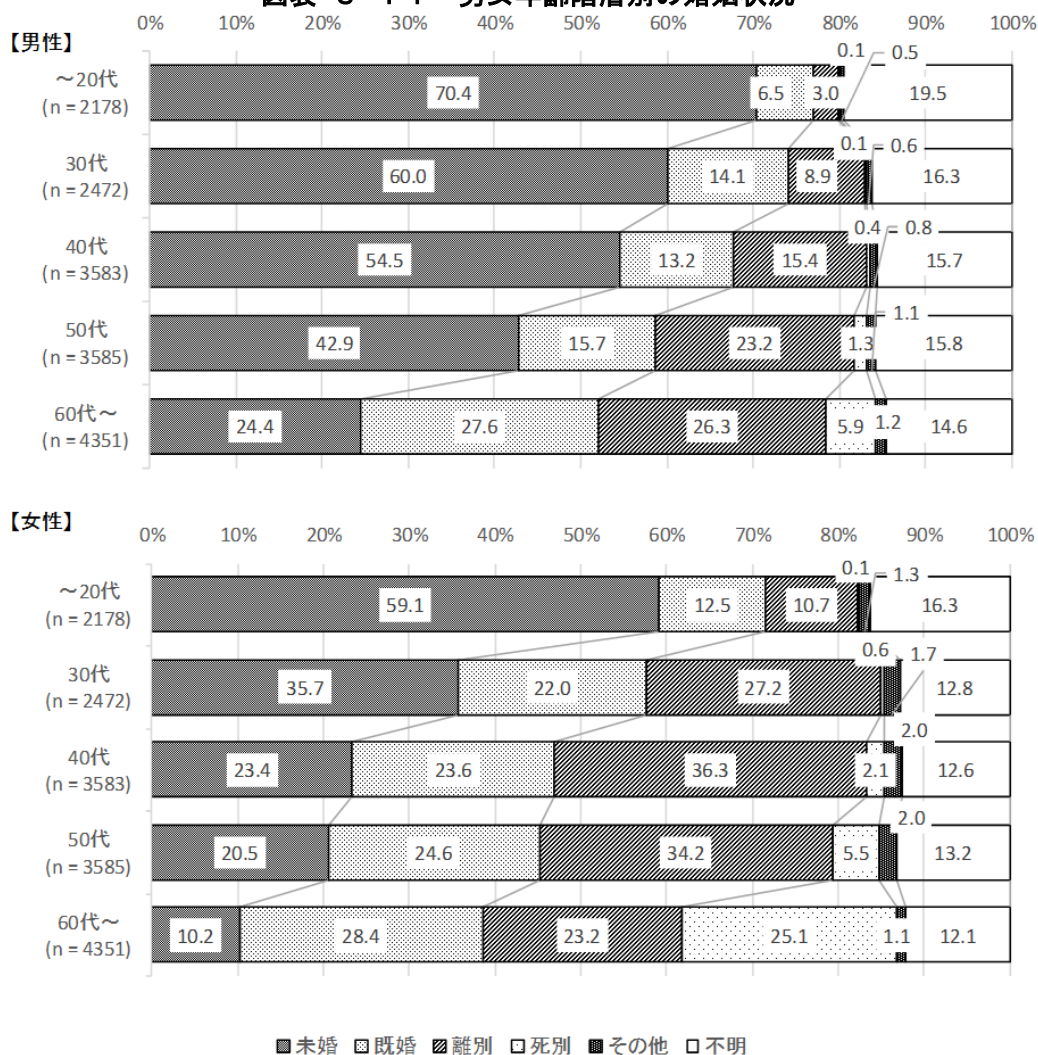
婚姻状況については、男女ともに、年齢階層があがるにつれて未婚者が減少し、既婚者の割合が高くなるが、女性については40、50歳代で離別者の割合が3割を超えており、同じ性年齢階層で最も高い割合を占めていた。

扶養義務のある子どもがいる人の割合は女性の30、40歳代で3割を超えていた。

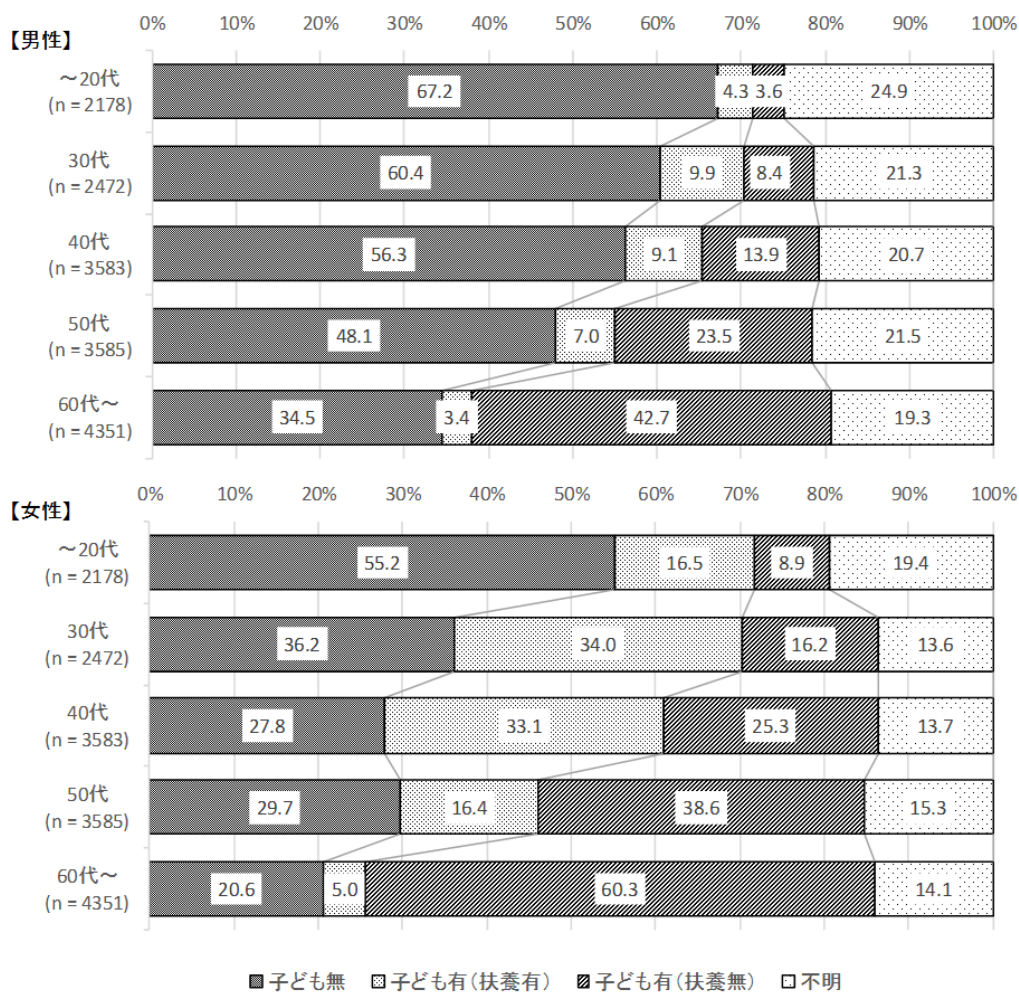
図表 3-10 男女年齢階層別の同居者の有無



図表 3-1-1 男女年齢階層別の婚姻状況

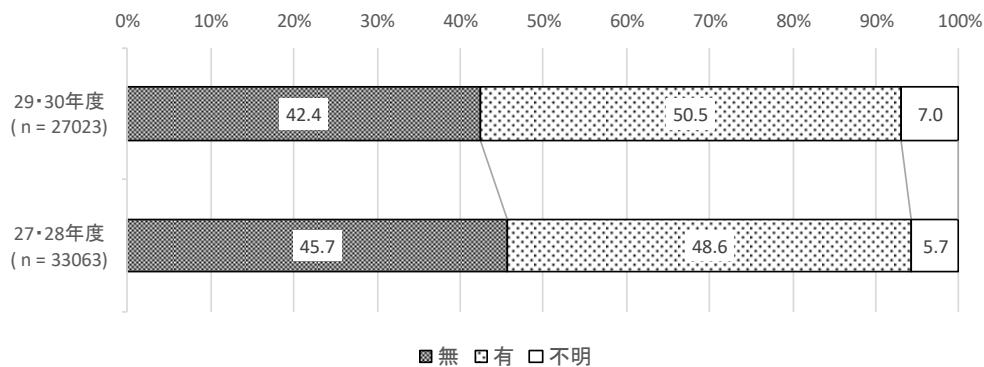


図表 3-12 男女年齢階層別の子ども有無

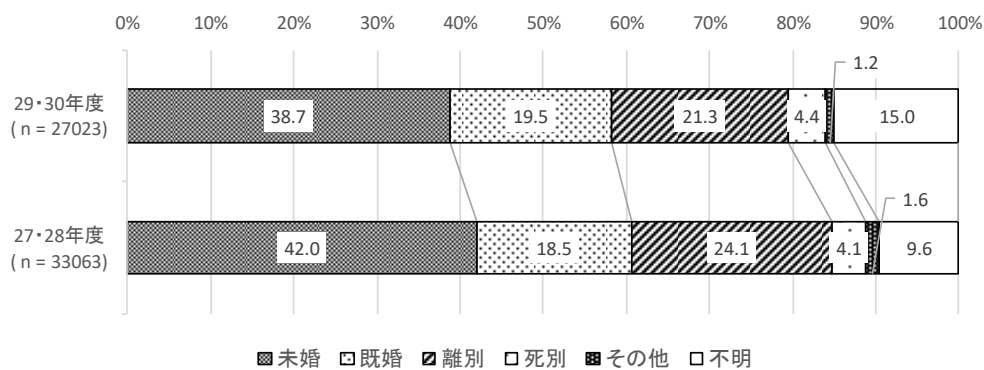


平成 27・28 年度と平成 29・30 年度の支援対象者を比較すると、同居者のいる人の割合が若干増え、未婚者の割合が減少していた。

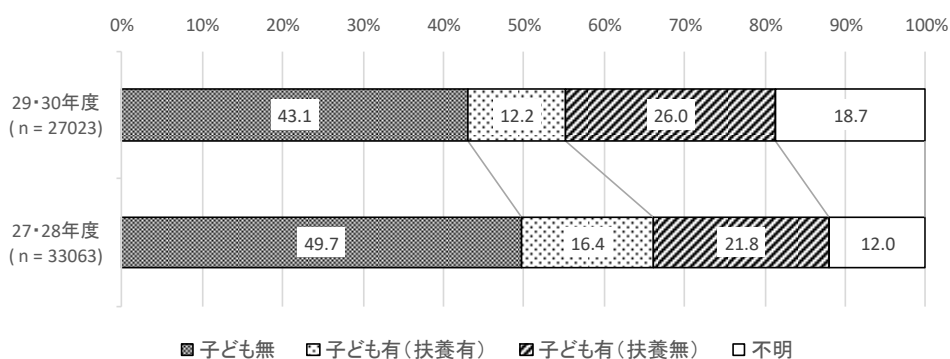
図表 3-13 支援対象者の同居者の有無 (27・28 年度との比較)



図表 3-14 支援対象者の婚姻状況 (27・28 年度との比較)

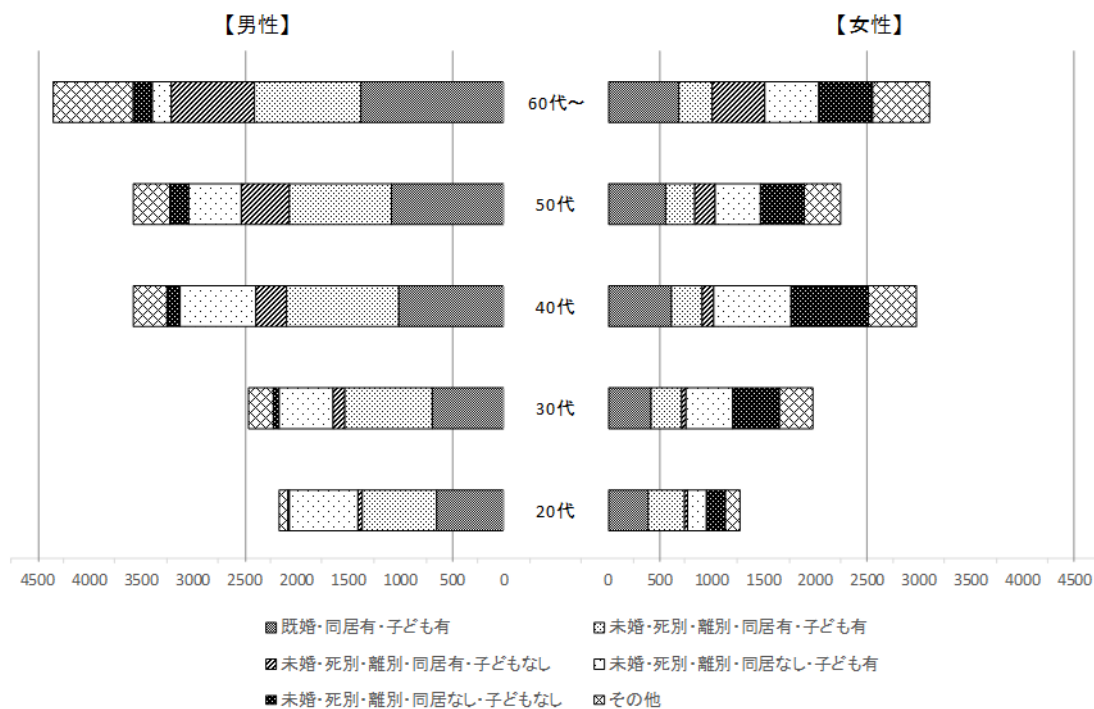


図表 3-15 支援対象者の子どもの有無 (27・28 年度との比較)



男女別年齢階層別に支援対象者の世帯構成等についてみると、男性 40 歳代以上で、既婚・同居有・子ども有の人、未婚等・同居有・子ども有の人の数が多かった。

図表 3-16 男女年齢階層別の世帯構成等

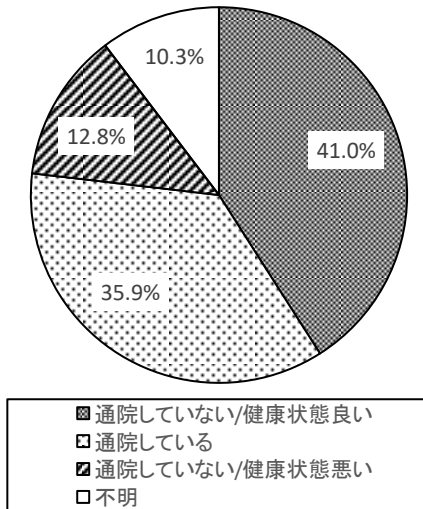


③ 健康状態等

支援対象者の健康状態は、通院しており、悪い人が1割強であった。また、障害者手帳を保有している人は1割であった。

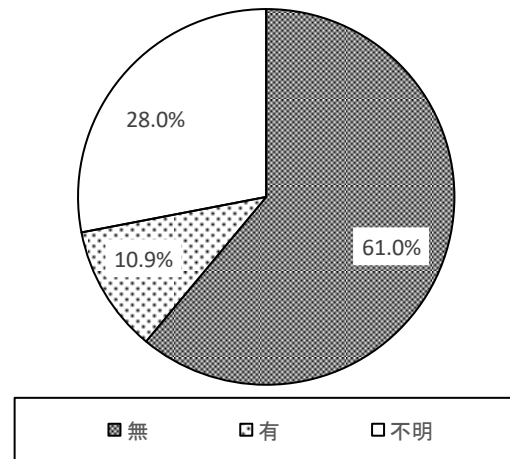
図表 3-17 支援対象者の健康状態

29・30年度(n = 27023)



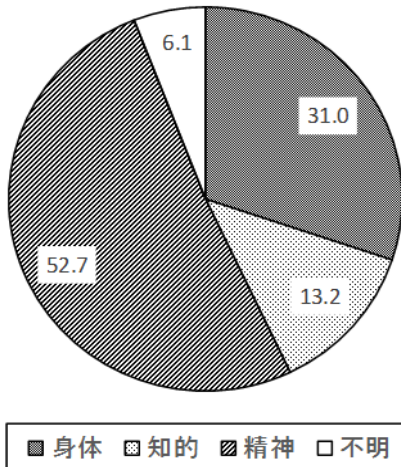
図表 3-18 支援対象者の障害者手帳の保有状況

29・30年度(n = 27023)



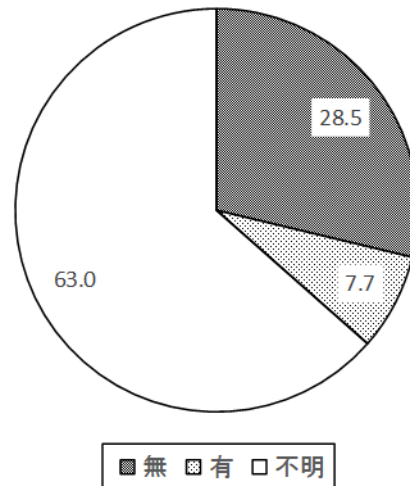
図表 3-19 障害者手帳保有者の障害種別の障害種別

29・30年度(n = 2957)



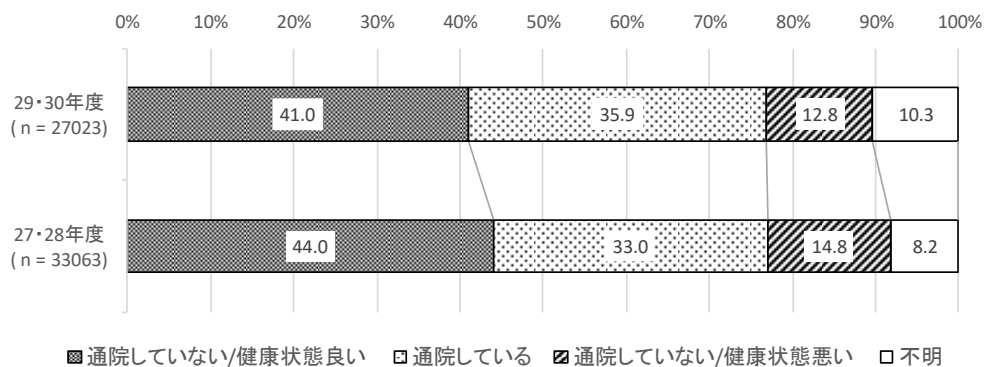
図表 3-20 自立支援医療の利用状況

29・30年度(n = 27023)

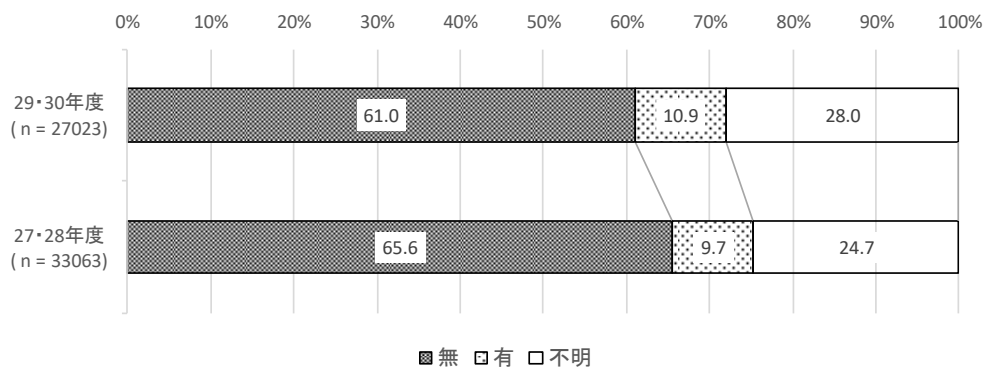


平成 27・28 年度と平成 29・30 年度の支援対象者を比較すると、通院者や障害者手帳の保有者の割合が若干増えていた。

図表 3-2 1 支援対象者の健康状態 (27・28 年度との比較)

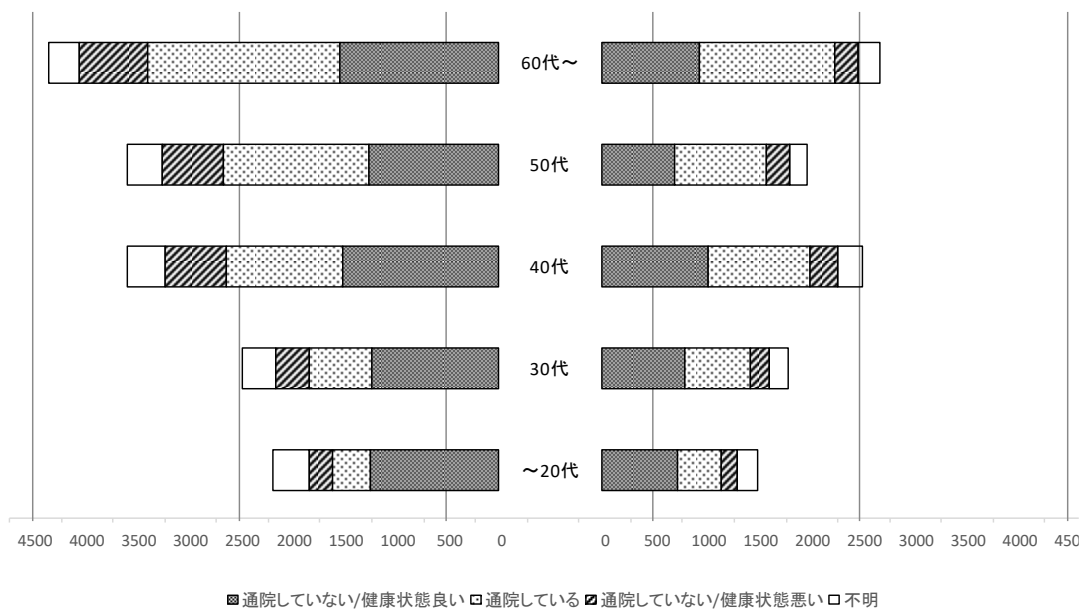


図表 3-2 2 支援対象者の障害者手帳の保有状況 (27・28 年度との比較)



男女別・年齢別に支援対象者の健康状態についてみると、年齢階層があがるにつれ、通院している人が増えている。

図表 3-23 男女年齢階層別の健康状態

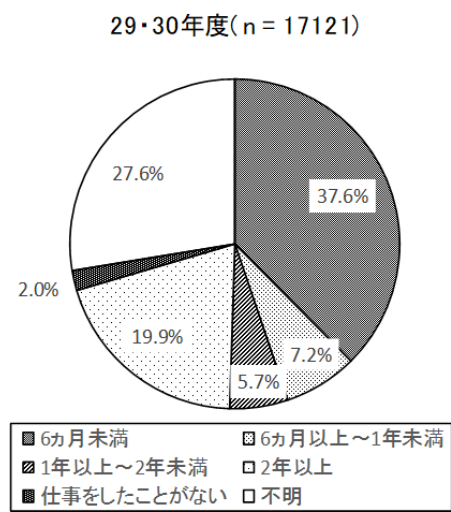
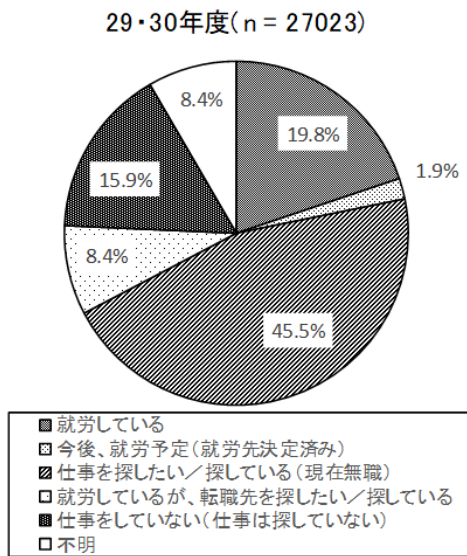


④ 就労状況

支援対象者の就労状況をみると、就労中である人は3割、求職中の人々が5割弱となっていた。また、現在就労していない人については、直近の離職からの期間としては6カ月未満の人が4割となっていたが、2年以上と長期にわたる人も2割いた。

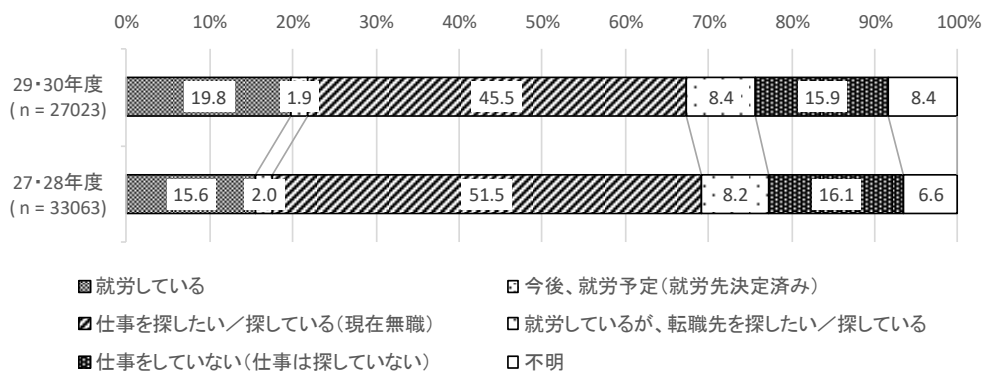
図表 3-2 4 支援対象者の就労状況

図表 3-2 5 支援対象者の直近の離職後の期間

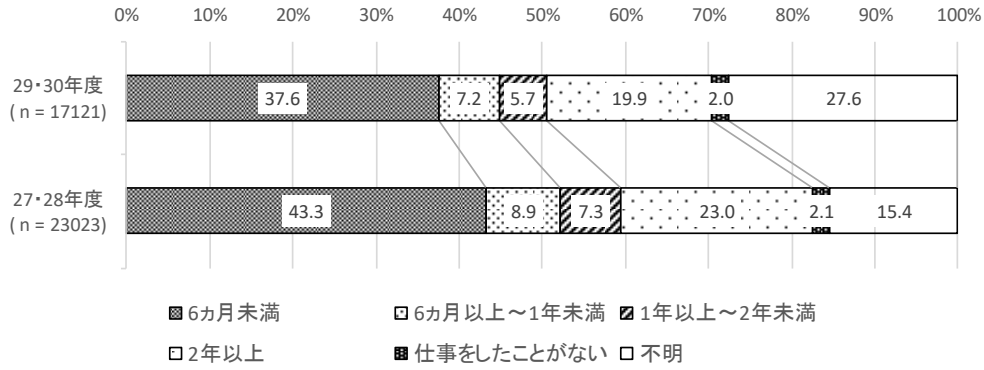


平成 27・28 年度と平成 29・30 年度の支援対象者を比較すると、就労中の人の割合が増えていた。

図表 3-2 6 支援対象者の就労状況 (27・28 年度との比較)

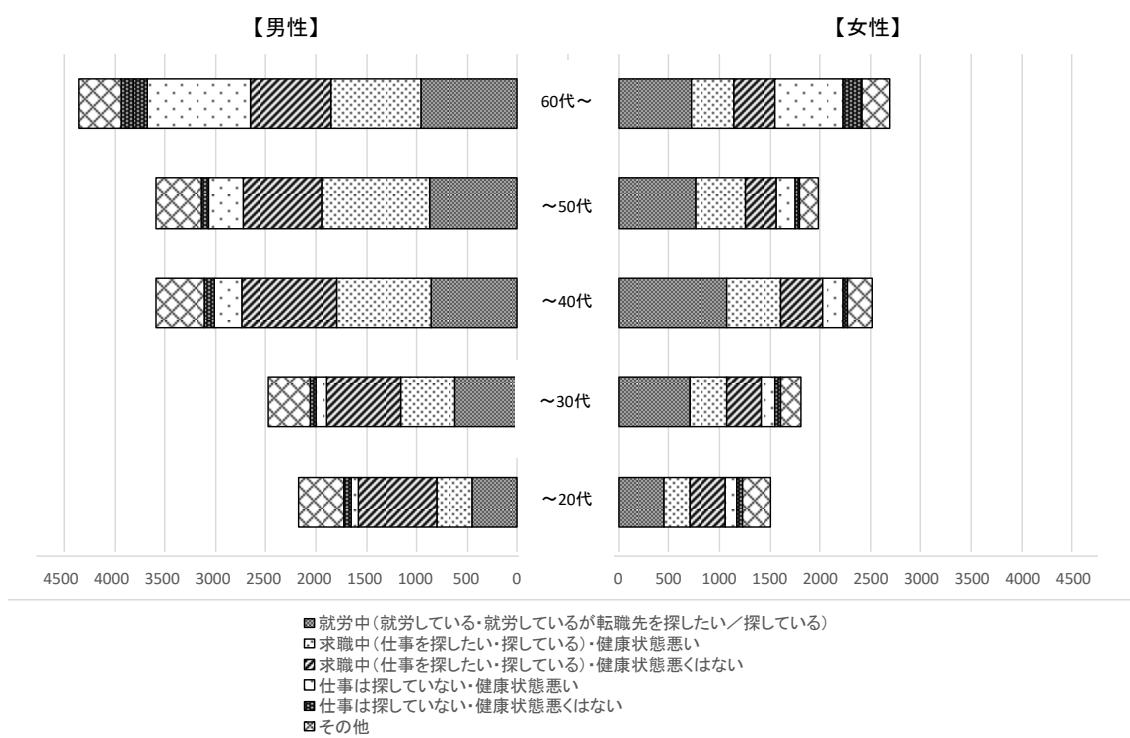


図表 3-27 支援対象者の直近の離職後の期間（27・28年度との比較）



男女別・年齢別に支援対象者の就労状況・健康状態等についてみると、年齢階層があがるにつれて、健康状態が悪く、働いていない人が多くなっていた。

図表 3-28 男女年齢階層別の就労状況ごとの健康状態

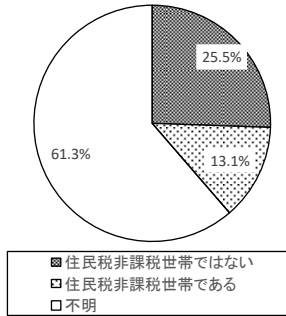


⑤ 経済状況等

支援対象者の経済状況をみると、住民税の非課税世帯である割合は1割、債務のある人の割合、滞納がある人の割合が3割であった。

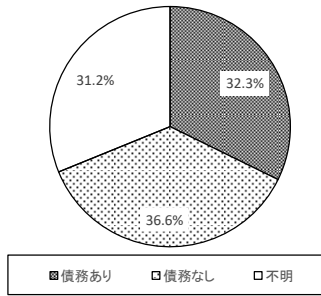
図表 3-29 支援対象者の課税状況

29・30年度(n = 27023)



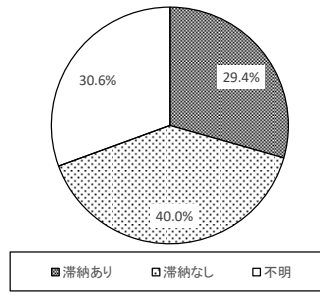
図表 3-30 支援対象者の債務の状況

29・30年度(n = 27023)



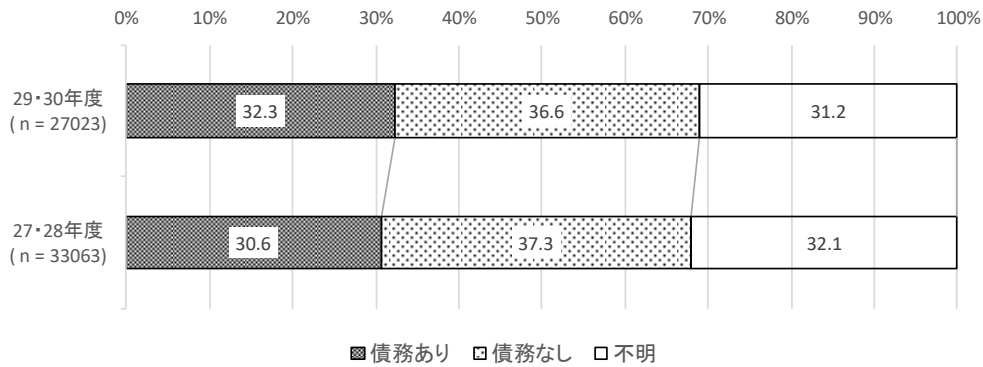
図表 3-31 支援対象者の税金等の滞納状況

29・30年度(n = 27023)

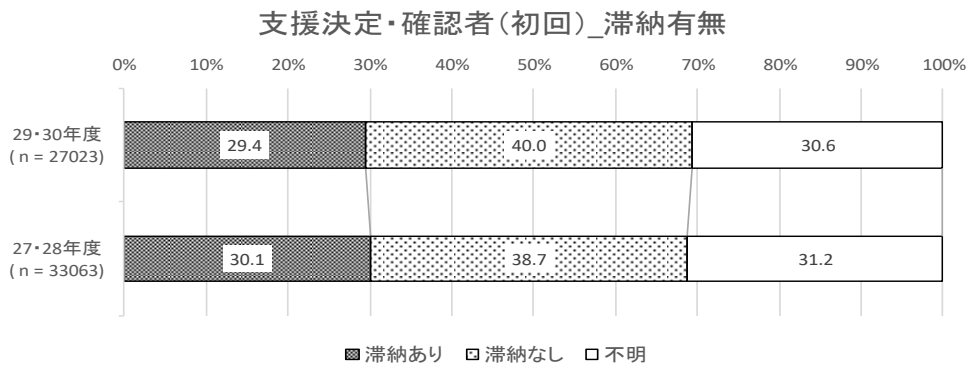


平成27・28年度と平成29・30年度の支援対象者の経済状況を比較すると、傾向はほとんど変わらなかった。

図表 3-32 支援対象者の債務の有無 (27・28年度との比較)

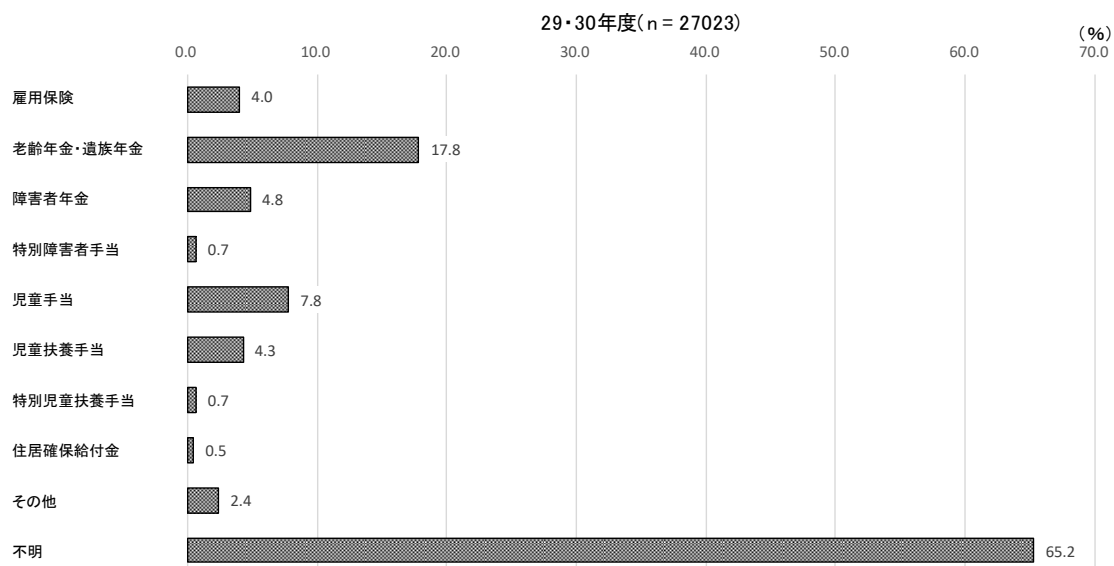


図表 3-33 支援対象者の税金等の滞納状況 (27・28年度との比較)



支援対象者の公的給付の受給状況をみると、年金受給者が最も多く、2割弱となっていた。その次に多いのが子育て世代が受給できる児童手当であった。

図表 3-34 支援対象者の公的給付の状況

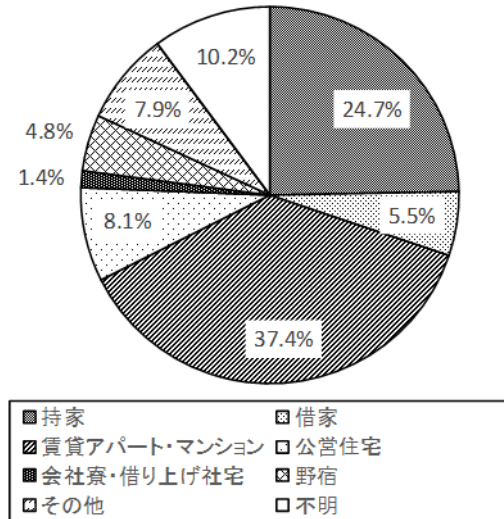


⑥ 住居の状況

支援対象者の住居の状況をみると、4分の1が持家、半分以上が賃貸であった。

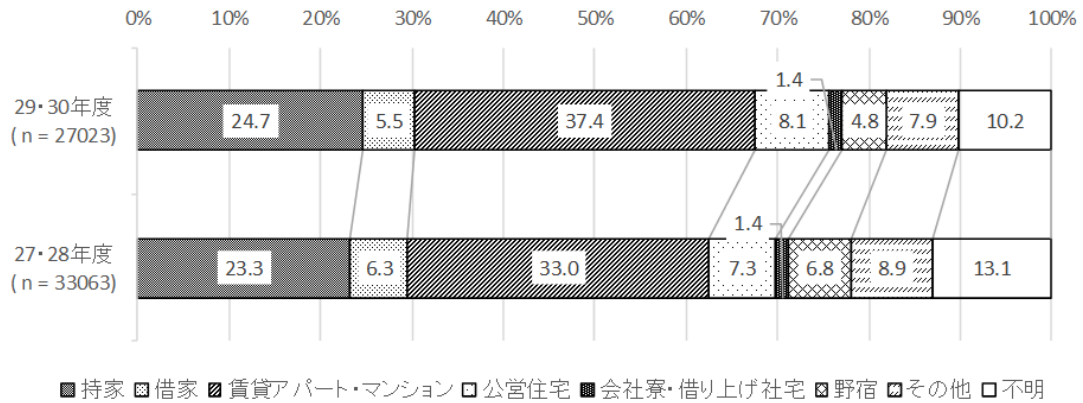
図表 3-35 支援対象者の住居の状況

29・30年度(n = 27023)



平成 27・28 年度と比較すると、賃貸住宅の人の割合が高くなっていった。

図表 3-36 支援対象者の住居の状況 (27・28 年度との比較)

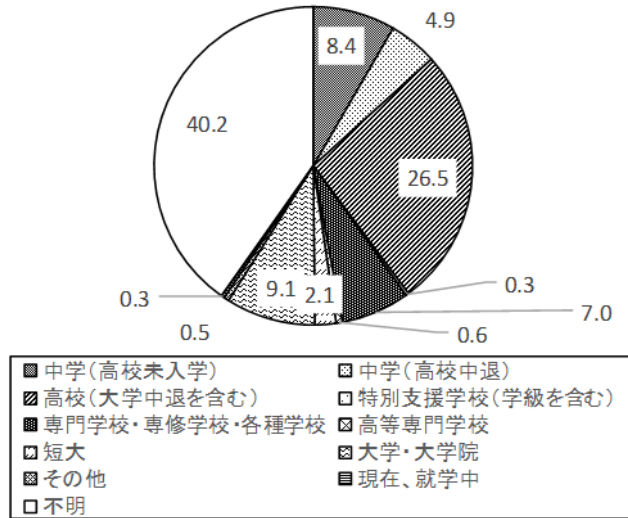


⑦ 学歴

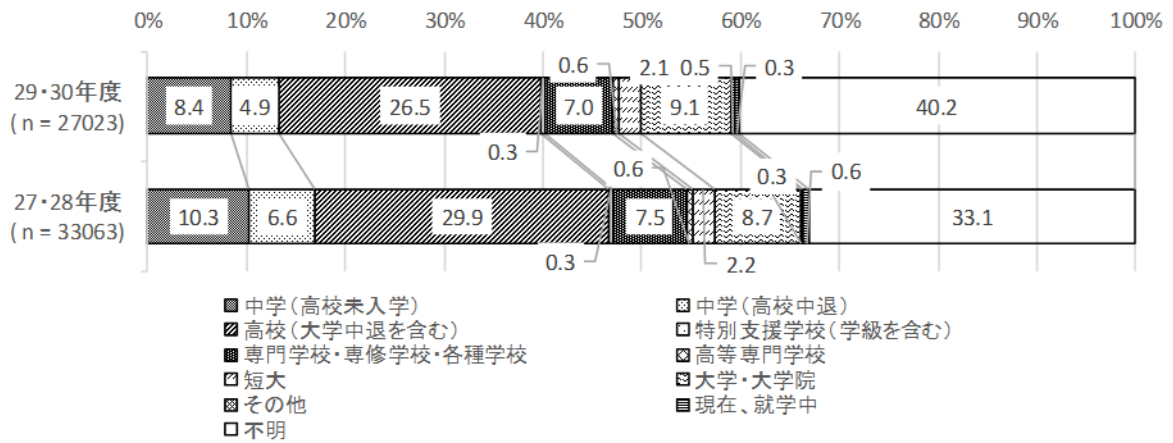
支援対象者の学歴をみると、4分の1が高卒と最も多かった。

図表 3-37 支援対象者の最終学歴

29・30年度(n = 27023)



図表 3-38 支援対象者の最終学歴 (27・28年度との比較)

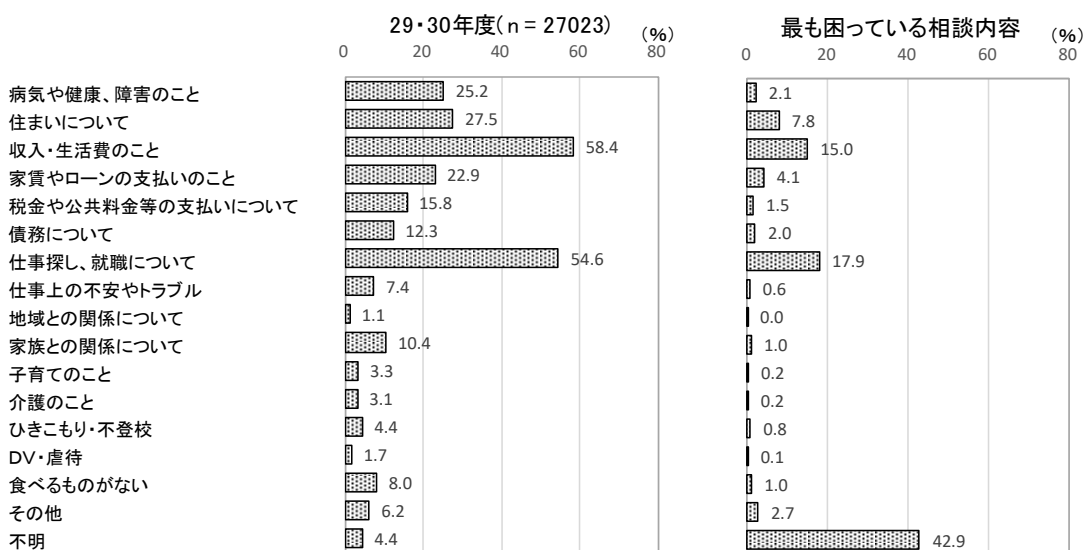


(2) 生活困窮者自立支援制度における支援の状況

① 相談内容

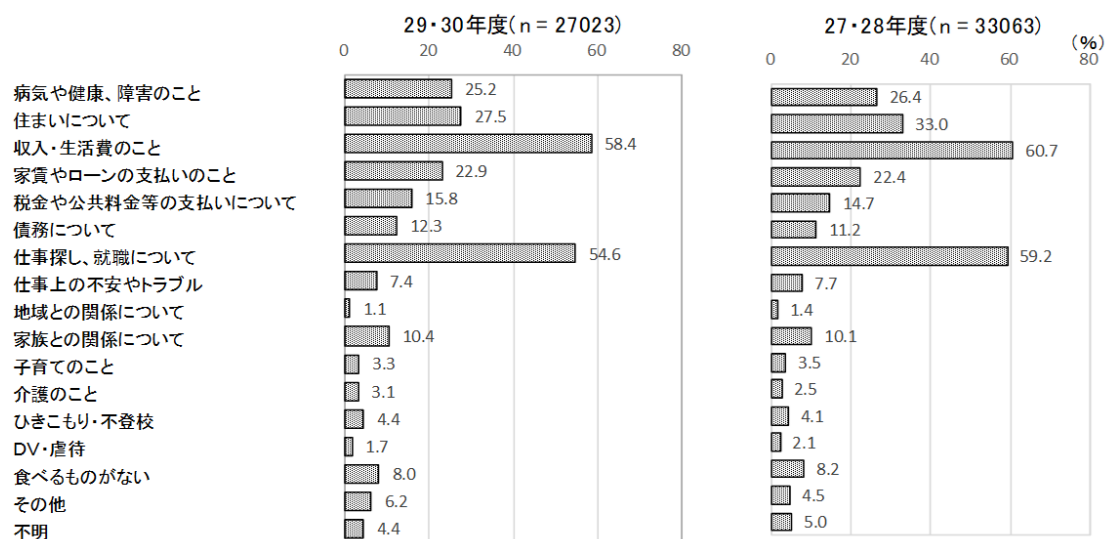
支援対象者が相談支援機関にアクセスした際の相談内容として最も多いのは、「収入・生活費のこと」であり、次いで「仕事探し、就職について」で5割を超えていた。

図表 3-39 支援対象者の相談内容

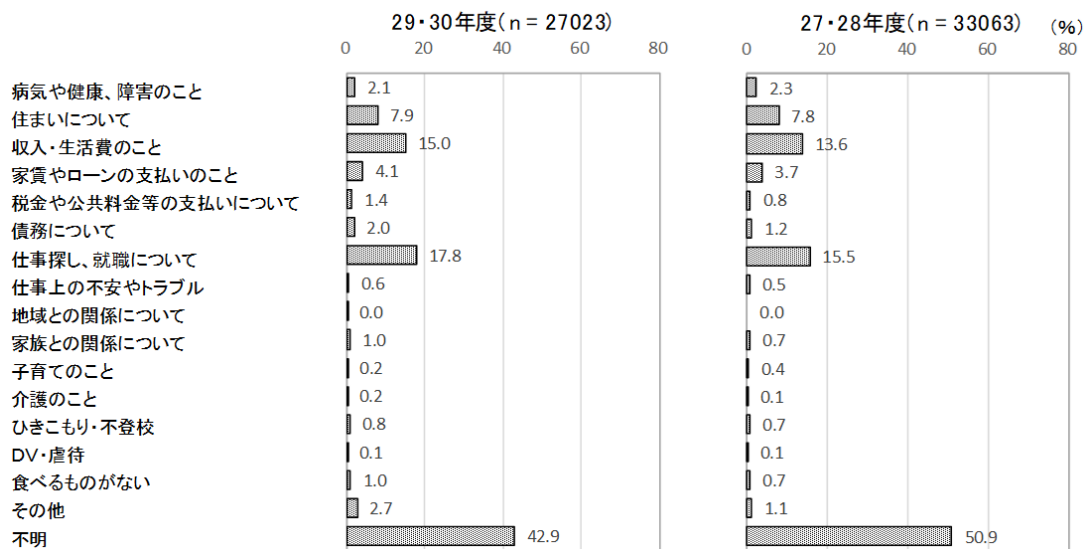


平成 27・28 年度と平成 29・30 年度を比較すると、相談内容はほぼ同様の傾向を示していた。

図表 3-40 支援対象者の相談内容 (27・28 年度との比較)



図表 3-4 1 支援対象者の最も困っている相談内容（27・28年度との比較）

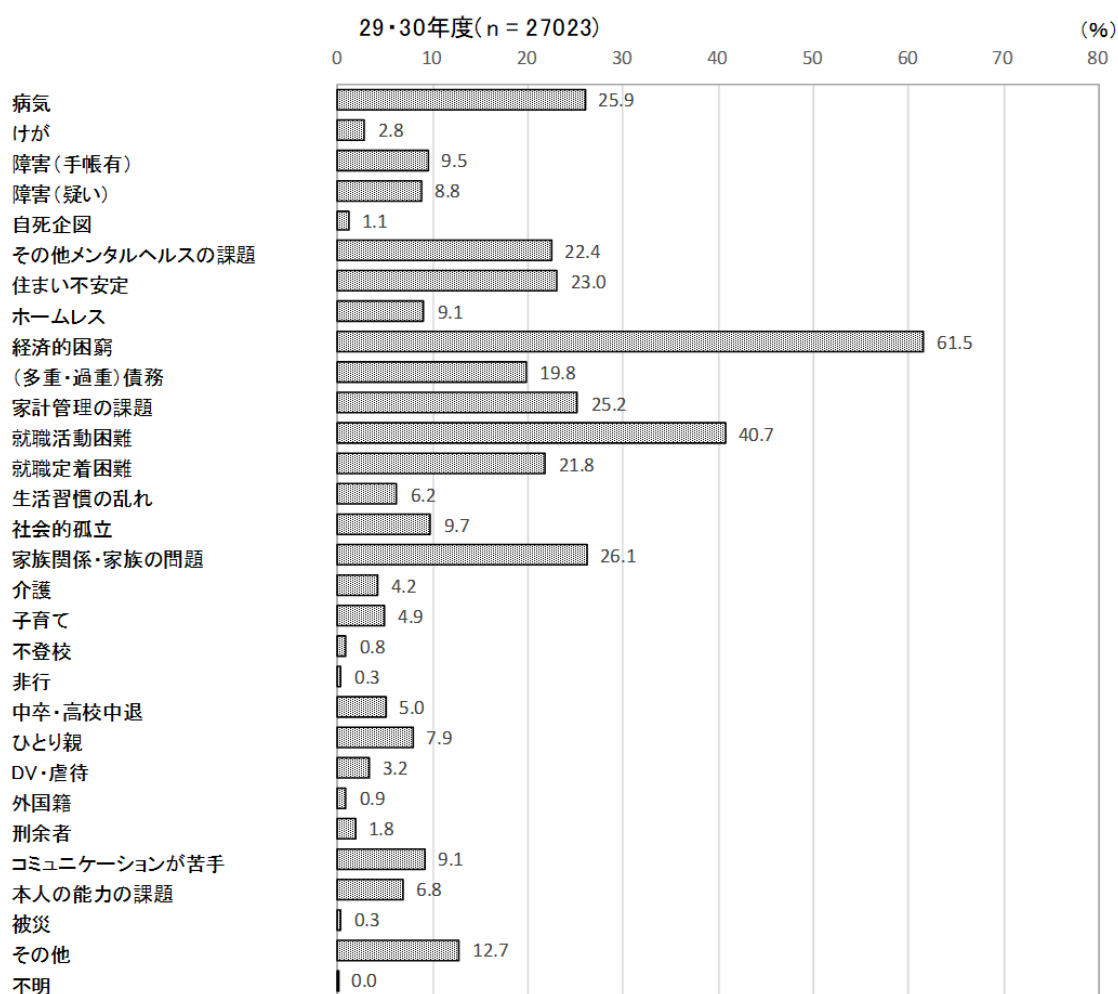


② 支援対象者の特性

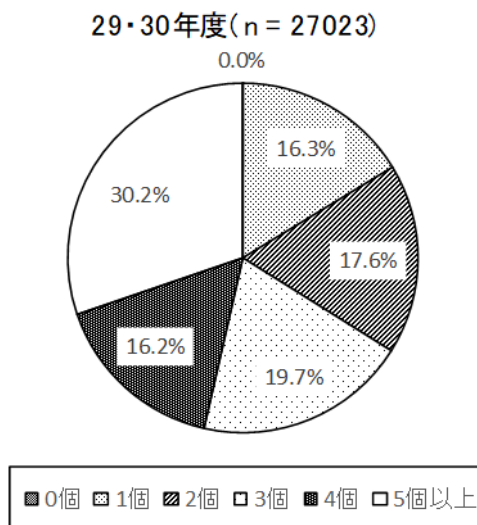
相談支援機関がとらえた、支援対象者が抱えている課題として最も多いのは、「経済的困窮」であり、6割を超えていた。次いで「就職活動困難」が4割を超えていた。

なお、支援対象者は、単一の課題だけではなく、複数の課題を抱えていることが多かった。

図表 3-4 2 支援対象者の抱える課題

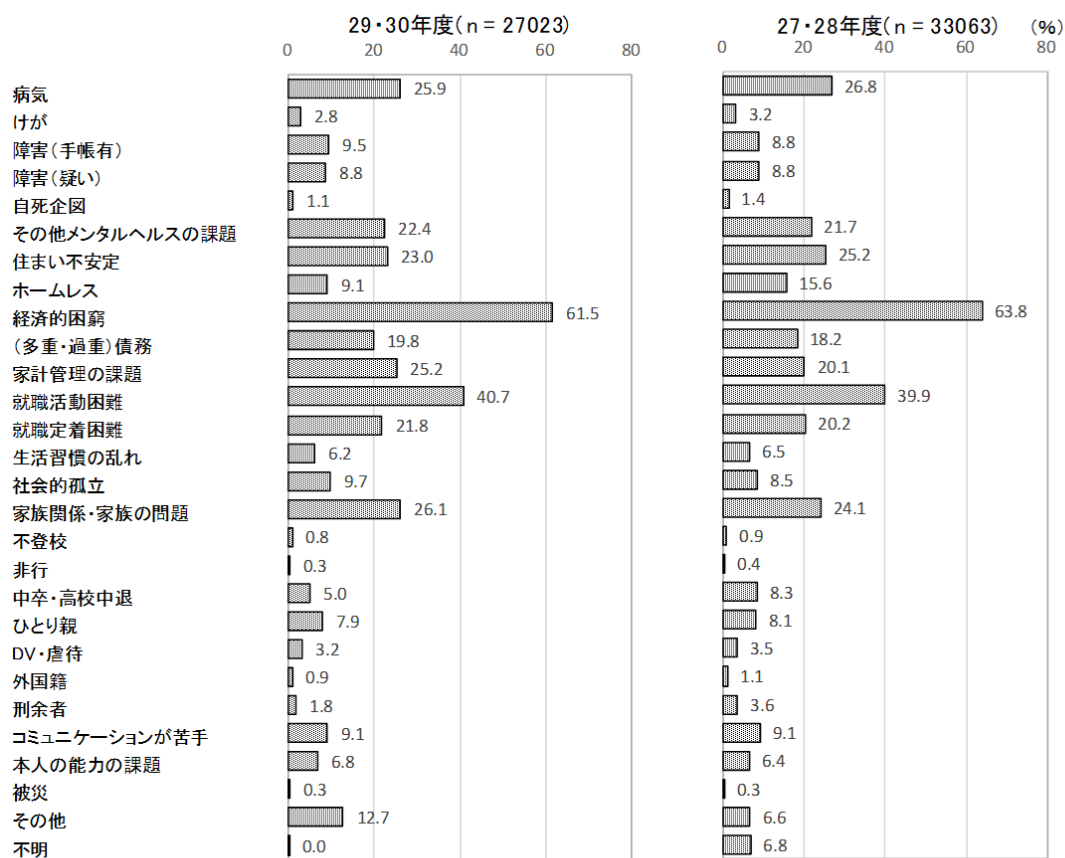


図表 3-4 3 支援対象者の抱える課題の個数



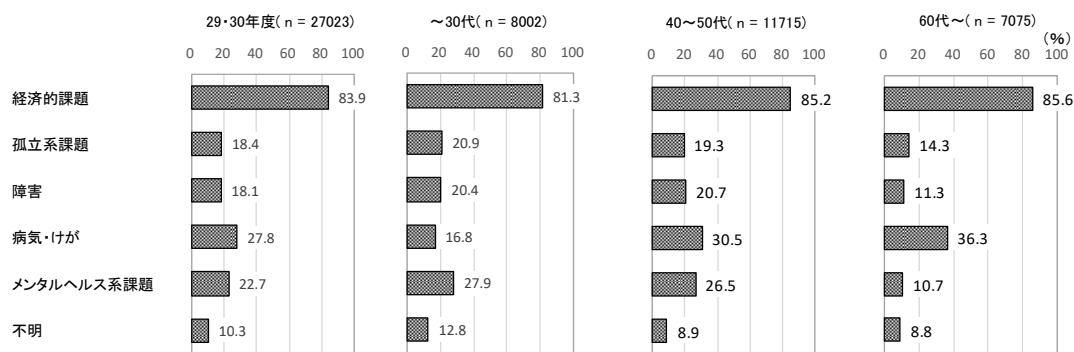
平成 27・28 年度と平成 29・30 年度を比較すると、なお、支援対象者は、単一の課題だけではなく、複数の課題を抱えていることが多かった。

図表 3-4 4 支援対象者の抱える課題 (27・28 年度との比較)



支援対象者が抱える課題を5つのグループに分類し、年齢階層別に比較すると、いずれの年代でも「経済的課題」が8割を超えるが、「孤立系課題」、「メンタルヘルス系課題」については年齢層が若い方が高く、「病気・けが」については高齢者層に多くみられた。

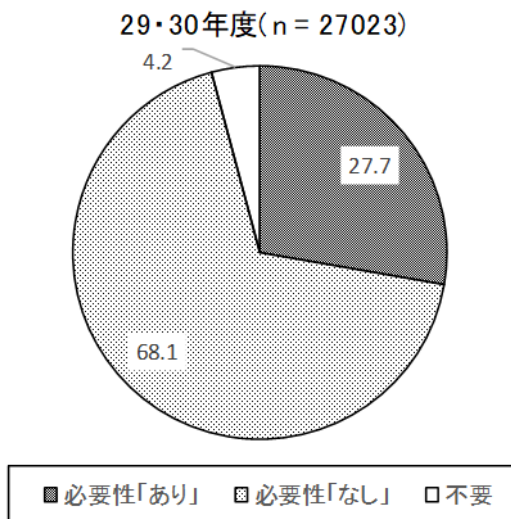
図表 3-4 5 支援対象者の抱える課題（5グループ年代別）



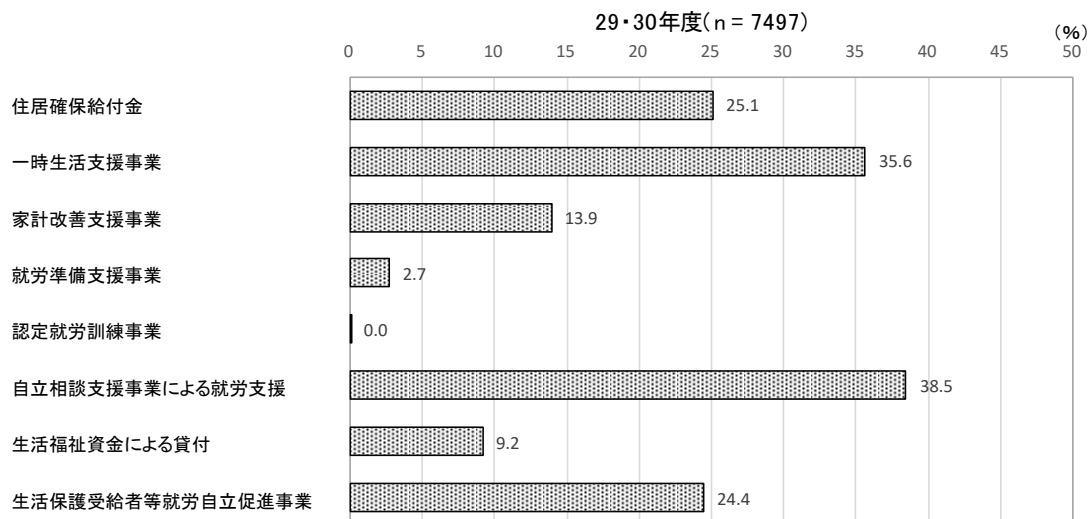
- ・経済的課題：経済的困窮、(多重・過重)債務、家計管理の課題、就職活動困難、就職定着困難)
- ・孤立系課題：ホームレス、社会的孤立(ニート、ひきこもりなどを含む)、不登校)
- ・障害：障害(手帳有)、障害(疑い)
- ・病気・けが
- ・メンタルヘルス系課題(自死企図、その他メンタルヘルス課題(うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など)

支援対象者について、アセスメント時の緊急支援の必要性についてみたところ、3割が支援が必要とされており、「自立相談支援事業による就労支援」、「一時生活支援事業」が3割を超えていた。

図表 3-4 6 緊急支援の必要性



図表 3-4 7 緊急支援の場合の具体的な支援内容

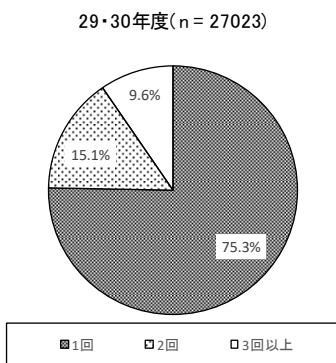


③ プラン作成状況

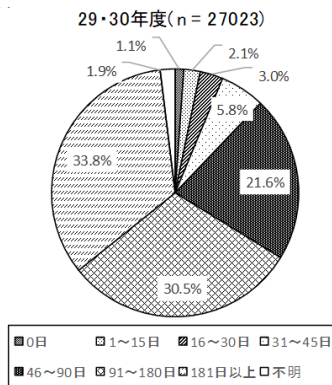
支援対象者について、プラン作成回数、決定日から終了日までの期間、再プランの終了までも含めた期間についてみると、全体の4分の3が1回のプランで終了しているが、残り4分の1は終了せず、複数回作成していた。

支援決定から終了までの期間としては、181日以上となる割合が3割を超えており、再プラン作成時も含めた期間でみると、その割合は半数近くに上っていた。

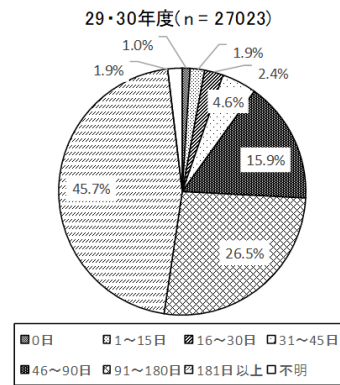
図表 3-48 プラン作成回数



図表 3-49 支援決定・確認日からプラン終了日までの期間

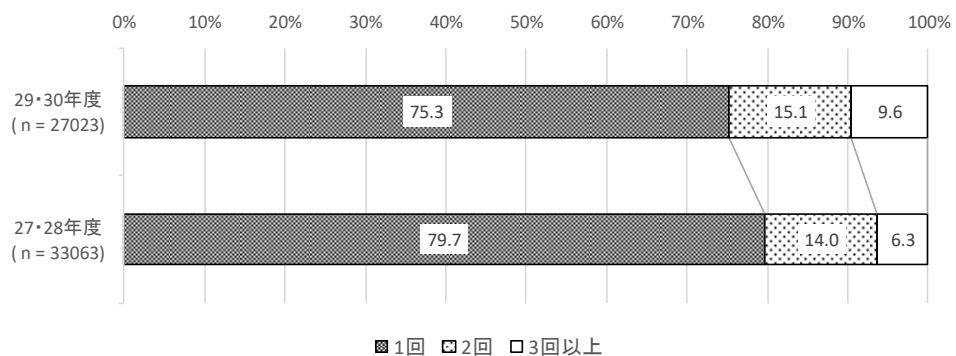


図表 3-50 再プラン作成時も含めたプラン期間

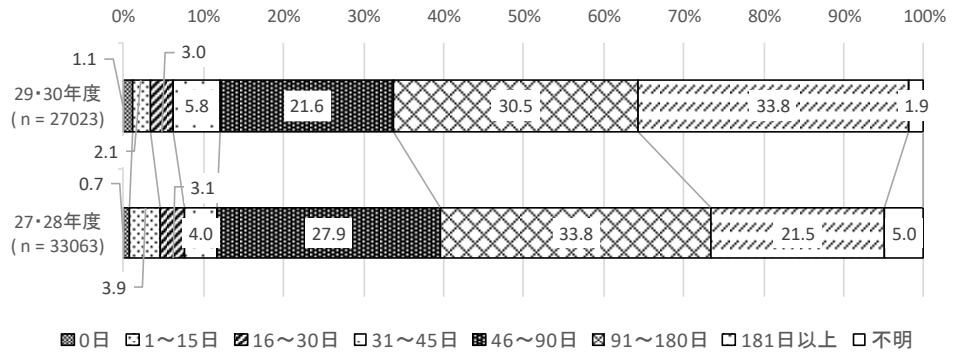


平成 29・30 年度と 27・28 年度を比較すると、プラン作成回数は若干増えており、それに伴い支援終了までの期間も長くなっていた。

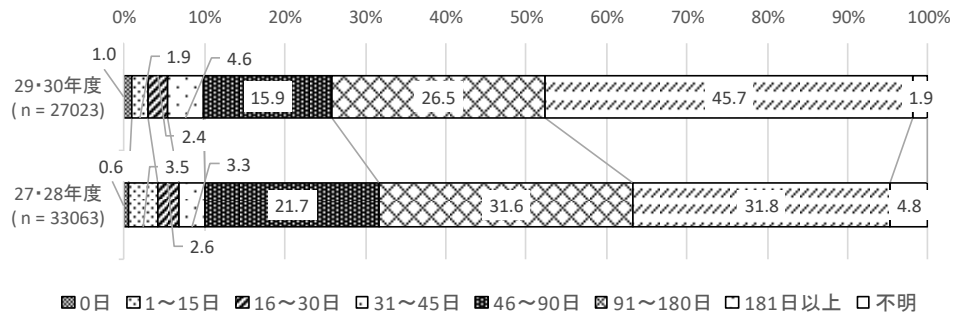
図表 3-51 プラン作成回数 (27・28 年度との比較)



図表 3-5 2 支援決定・確認日からプラン終了日までの期間 (27・28年度との比較)



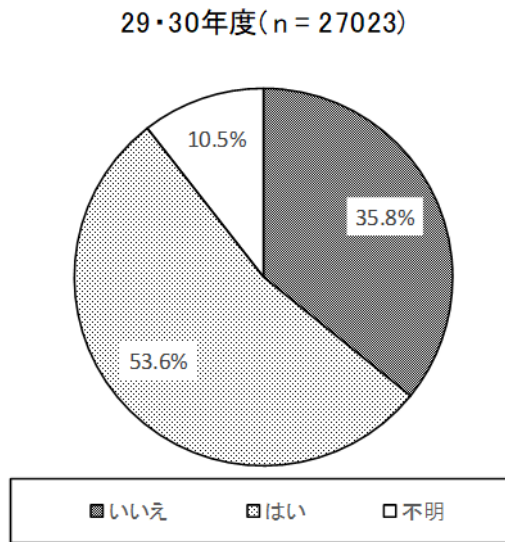
図表 3-5 3 支援対象者の再プラン作成時も含めたプラン期間 (27・28年度との比較)



④ 目標の設定状況

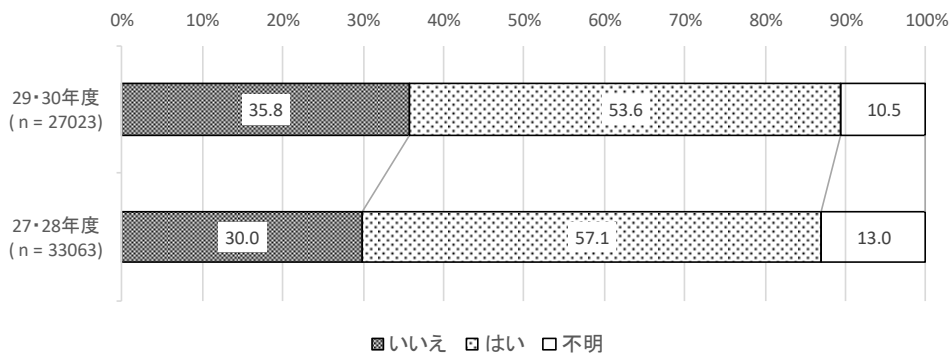
支援対象者が一般就労を目標としていたかについてみると、ほぼ半数が一般就労を目標としていた。

図表 3-5 4 プランにおける一般就労の目標設定の有無（初回プラン作成時）



平成 29・30 年度と 27・28 年度を比較すると、一般就労を目標としている割合は若干低くなっていた。

図表 3-5 5 プランにおける一般就労の目標設定の有無（初回プラン作成時）
（27・28 年度との比較）

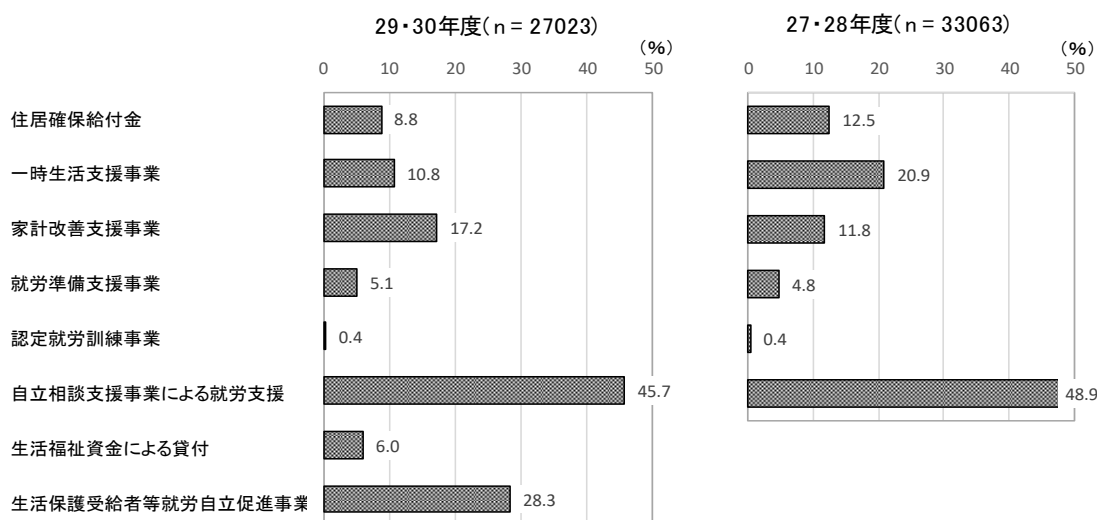


⑤ 法に基づくサービスの利用状況

支援対象者の各種サービスの利用状況をみると、最も多いのは、自立相談支援事業による就労相談で約半数を占めていた。

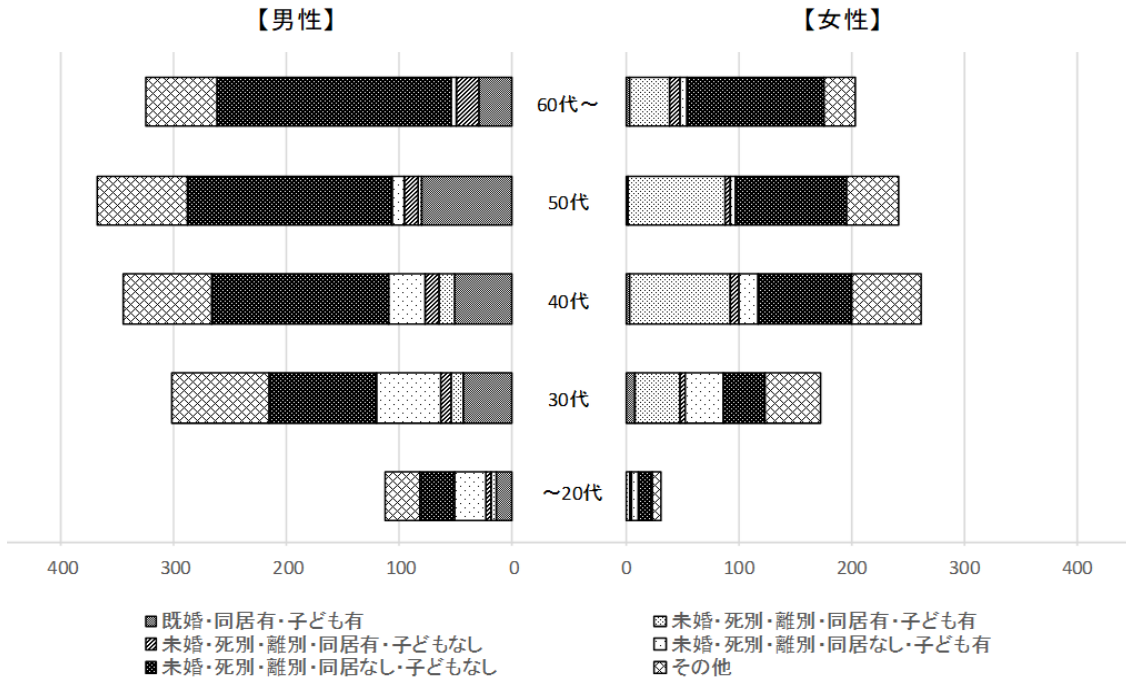
平成 29・30 年度と 27・28 年度を比較すると、一時生活支援事業をはじめ、住居確保給付金、家計改善支援事業等の利用割合が低くなっていた。

図表 3-5 6 支援対象者の法に基づくサービス等利用の状況 (27・28 年度との比較)



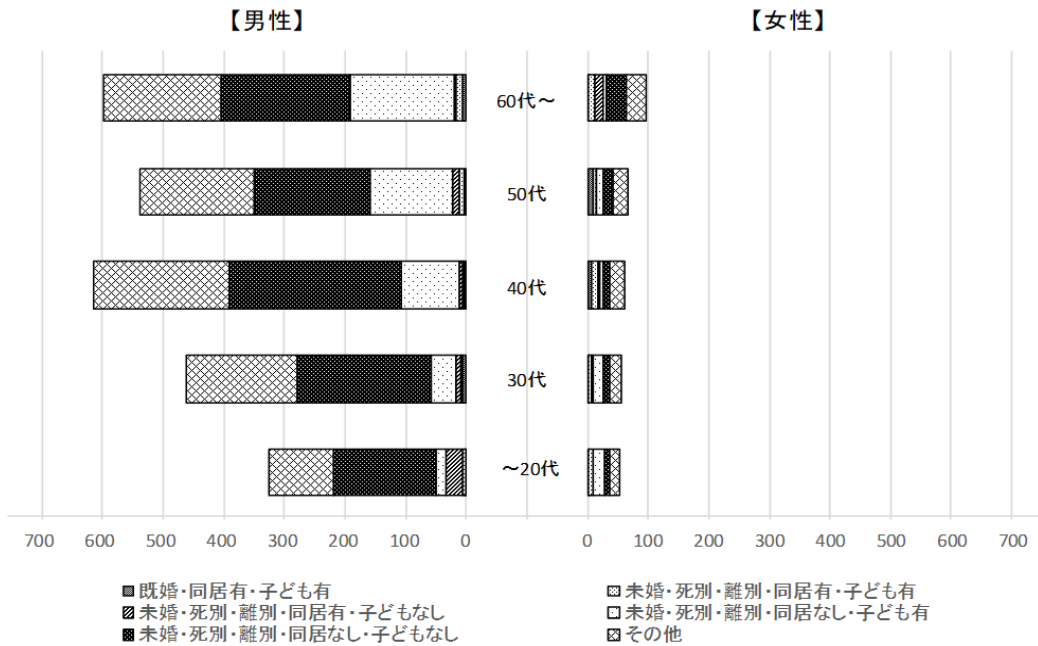
住居確保給付金の利用者の状況を男女別・年齢階層別・世帯類型別にみると、女性より男性の利用が多く、同居者・子どものいない世帯の人の利用が多くなっていた。

図表 3-57 住居確保給付金利用者の状況



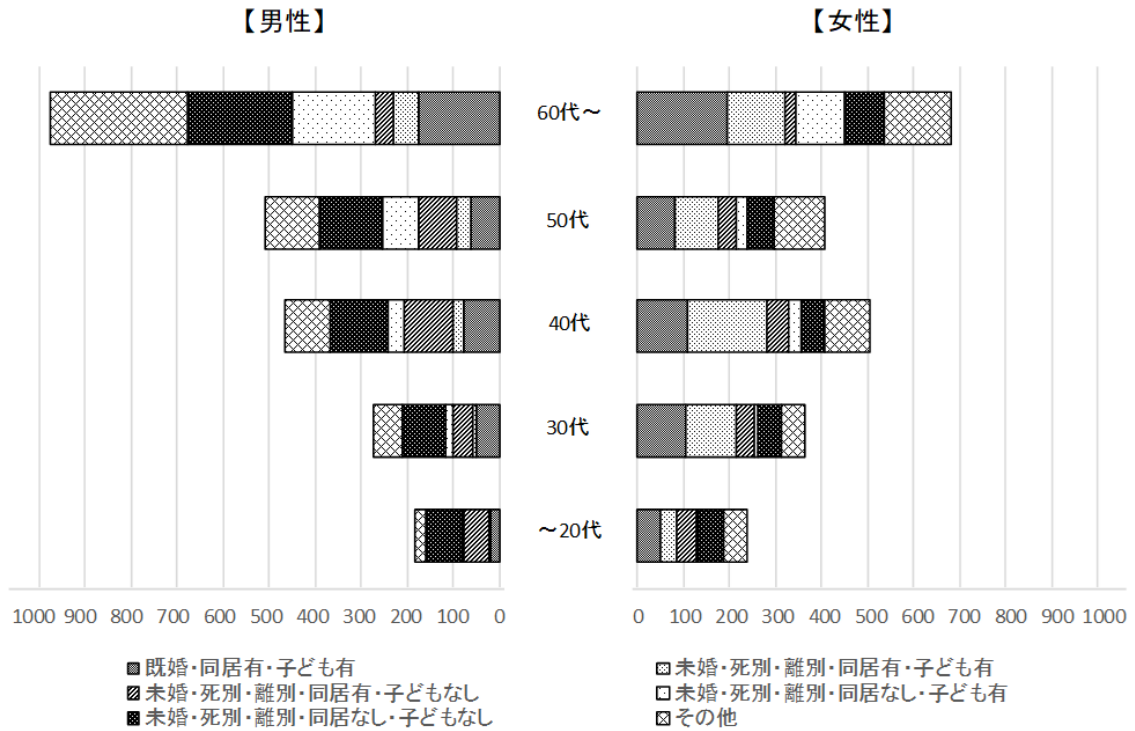
一時生活支援事業の利用者の状況を男女別・年齢階層別・世帯類型別にみると、女性より男性の利用が圧倒的に多く、同居者・子どものいない世帯の人の利用が多くなっていたが、同居者はいないものの、子どもがいる世帯の人の利用は年齢階層が高くなるにつれて増えていた。

図表 3-58 一時生活支援事業利用者の状況



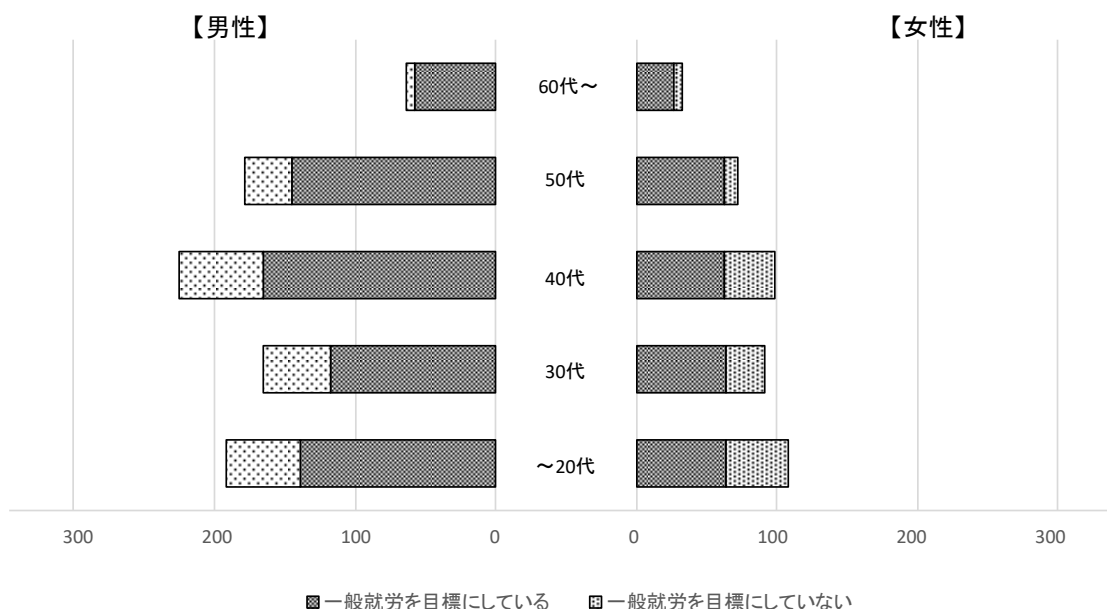
家計改善支援事業の利用者の状況を男女別・年齢階層別・世帯類型別にみると、女性より男性の利用が多く、男性では同居者・子どものいない世帯の人の利用が多くなっていたが、女性では既婚で子どもの同居がある人や未婚・離別等で子どものいる人が多くなっていた。

図表 3-59 家計改善支援事業利用者の状況



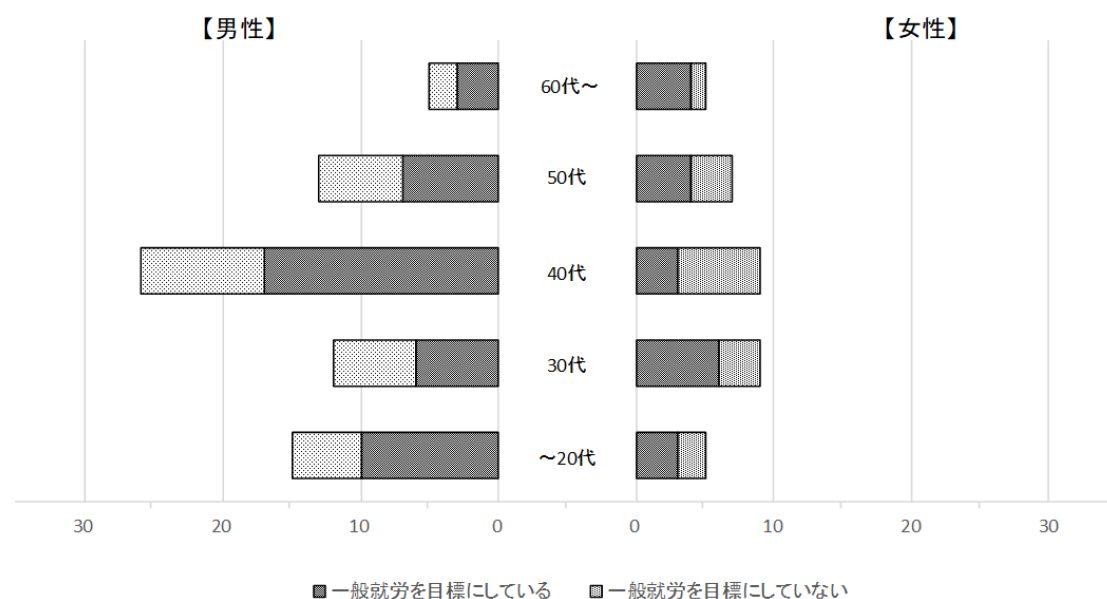
就労準備支援事業の利用者の状況を男女別・年齢階層別・一般就労を目標としているかの別にみると、女性より男性の利用が多く、60歳代以上の利用は少ないが、大半が一般就労を目標として設定していた。

図表 3-60 就労準備支援事業利用者の状況



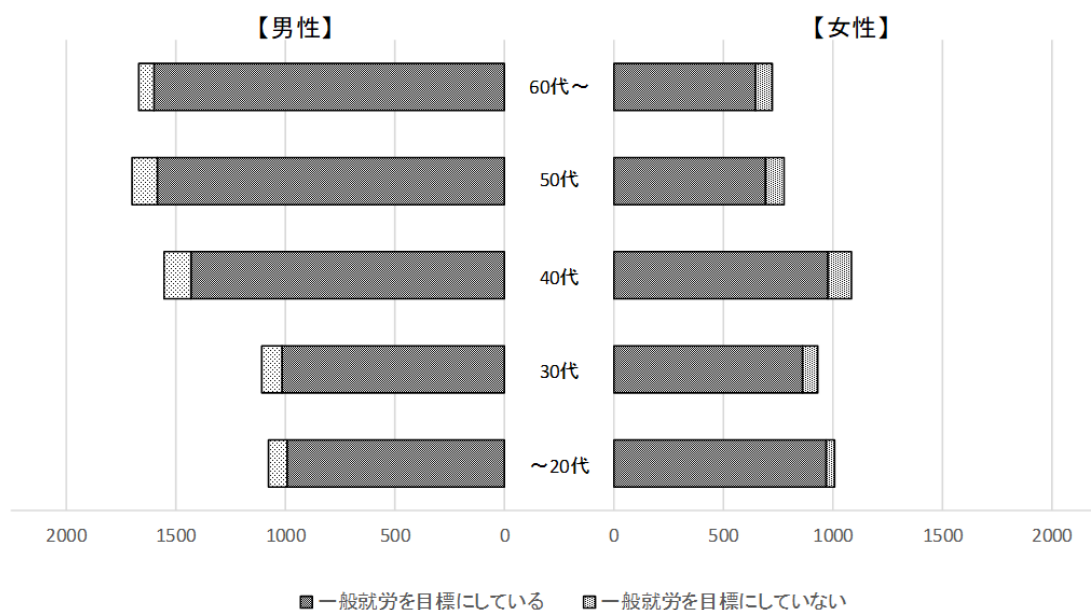
認定就労訓練事業の利用者の状況を男女別・年齢階層別・一般就労を目標としているかの別にみると、女性より男性の利用が多く、60歳代以上の利用はすくないが、各性・年齢階層別にみると半数以上が一般就労を目標として設定していた。

図表 3-61 認定就労訓練事業利用者の状況



自立相談支援事業による就労支援の利用者の状況を男女別・年齢階層別・一般就労を目標としているかの別にみると、女性より男性の利用が多く、男女とも60歳代以上も一定の人数の利用があった。また各性・年齢階層別にみると大半が一般就労を目標として設定していた。

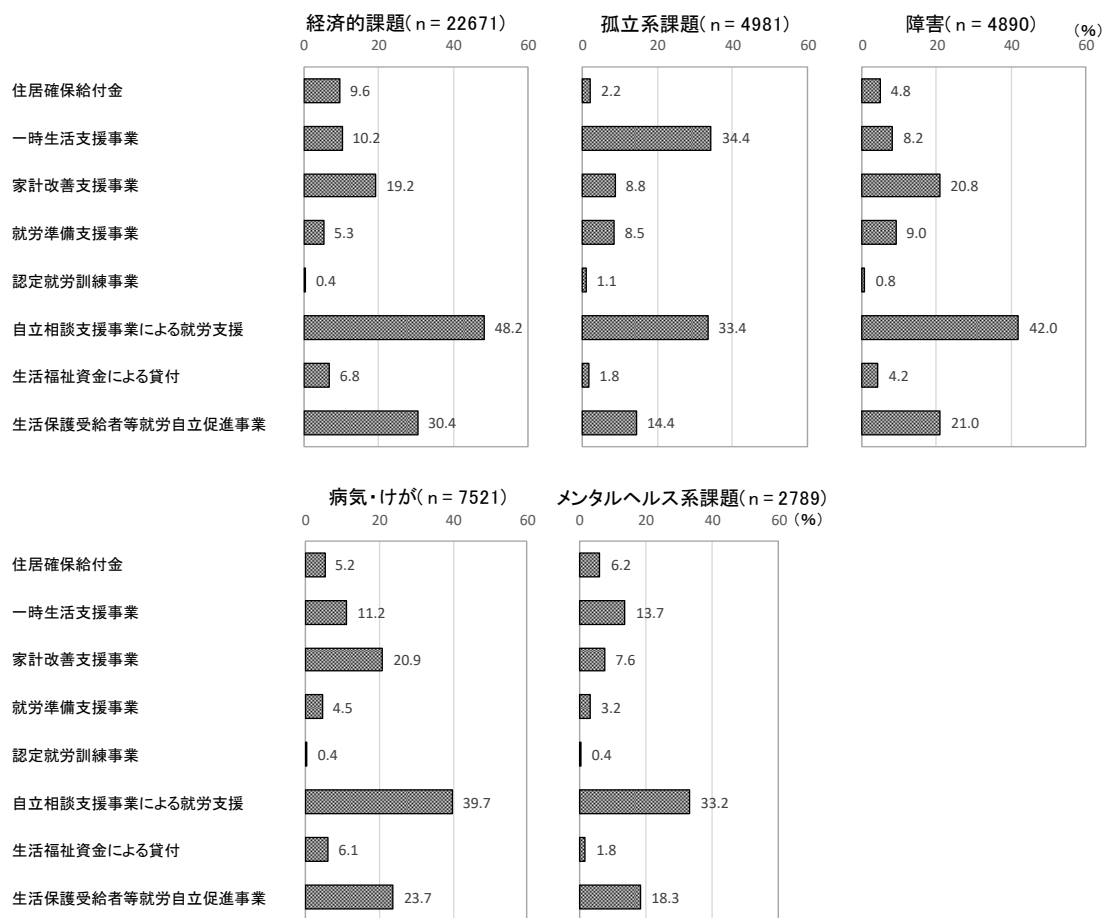
図表 3-6 2 自立相談支援事業による就労支援



アセスメント時に把握された課題別に、利用するサービスの状況をみると、いずれの課題の場合も、「自立相談支援事業による就労支援」を利用している割合が最も高くなっており、経済的課題を抱えている人は約半数が利用していた。

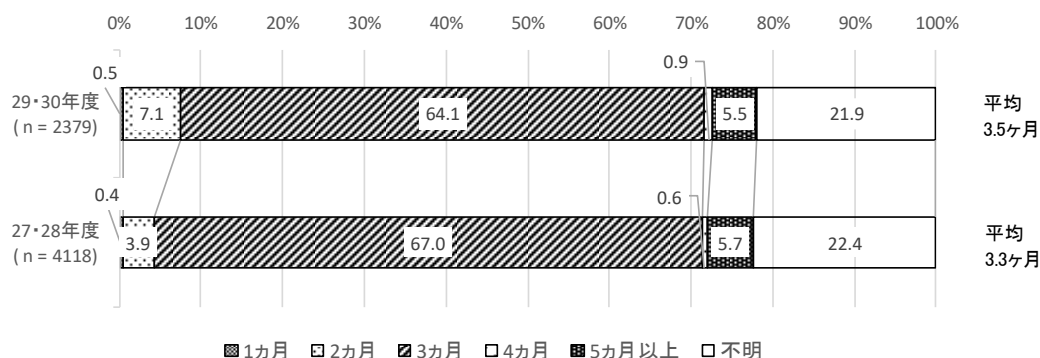
その他特徴的なのは、孤立系課題を抱えている人で、「一時生活支援事業」を利用している人の割合が3割と他の課題を抱えている人よりも高くなっていました。

図表 3-6 3 抱える課題別のサービス利用割合

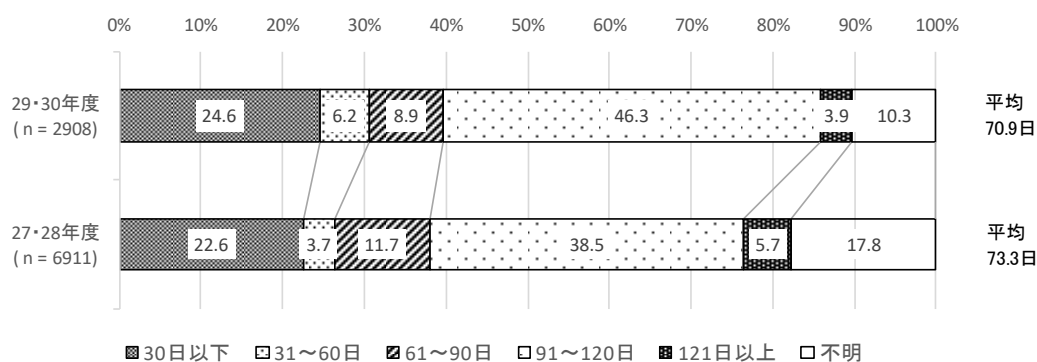


各サービスの利用状況について、その期間を平成 29・30 年度の利用者と平成 27・28 年度の利用者で比較したところ、その期間の長さはサービス種別によってまちまちであった。

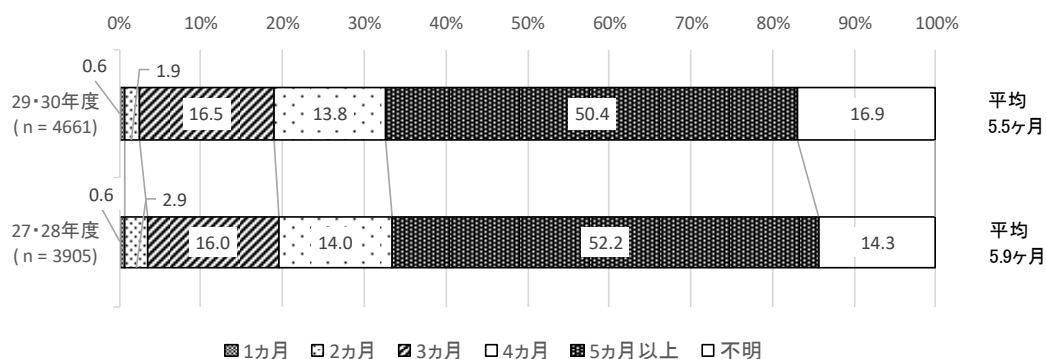
**図表 3-64 プランに基づく住居確保給付金の支援期間（初回プラン時のみ）
（27・28年度との比較）**



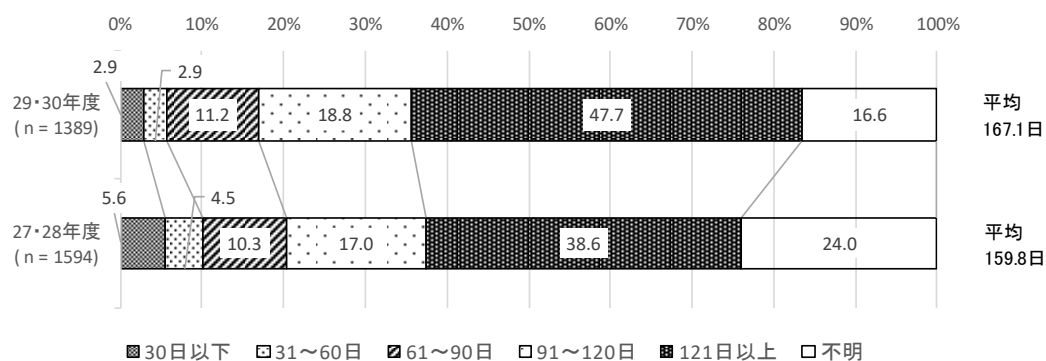
**図表 3-65 プランに基づく一時生活支援事業の支援期間（初回プラン時のみ）
（27・28年度との比較）**



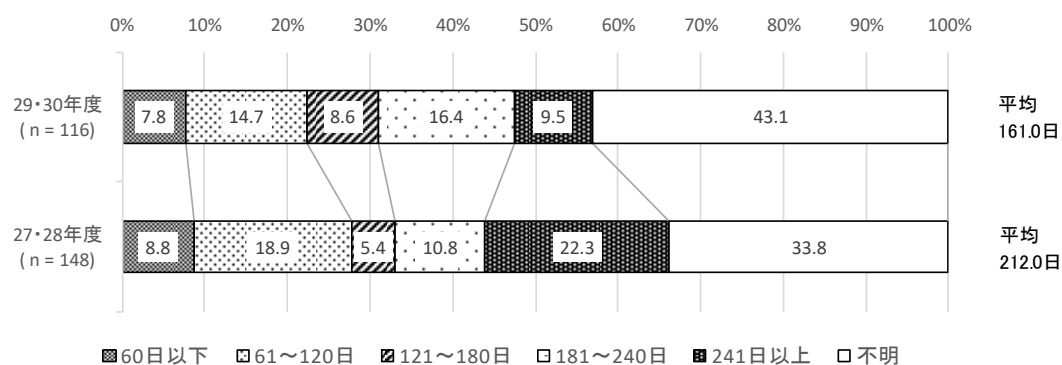
**図表 3-66 プランに基づく家計改善支援事業の支援期間（初回プラン時のみ）
（27・28年度との比較）**



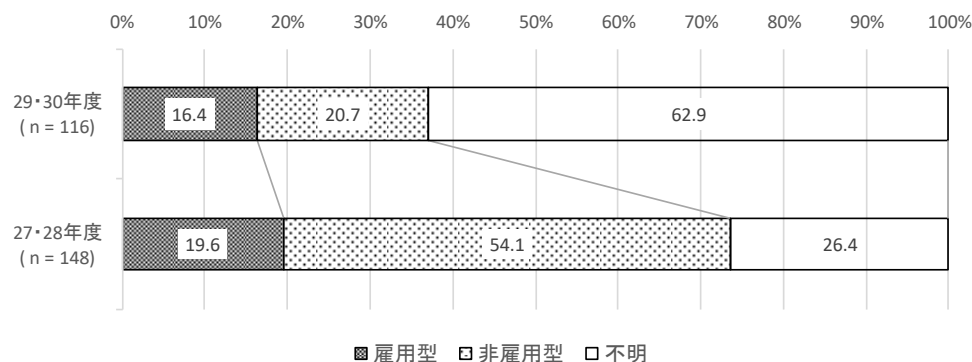
図表 3-67 プランに基づく就労準備支援事業の支援期間（初回プラン時のみ）
（27・28年度との比較）



図表 3-68 プランに基づく認定就労訓練事業の支援期間（初回プラン時のみ）
（27・28年度との比較）



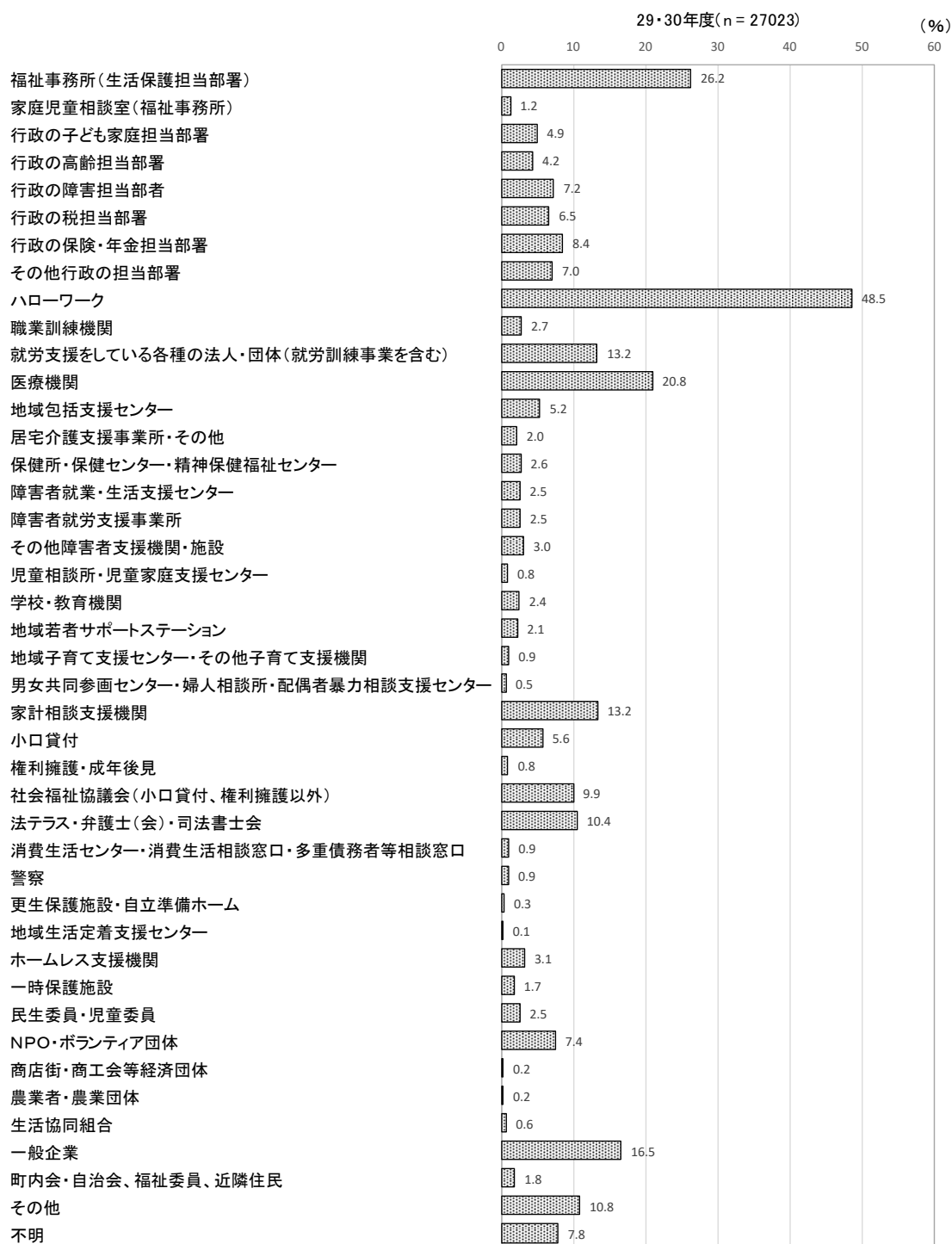
図表 3-69 プランに基づく認定就労訓練事業の形態（初回プラン時のみ）
（27・28年度との比較）



⑥ プランに関わる関係機関・関係者

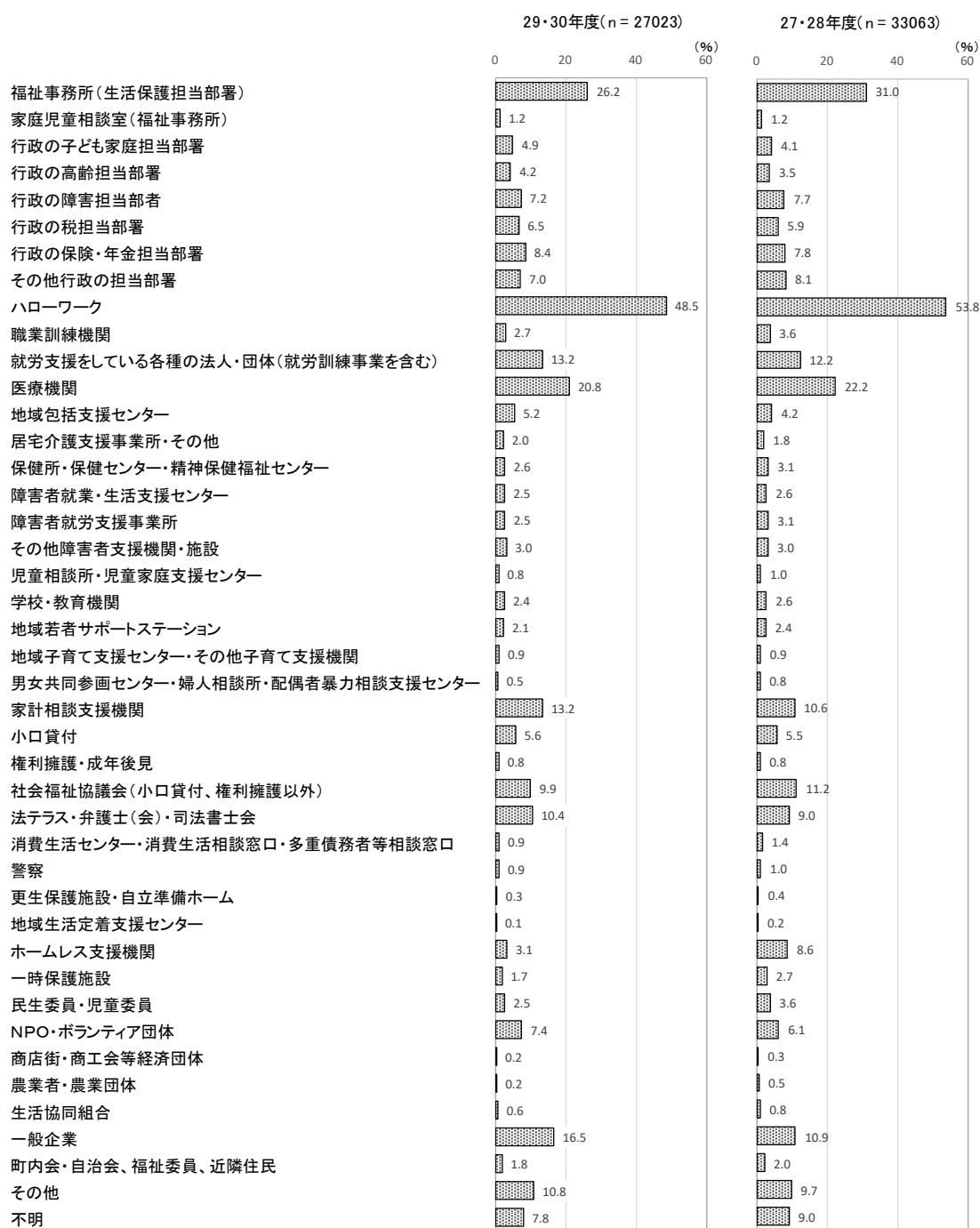
プラン作成時に、プランに関わる関係機関・関係者を見たところ、最も多いのは「ハローワーク」で5割近かった。次いで「福祉事務所（生活保護担当部署）」が3割となっていた。

図表 3-70 プランに関わる関係機関・関係者（初回プラン作成時）



プランに関わる関係機関・関係者について、27・28年度で比較をしたところ、顕著な差は見られなかった。

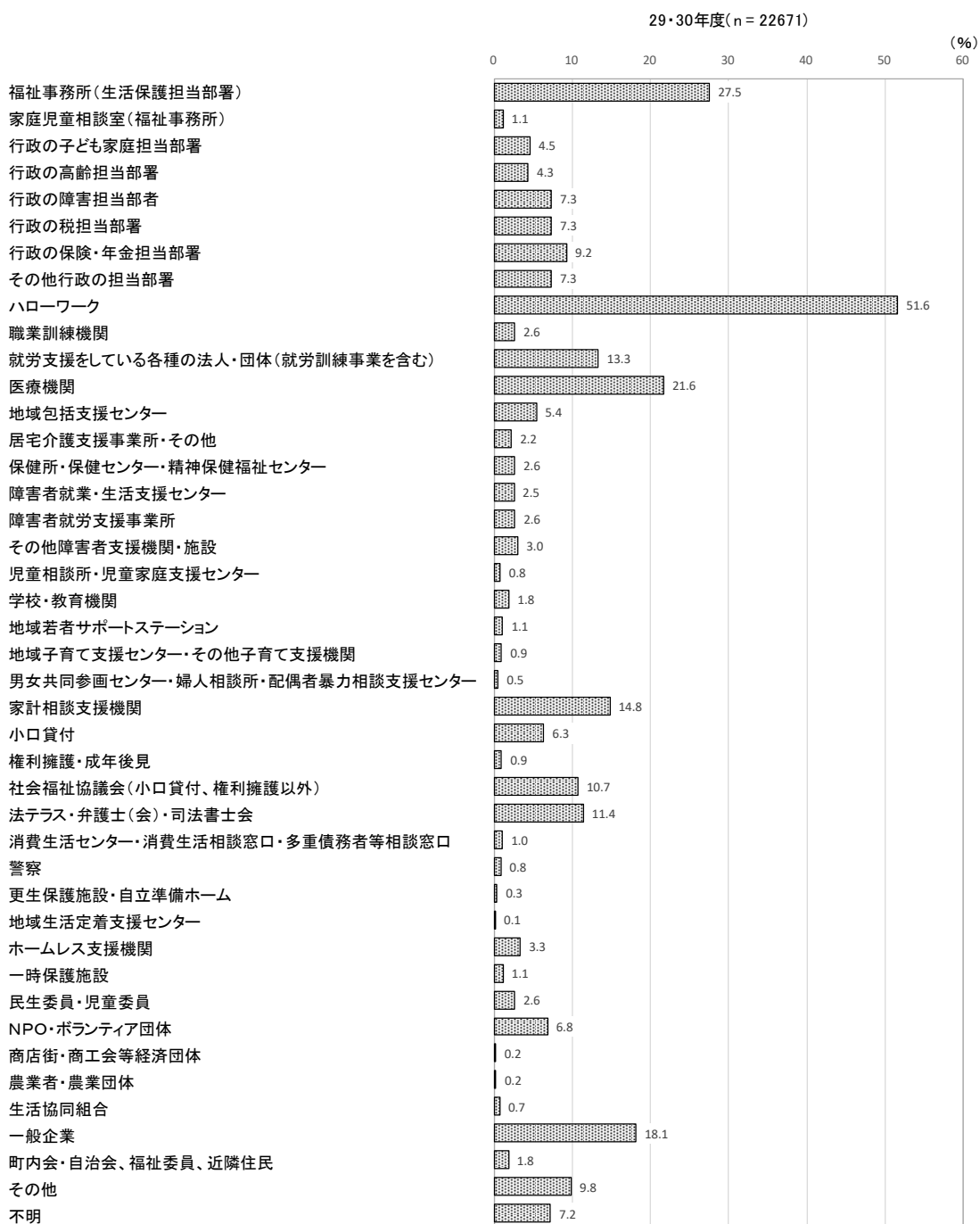
図表 3-7 1 プランに関わる関係機関・関係者（初回プラン作成時）
（27・28年度との比較）



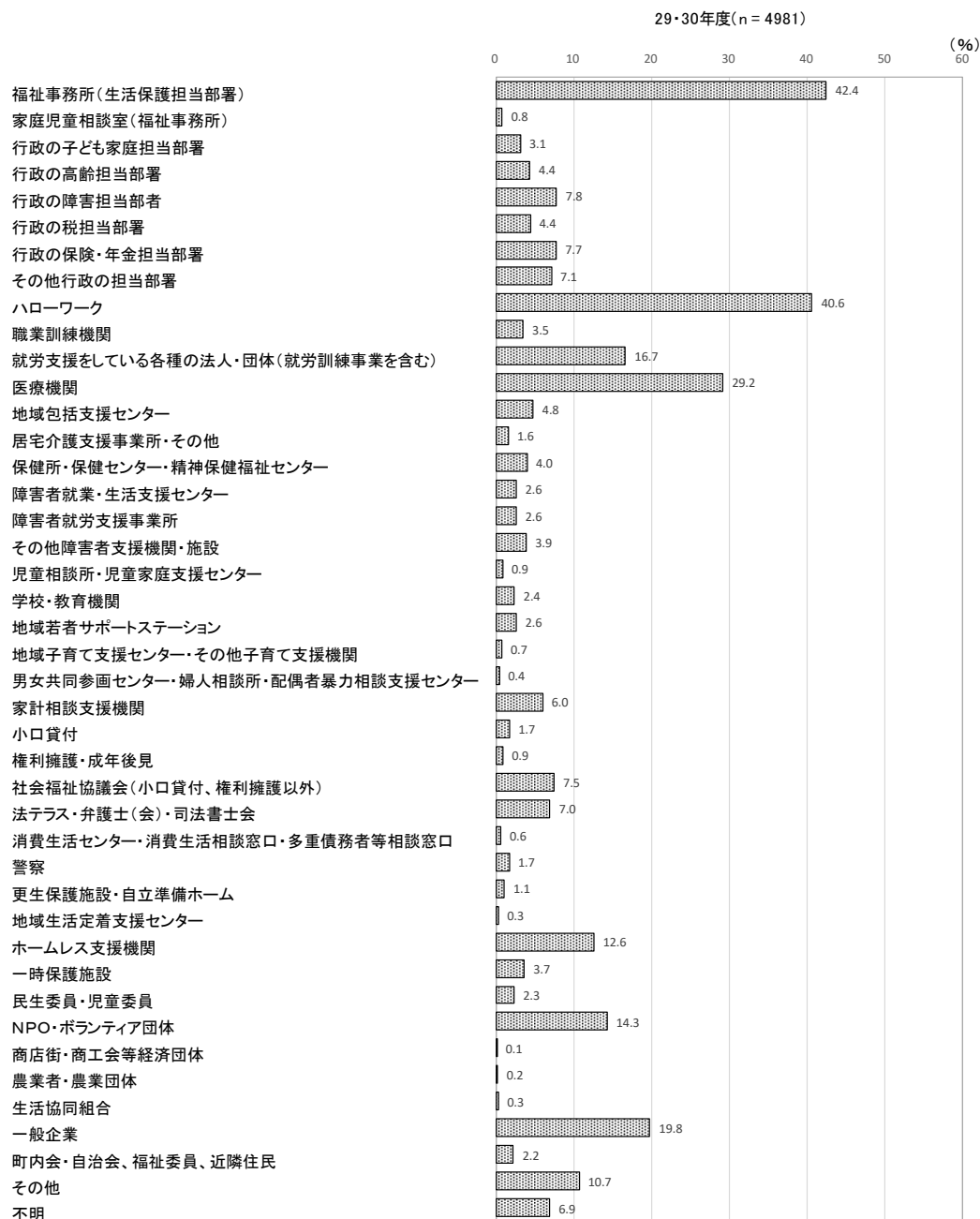
抱えている課題別にプランに関わる関係機関・関係者をみると、社会的孤立に課題を抱えている人については、「福祉事務所（生活保護担当部署）」が関与している割合が高くなっていた。

また、病気・けがを抱えている人、障害のある人、メンタルヘルス系課題を抱えている人については、「医療機関」が関与している割合が高くなっていた。

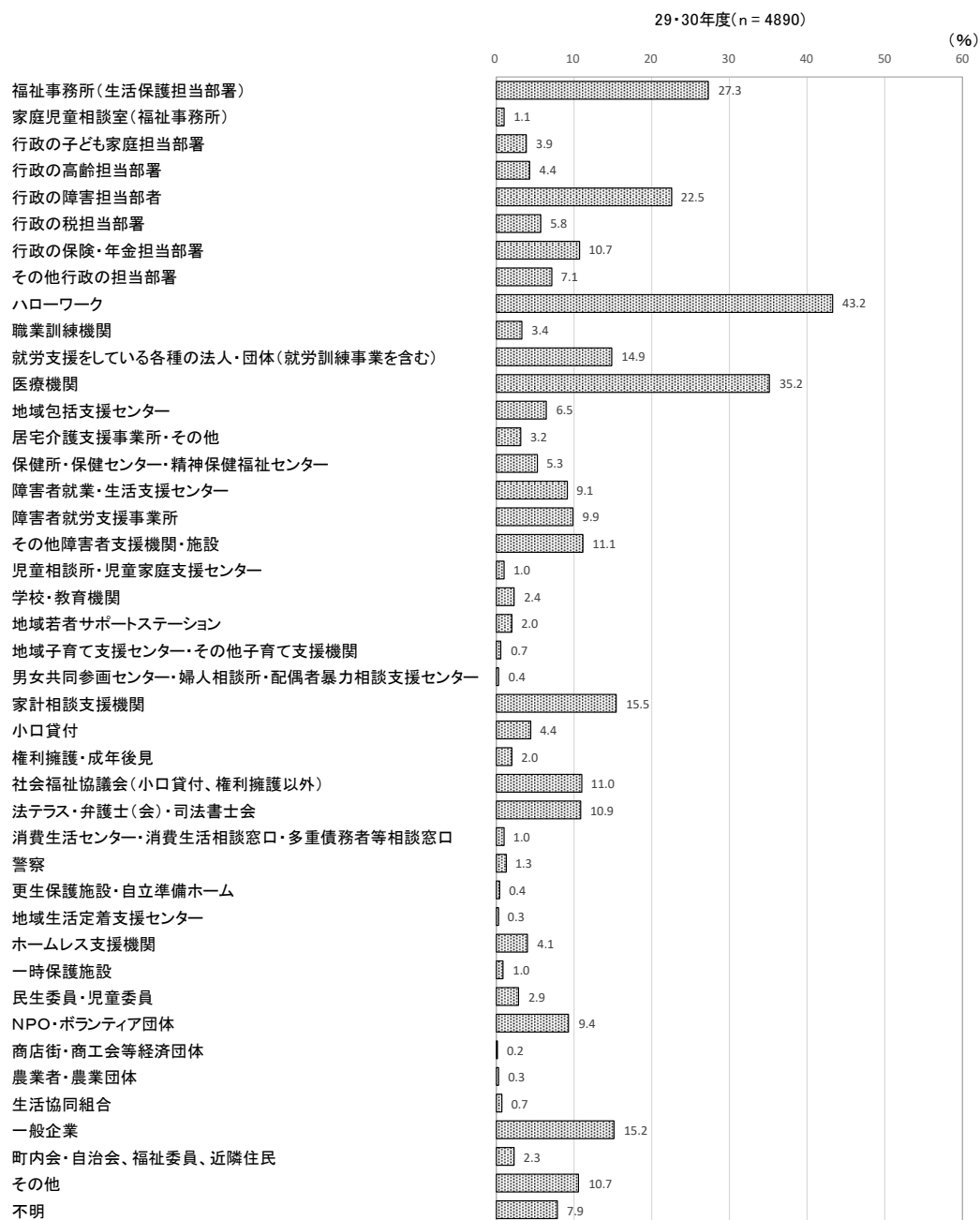
図表 3-7 2 経済的課題を抱えている人のプランに関わる関係機関・関係者（初回プラン作成時）



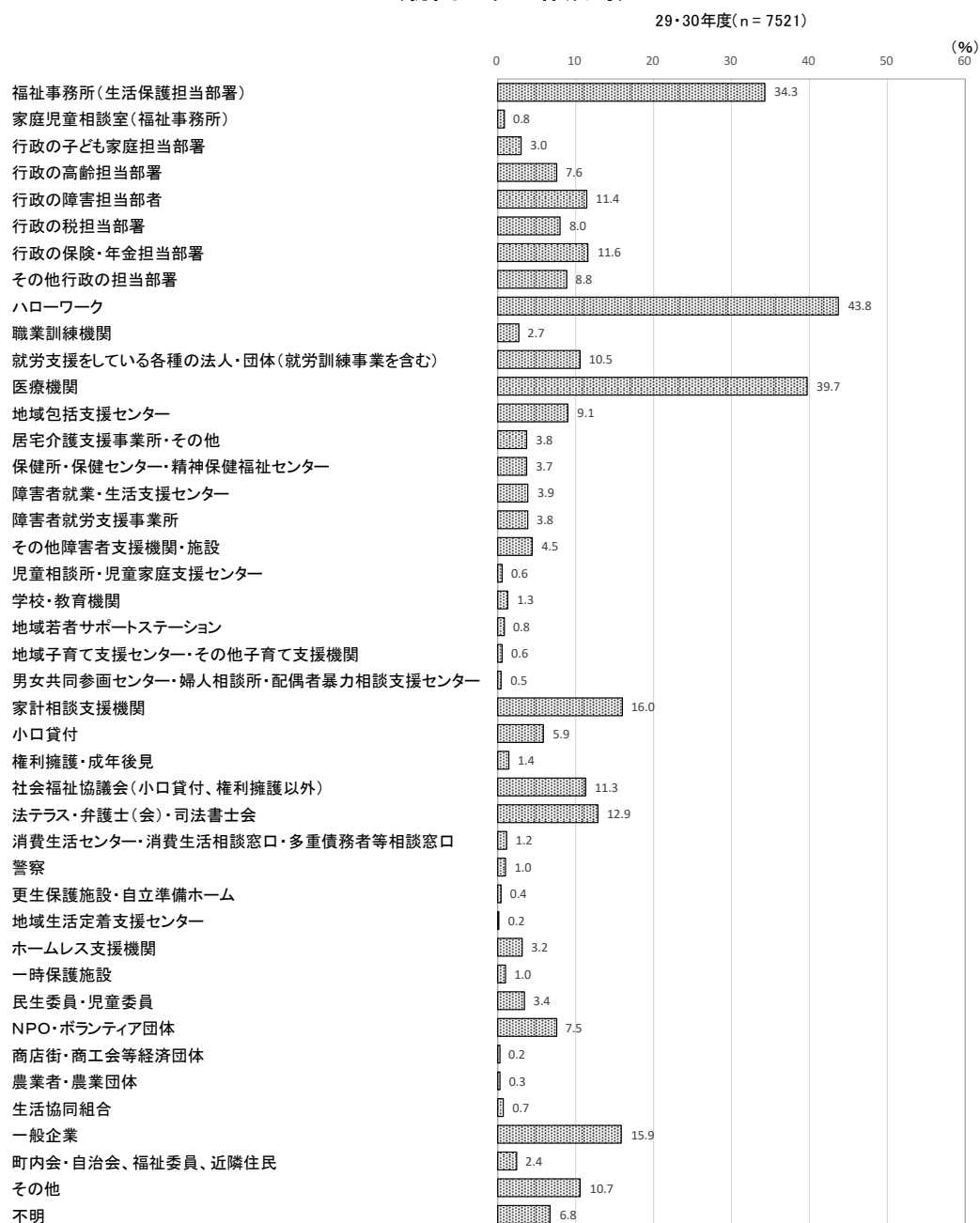
図表 3-73 孤立系課題を抱えている人のプランに関わる関係機関・関係者
(初回プラン作成時)



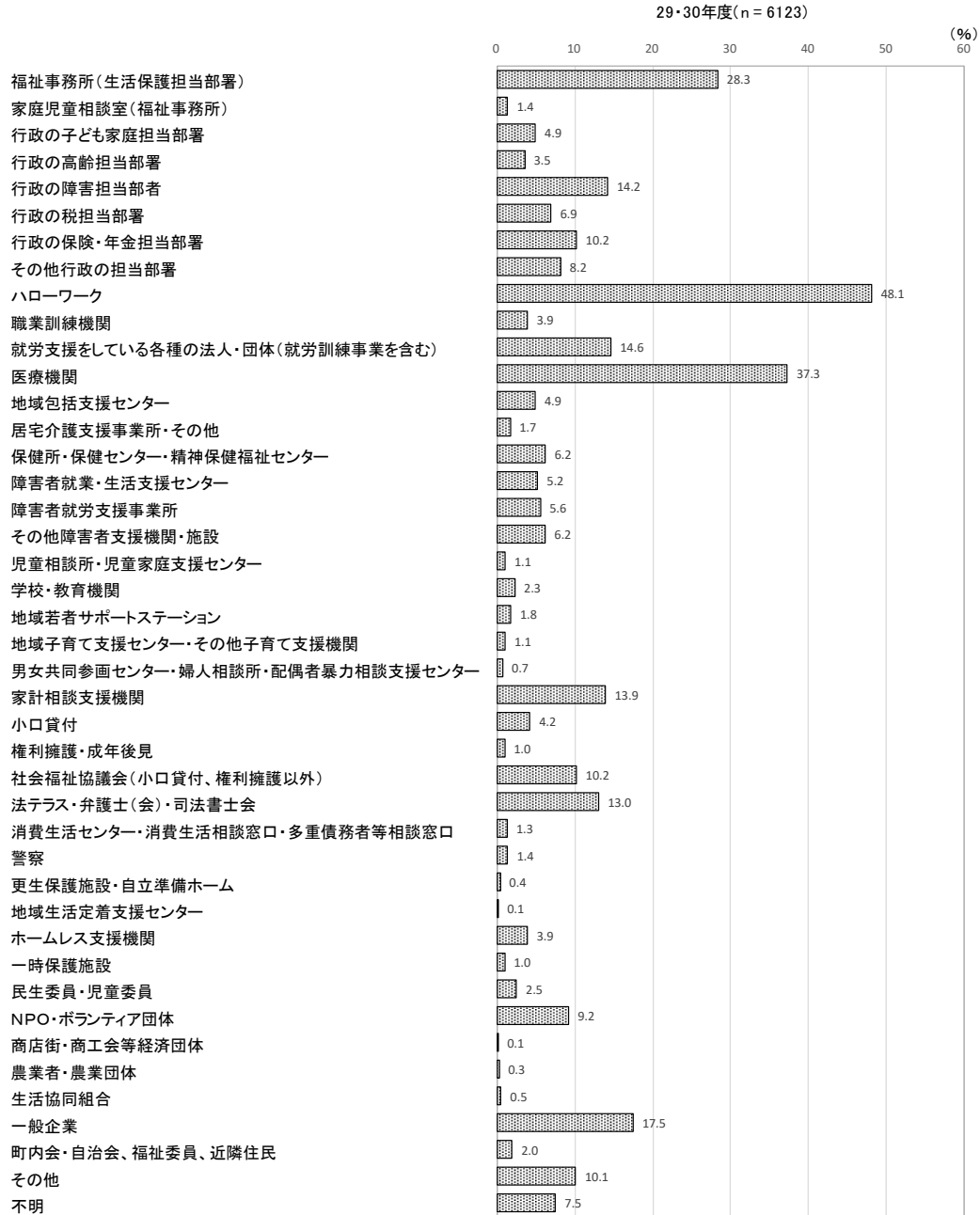
図表 3-7 4 障害のある人のプランに関わる関係機関・関係者（初回プラン作成時）



図表 3-75 病気・けがを抱えている人のプランに関わる関係機関・関係者
(初回プラン作成時)

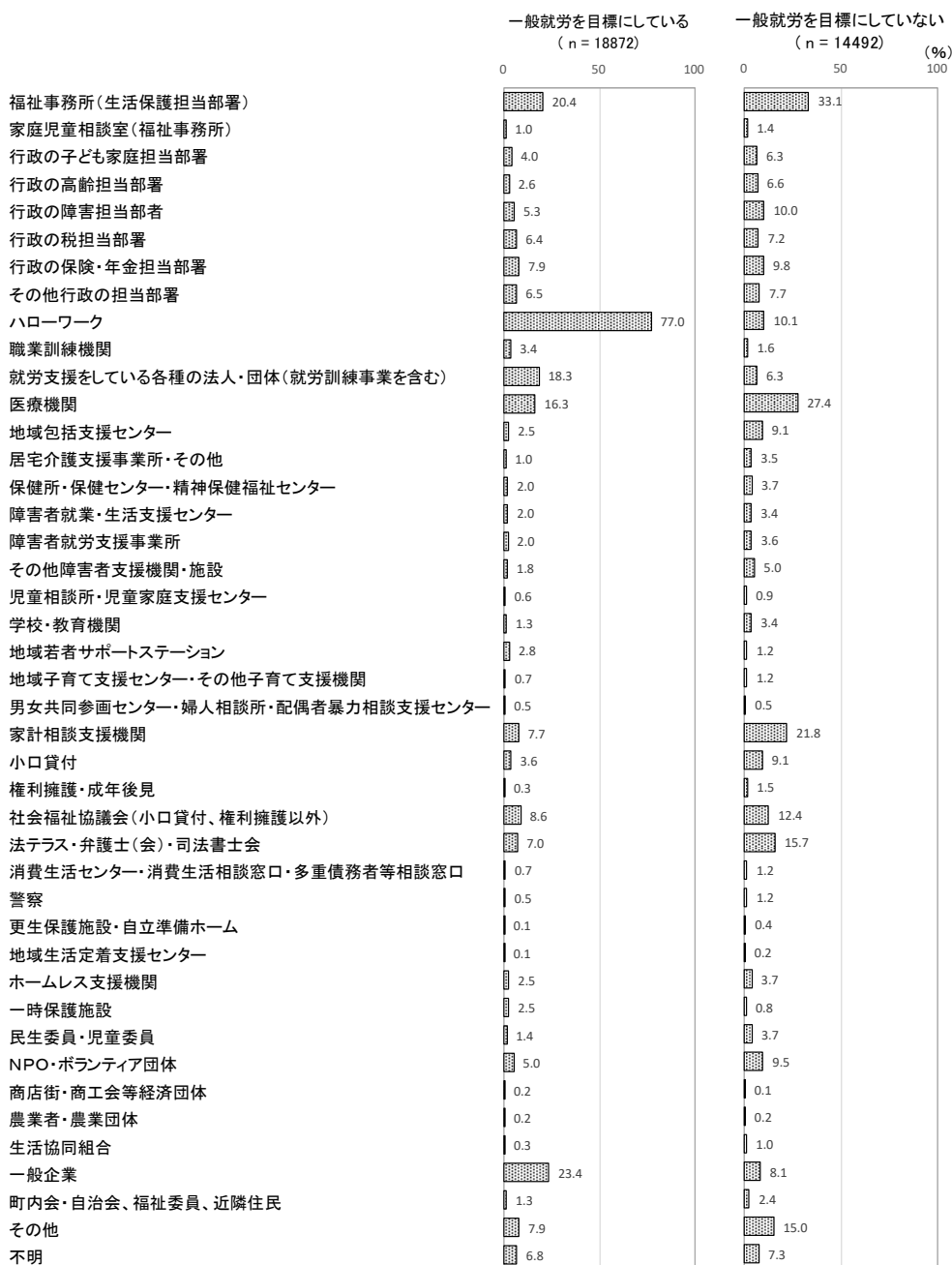


図表 3-76 メンタルヘルス系課題を抱えている人のプランに関わる関係機関・関係者
(初回プラン作成時)



一般就労を目標として設定しているか否か別にプランに関わる関係機関・関係者を見たところ、一般就労を目標としている場合は「ハローワーク」が8割と最も高くなっていたが、一般就労を目標としていない場合は、「福祉事務所（生活保護担当部署）」が最も高くなっていた。

図表 3-77 一般就労の目標設定状況別のプランに関わる関係機関・関係者
(初回プラン作成時)



各利用サービス別にプランに関わる関係機関・関係者を見たところ、住居確保給付金の利用者では、「ハローワーク」が最も高く、8割を超えていた。

また、一時生活支援事業利用者については、「福祉事務所（生活保護担当部署）」が最も高く7割、家計改善支援事業利用者については、「家計相談支援機関」が7割となっていた。

就労系のサービスでも関わる関係機関・関係者は異なっており、就労準備支援事業利用者については、「ハローワーク」、「就労支援をしている各種の法人・団体（就労訓練事業を含む）」が5割を超えていた。

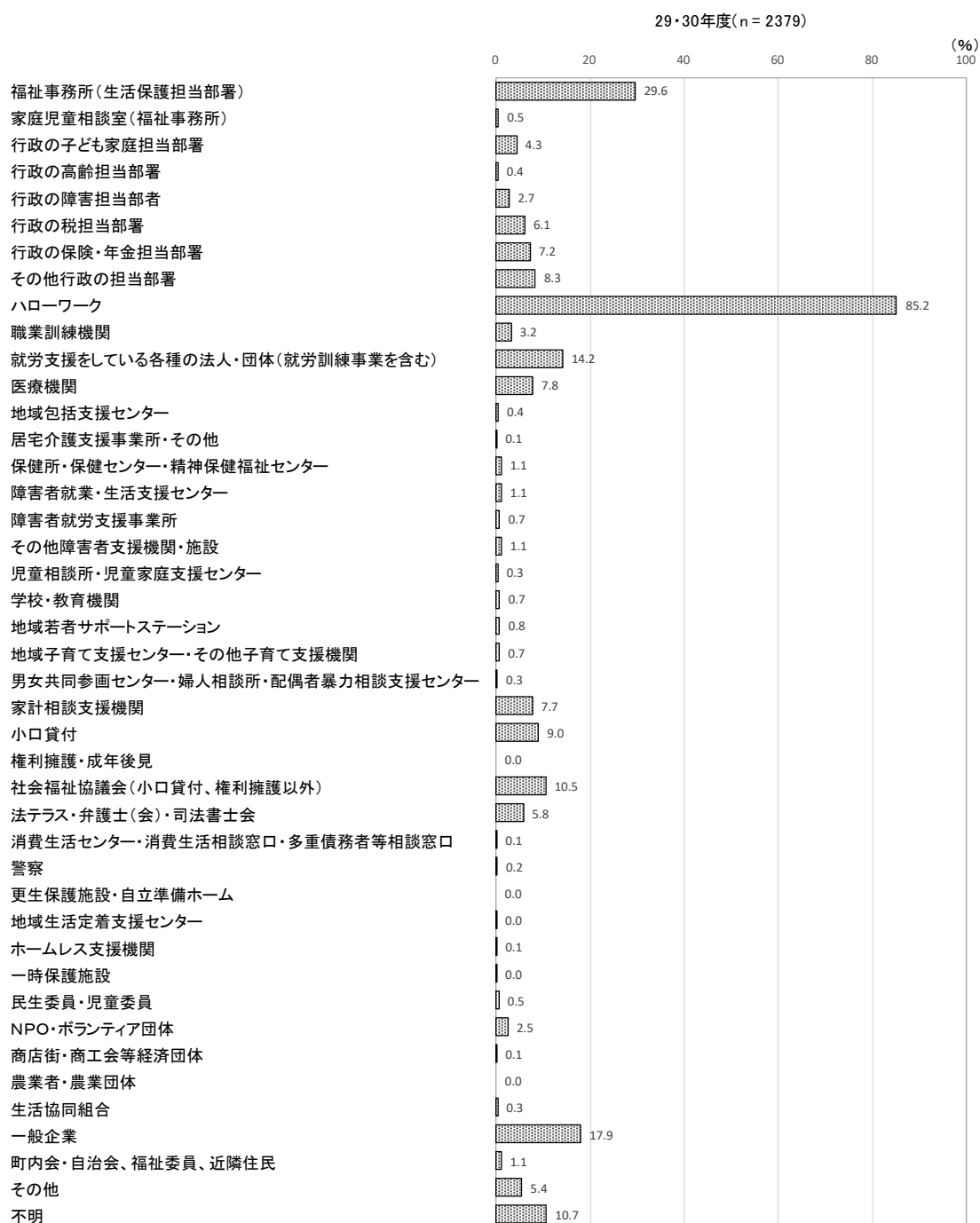
認定就労訓練事業利用者については、「就労支援をしている各種の法人・団体（就労訓練事業を含む）」が7割、「ハローワーク」が4割となっていた。

自立相談支援事業による就労支援利用者の場合は、「ハローワーク」が最も高く7割を超えていた。

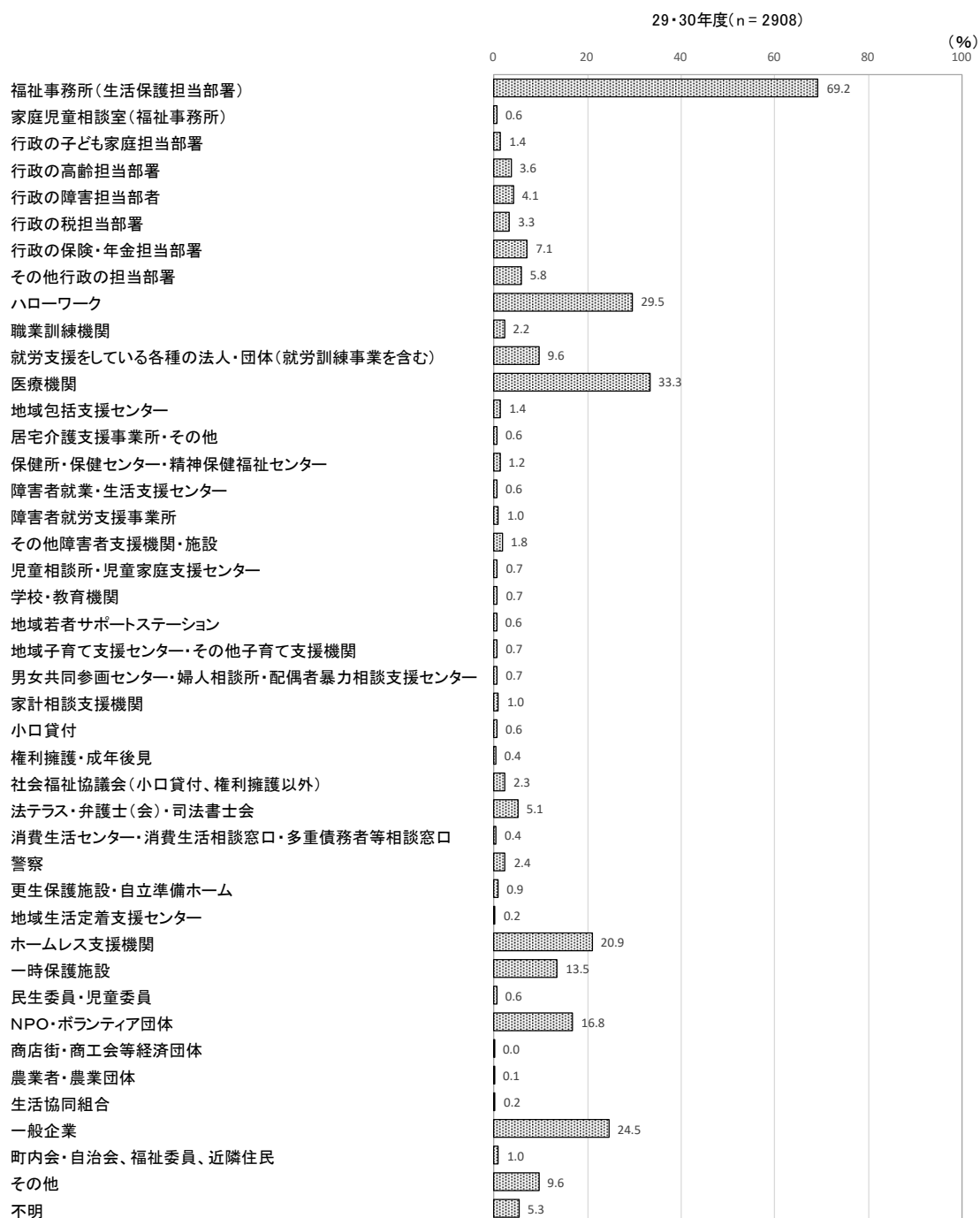
生活福祉資金による貸付利用者のプランに関わる関係機関・関係者としては、「小口貸付」が最も多く7割となっており、次いで「ハローワーク」、「社会福祉協議会（小口貸付、権利擁護以外）」が3割を超えていた。

生活保護受給者等就労自立促進事業利用者のプランに関わる関係機関・関係者については、「ハローワーク」が9割を超えていた。

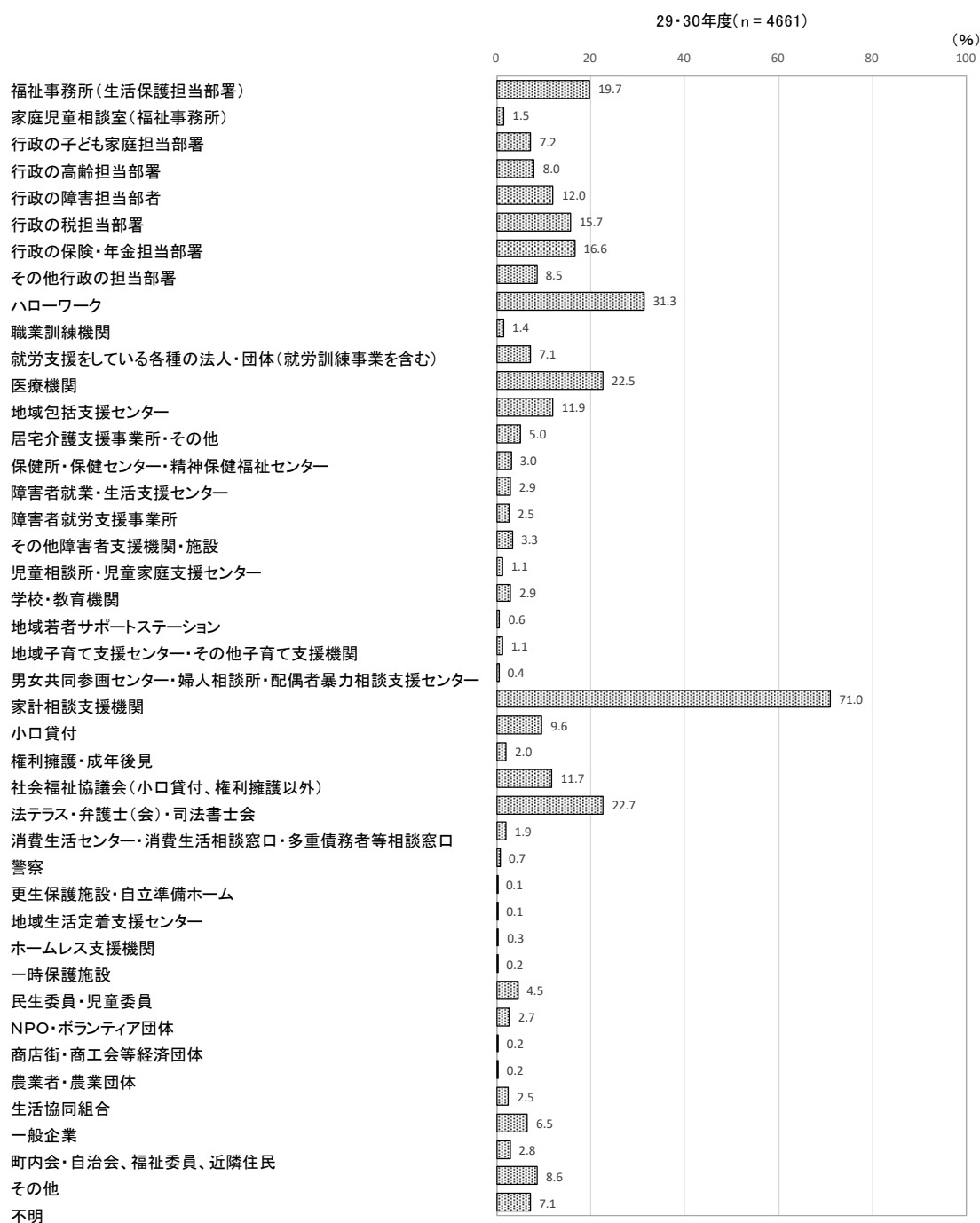
図表 3-78 住居確保給付金利用者のプランに関わる関係機関・関係者



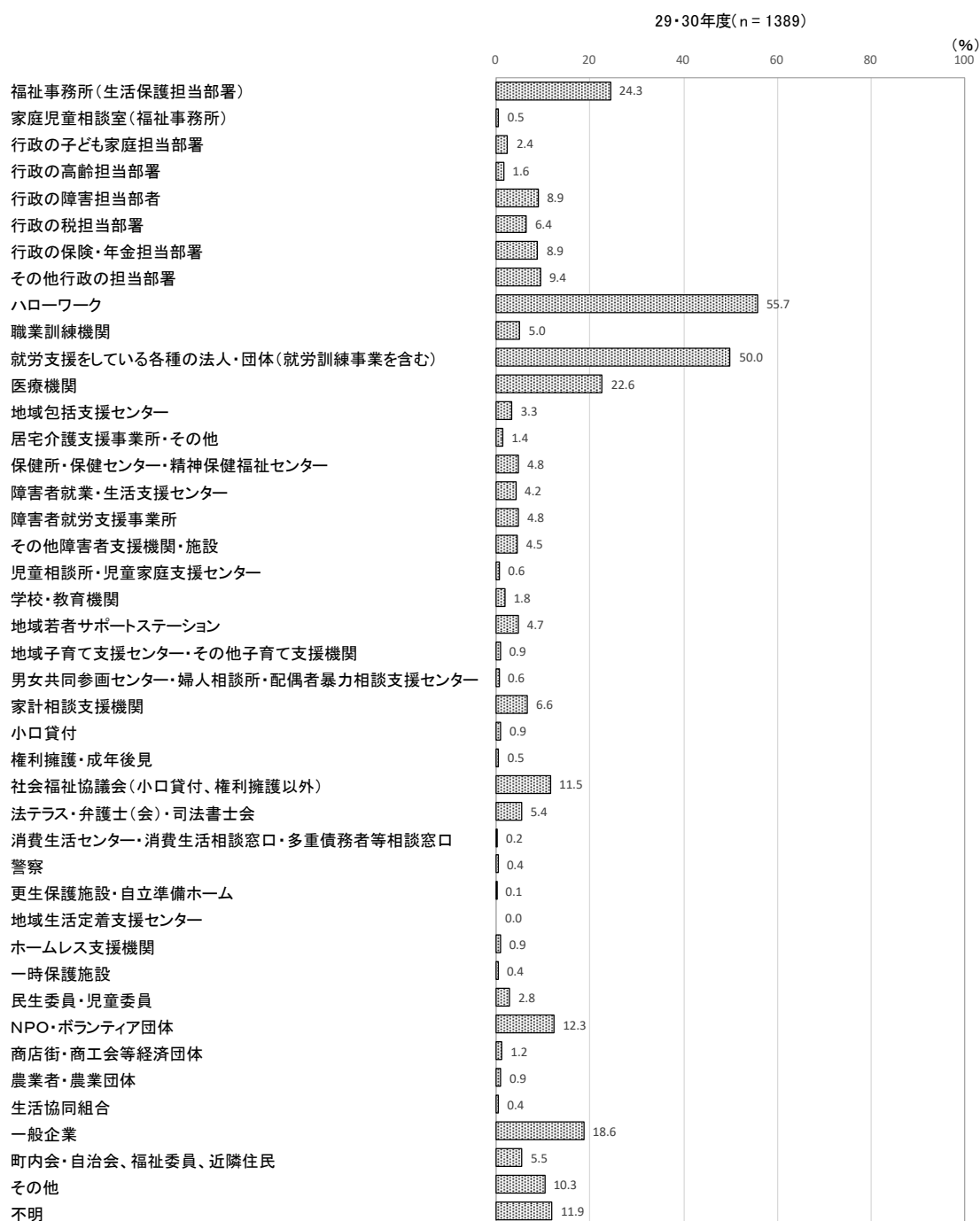
図表 3-7 9 一時生活支援事業利用者のプランに関わる関係機関・関係者



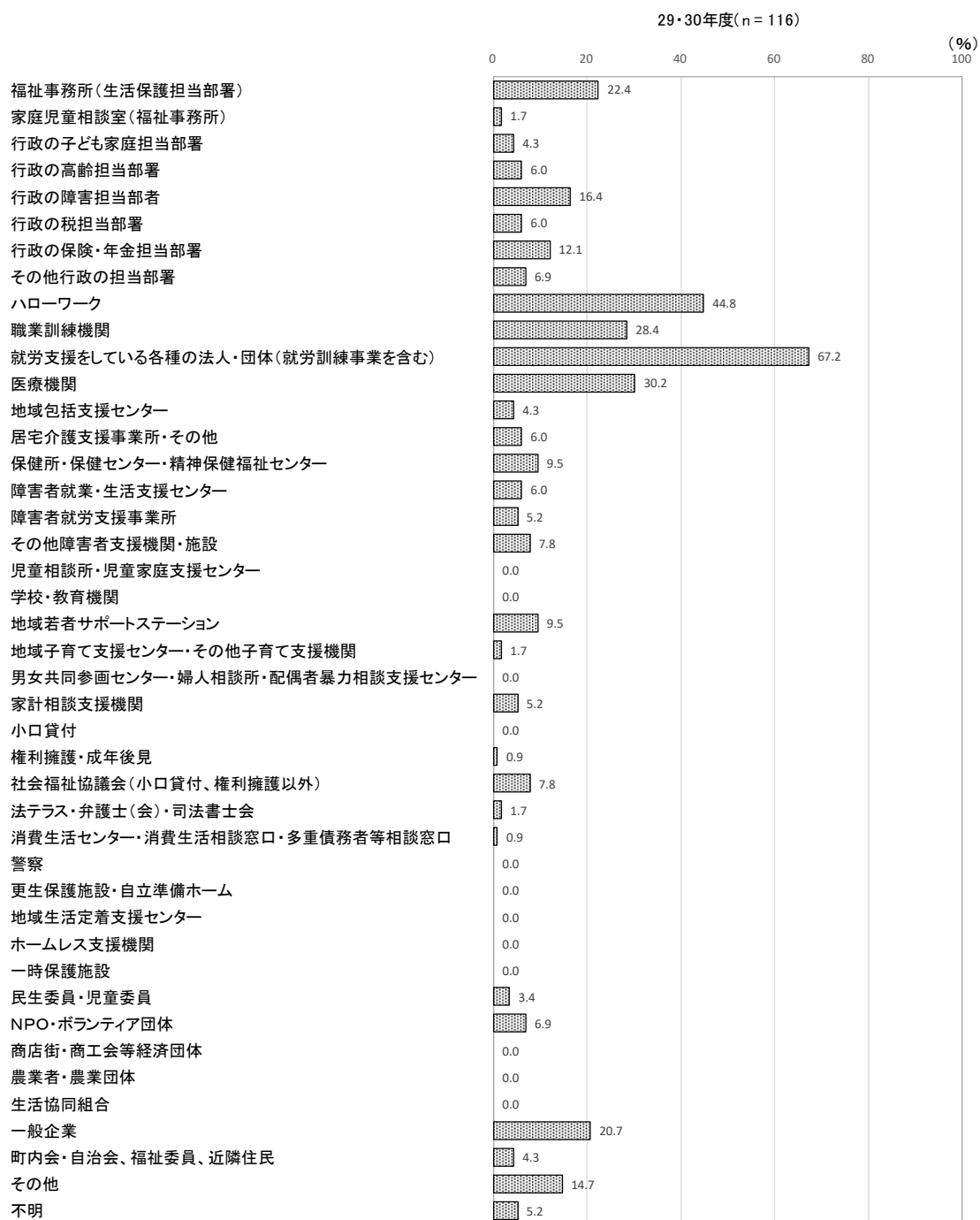
図表 3-80 家計改善支援事業利用者のプランに関わる関係機関・関係者



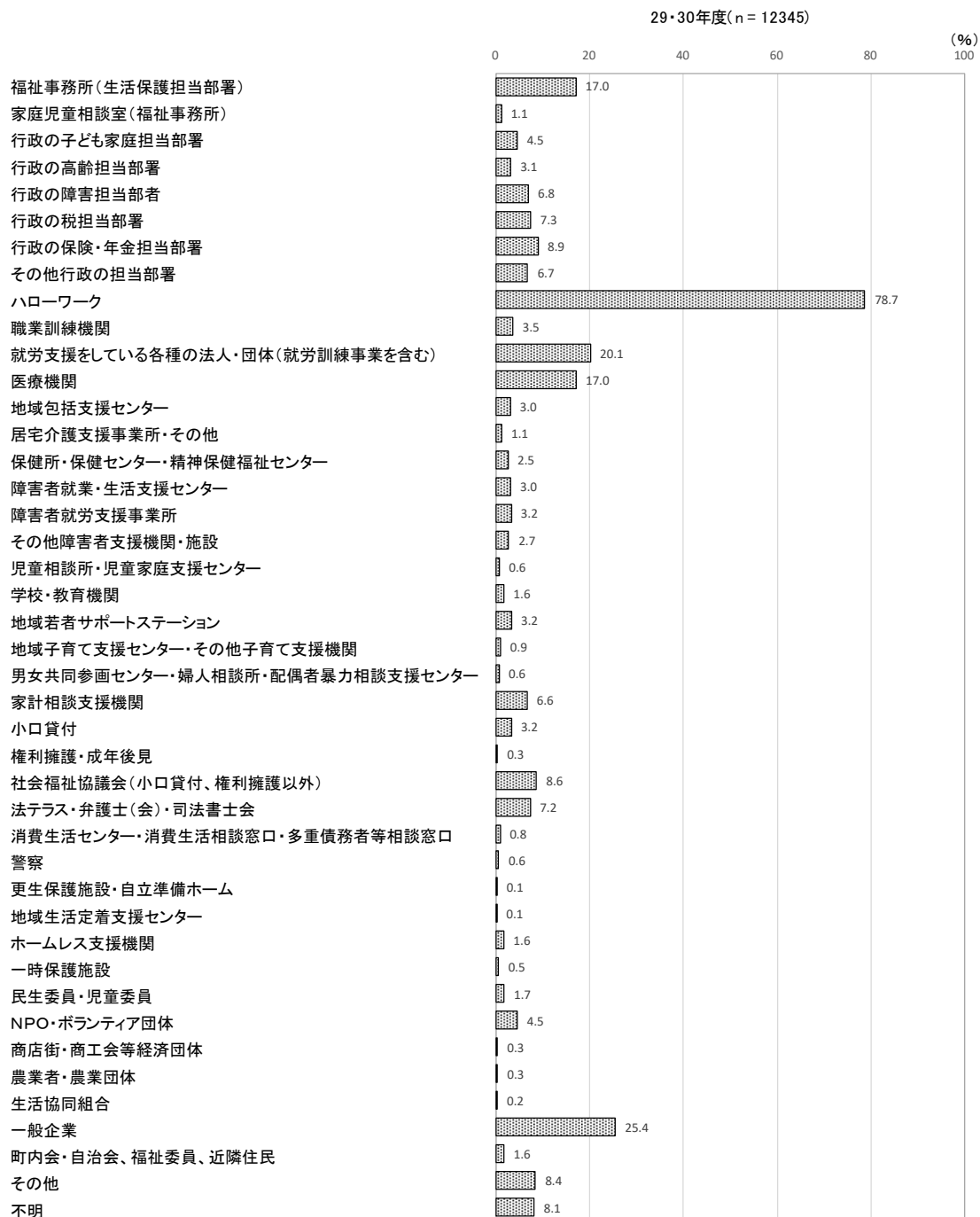
図表 3-8 1 就労準備支援事業利用者のプランに関わる関係機関・関係者



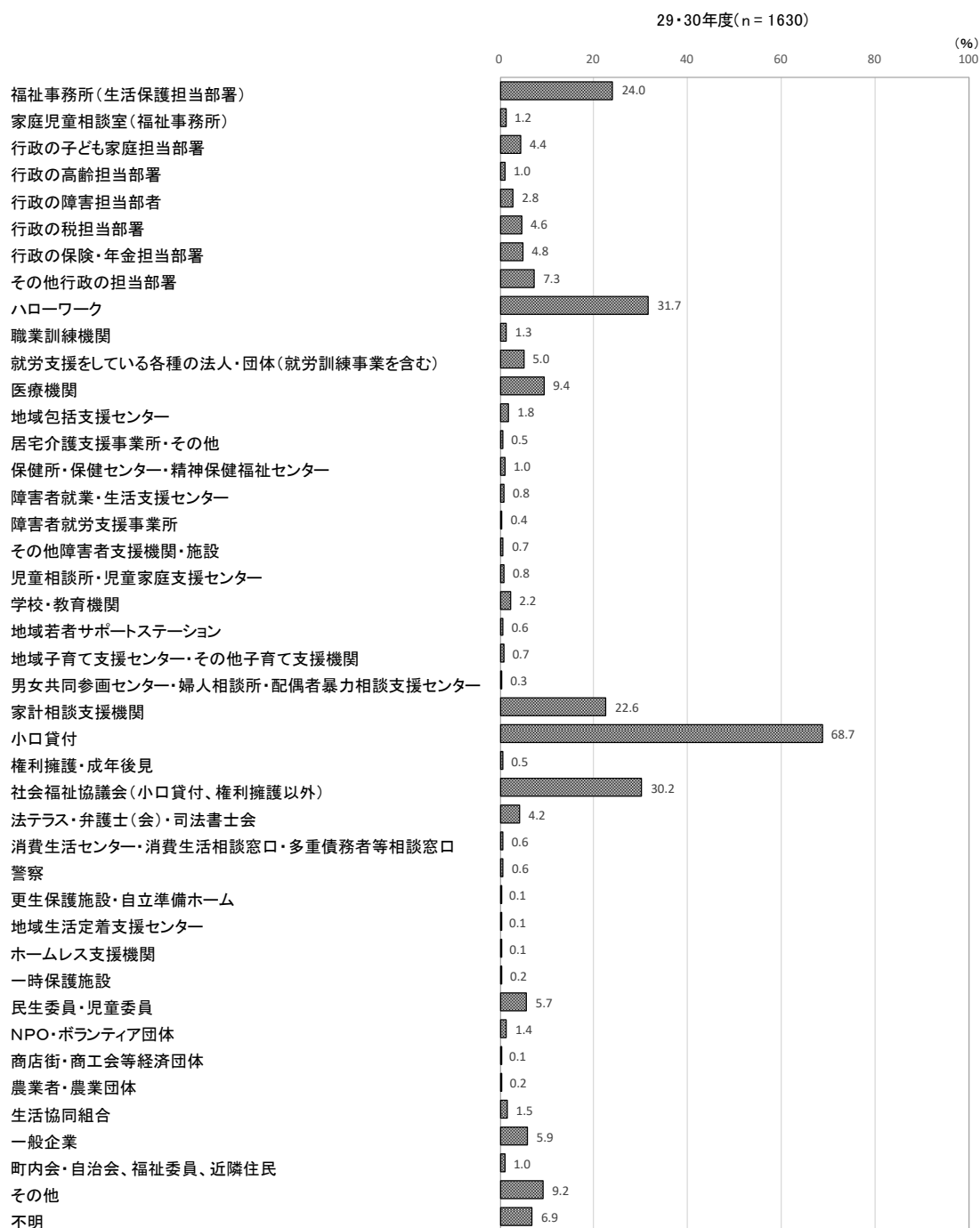
図表 3-8 2 認定就労訓練事業利用者のプランに関わる関係機関・関係者



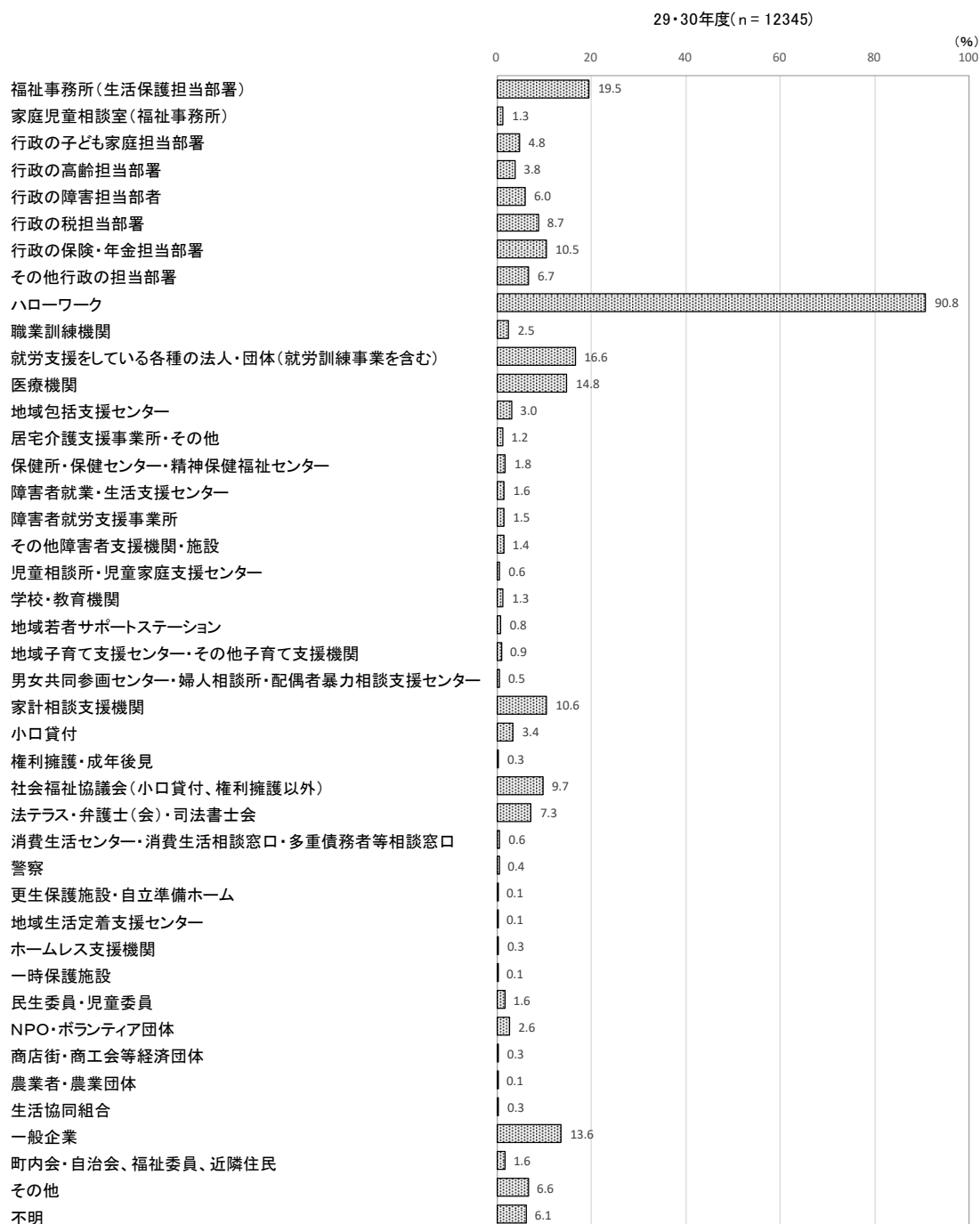
図表 3-83 自立相談支援事業による就労支援利用者の
プランに関わる関係機関・関係者



図表 3-84 生活福祉資金による貸付利用者のプランに関わる関係機関・関係者



図表 3-85 生活保護受給者等就労自立促進事業利用者の
プランに関わる関係機関・関係



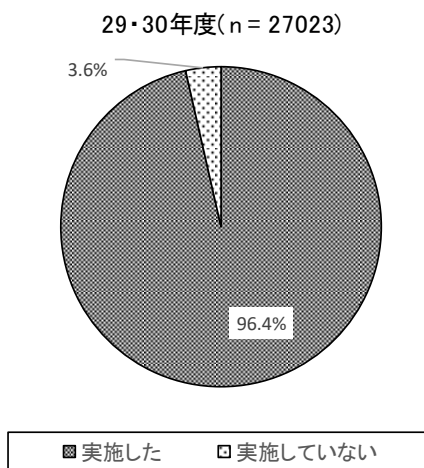
(3) 生活困窮者自立支援制度における支援の結果

① 支援対象者への評価の実施状況と評価までの期間（初回プランについて）

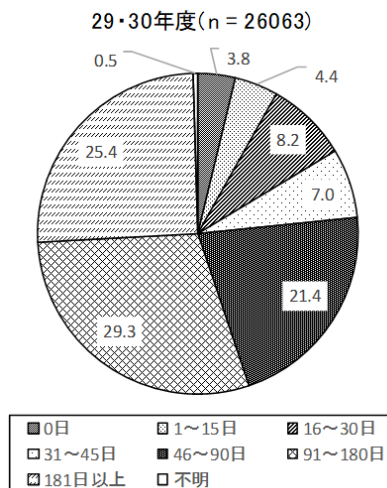
生活困窮者自立支援制度における支援の結果を見たところ、ほぼすべてのプランにおいて評価が実施されていた。

支援決定から評価までの期間については、91日～180日が最も多く3割となっていた。

図表 3-86 評価の実施状況



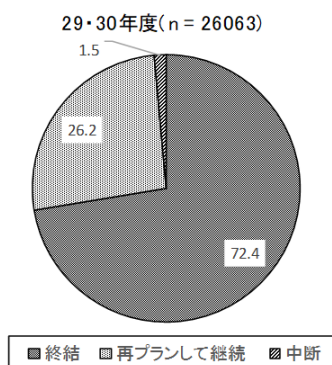
図表 3-87 支援決定から評価までの期間



② プランの評価結果

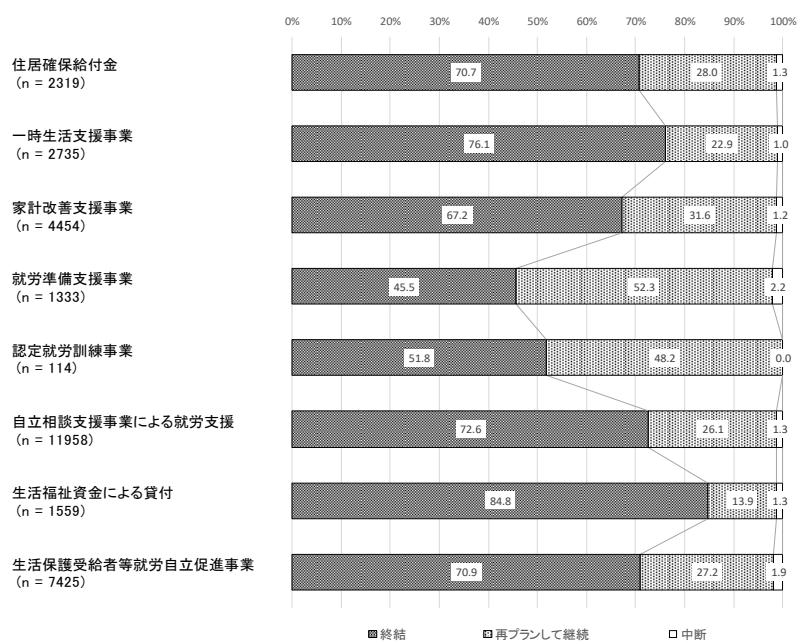
プランの評価結果を見たところ、終結している割合が7割となっていた。

図表 3-88 プランの評価結果



利用したサービスの内容別プランの評価結果を見ると、生活福祉資金による貸付は終結が8割を超えていたが、就労準備支援事業では終結が5割を下回っていた。

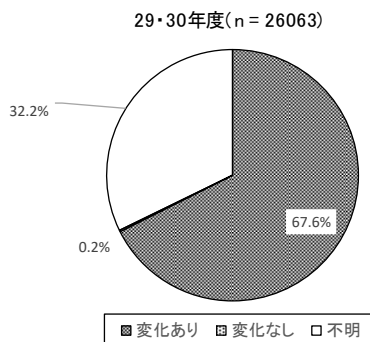
図表 3-89 利用したサービス別プラン結果



③ 支援決定前後での変化の状況

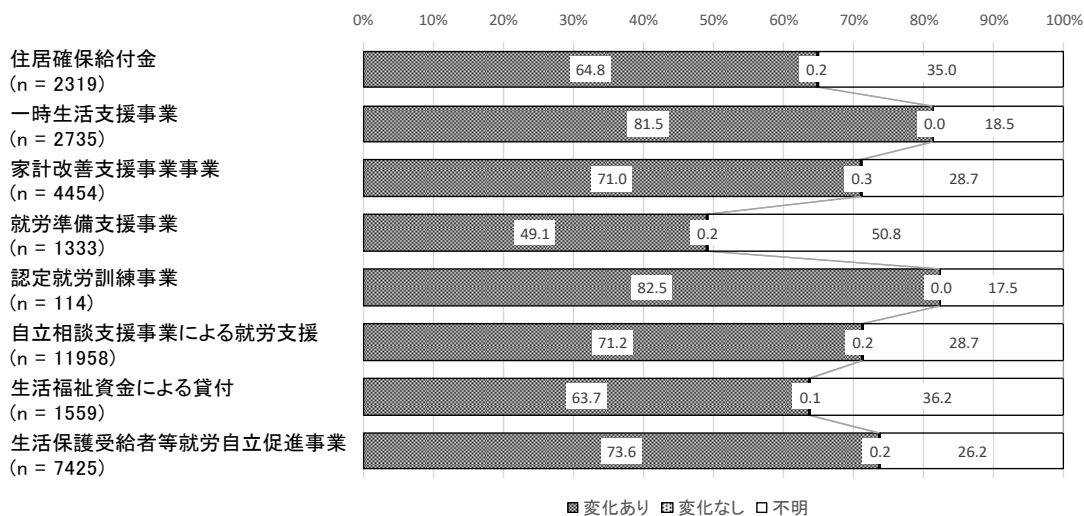
支援を行った前後での変化の状況としては7割弱が変化があったとなっていた。

図表 3-90 支援決定前後の変化の有無



利用したサービスの内容別に変化の有無を見ると、「認定就労訓練事業」と「一時生活支援事業」の利用者において、変化があった割合が8割を超えていた。「就労準備支援事業」については変化ありが5割を下回っていた。

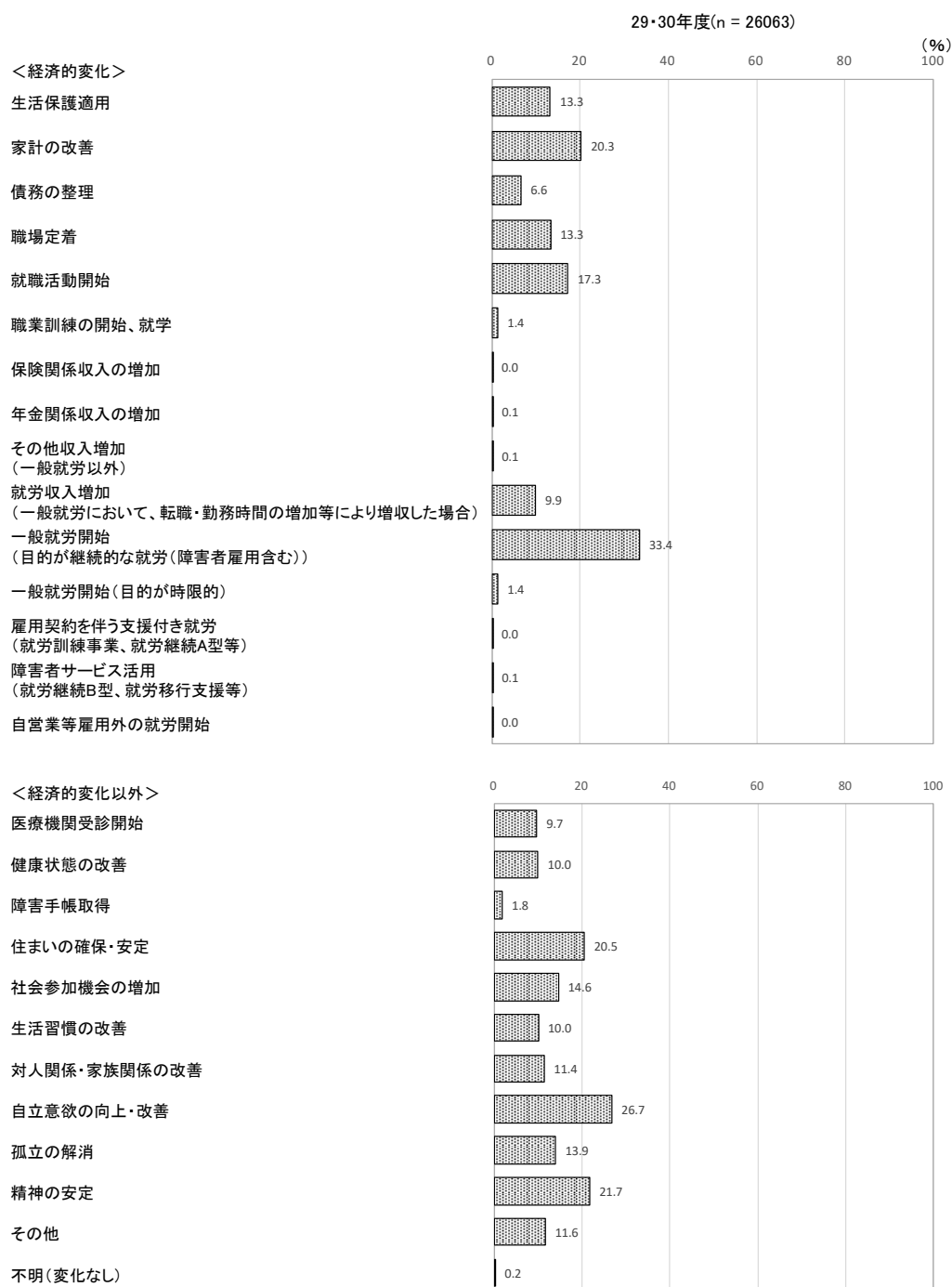
図表 3-91 利用したサービス別の変化の有無



④ 変化の内容

支援対象者について変化の内容を見ると、「一般就労開始（目的が継続的な就労（障害者雇用含む）」が最も多く3割、それ以外に、「自立意欲の向上・改善」、「住まいの確保・安定」、「精神の安定」、「家計の改善」が多くなっている。

図表 3-9 2 変化の内容



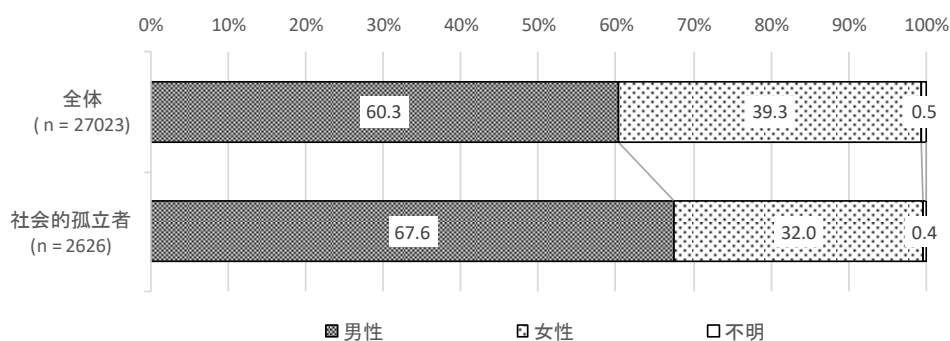
(4) 社会的孤立を課題として抱える人に対する支援の状況

生活困窮者自立支援統計システム 相談支援機関業務支援ツールでは、相談支援機関がアセスメント時に課題としてチェックする項目の1つとして「社会的孤立」がある。ここでの「社会的孤立」のとらえ方は相談支援機関に委ねられている。しかし、生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業の対象となった人のうち、「社会的孤立」ととらえられている人がどのような状態像にあるか、どのような支援を受け、支援結果がどのようなものであったかは非常に興味深いものであるため、以下ではその状況について概観する。

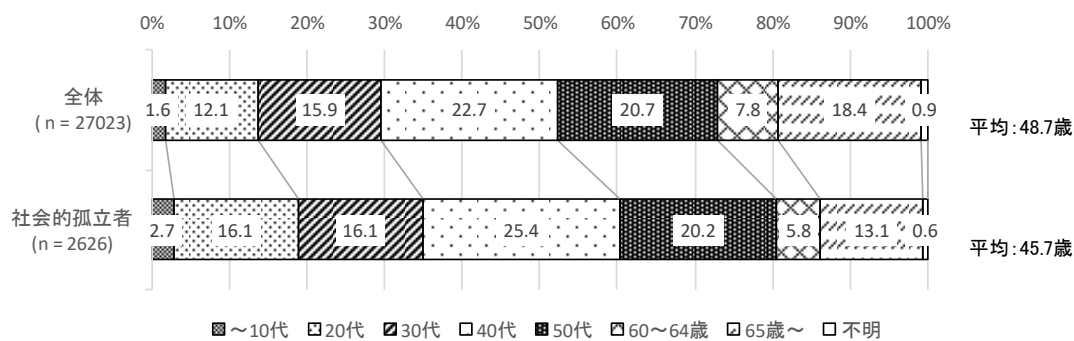
① 属性

生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業の支援対象者のうち、相談支援機関が、アセスメント時に「社会的孤立」を課題として抱えているとチェックした人の属性を見ると、支援対象者全体よりも、男性が多く、年齢が若く、未婚・子ども無の人が多かったが、同居者がいる人の割合は高かった。

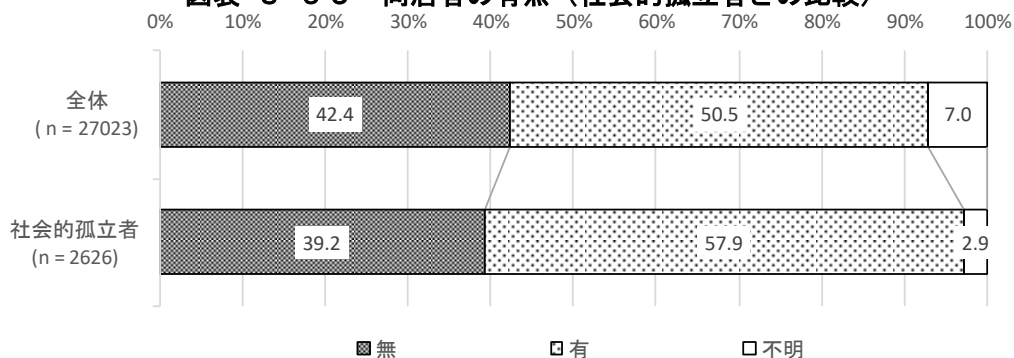
図表 3-93 性別（社会的孤立者との比較）



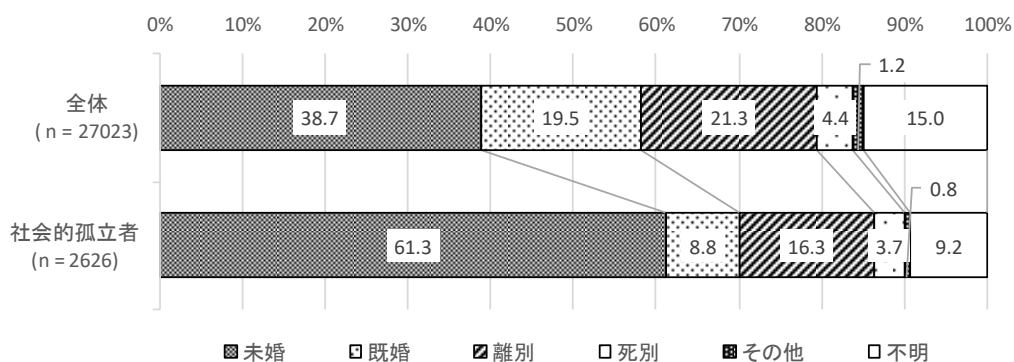
図表 3-94 年齢（社会的孤立者との比較）



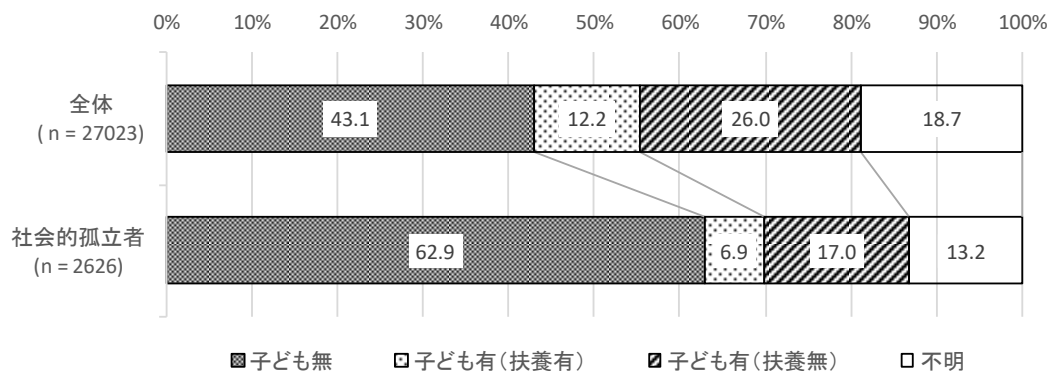
図表 3-9 5 同居者の有無 (社会的孤立者との比較)



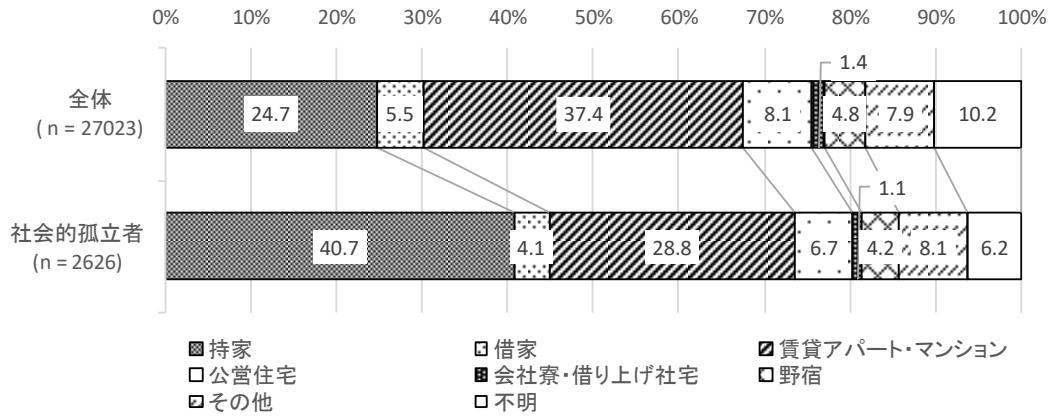
図表 3-9 6 婚姻状況 (社会的孤立者との比較)



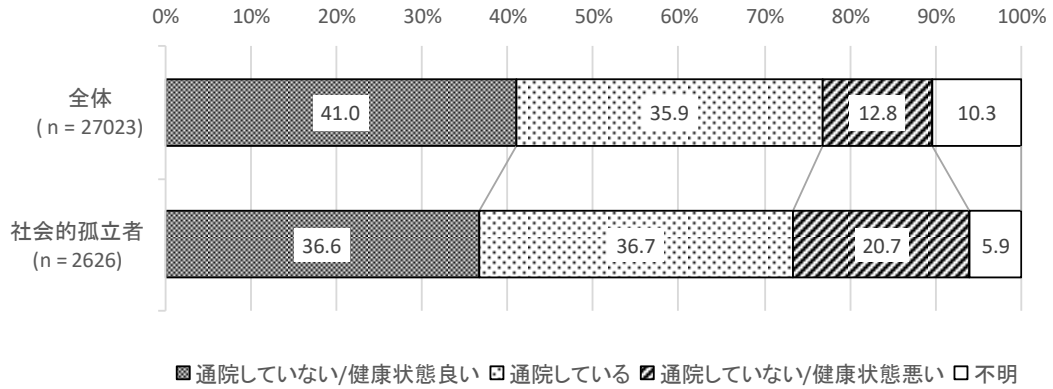
図表 3-9 7 子どもの有無 (社会的孤立者との比較)



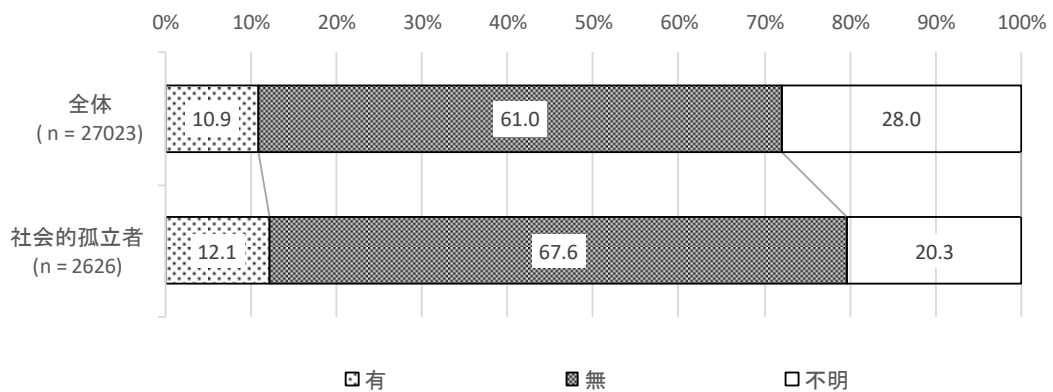
図表 3-98 住居（社会的孤立者との比較）



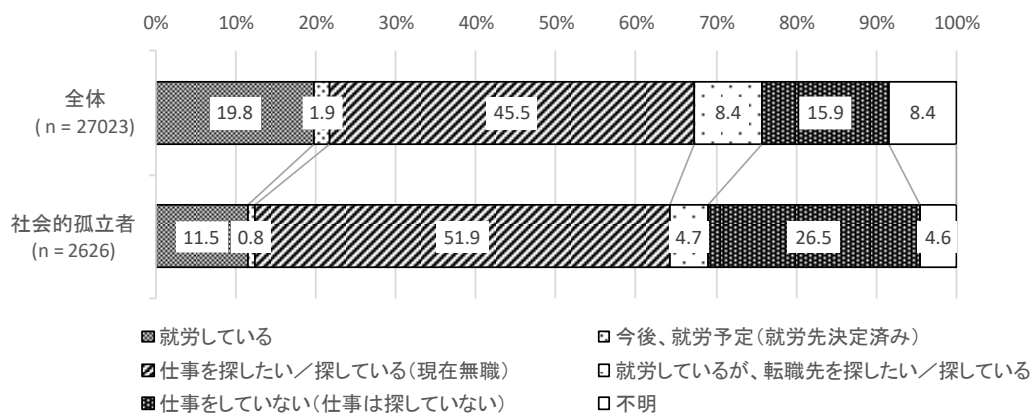
図表 3-99 健康状態（社会的孤立者との比較）



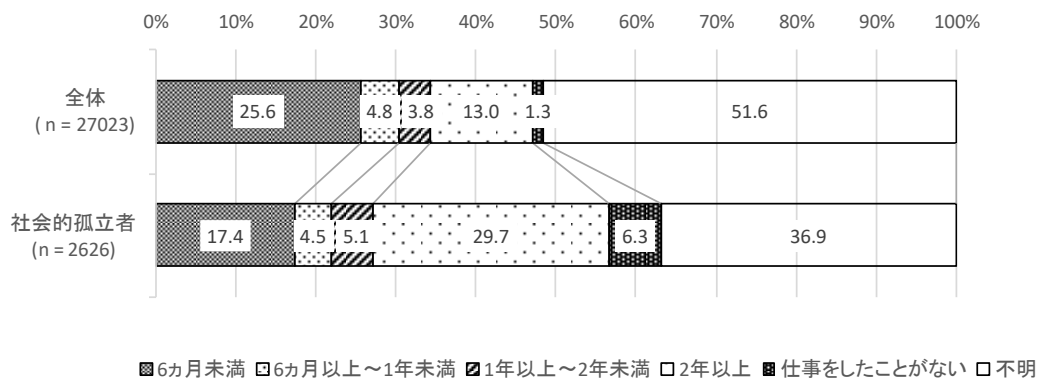
図表 3-100 障害者手帳の有無（社会的孤立者との比較）



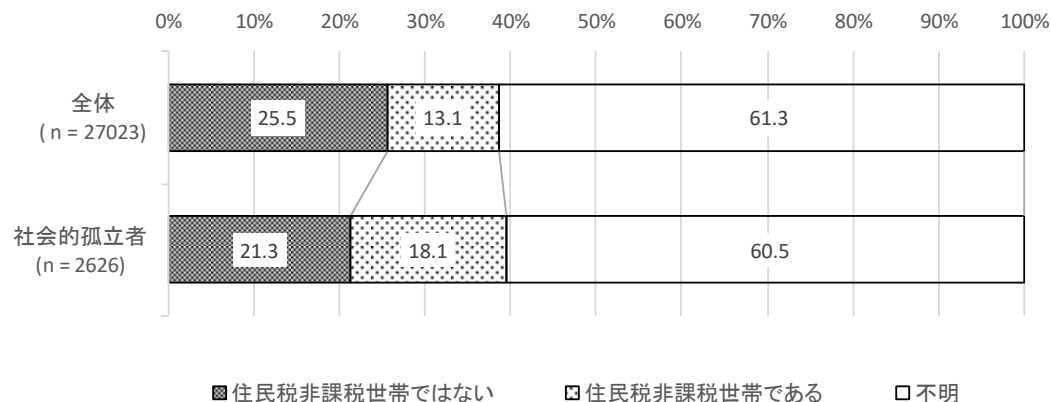
図表 3-101 就労状況（社会的孤立者との比較）



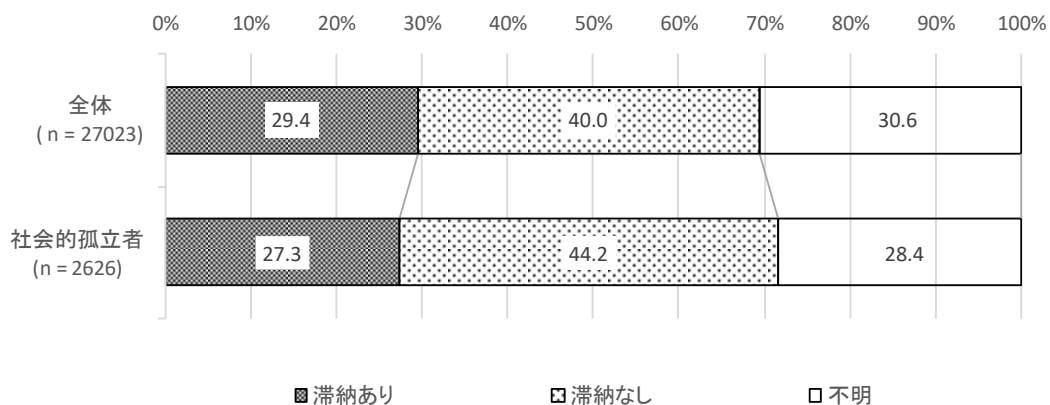
図表 3-102 直近の離職後の期間（社会的孤立者との比較）



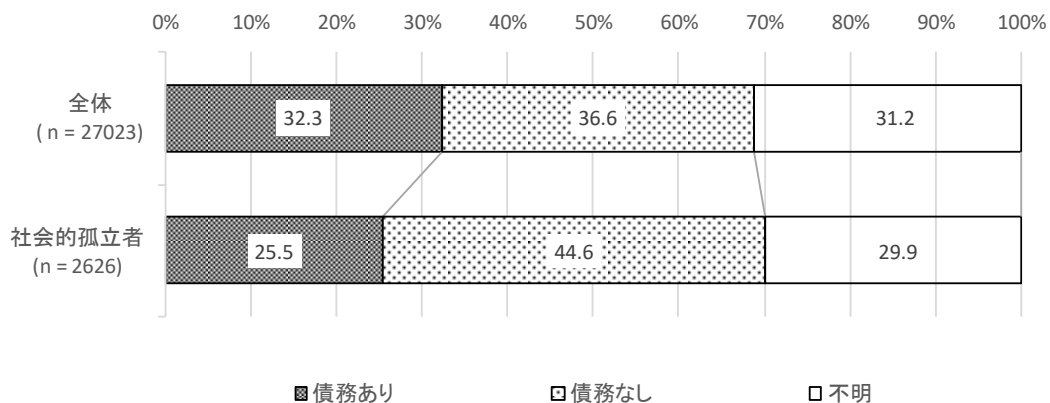
図表 3-103 課税状況（社会的孤立者との比較）



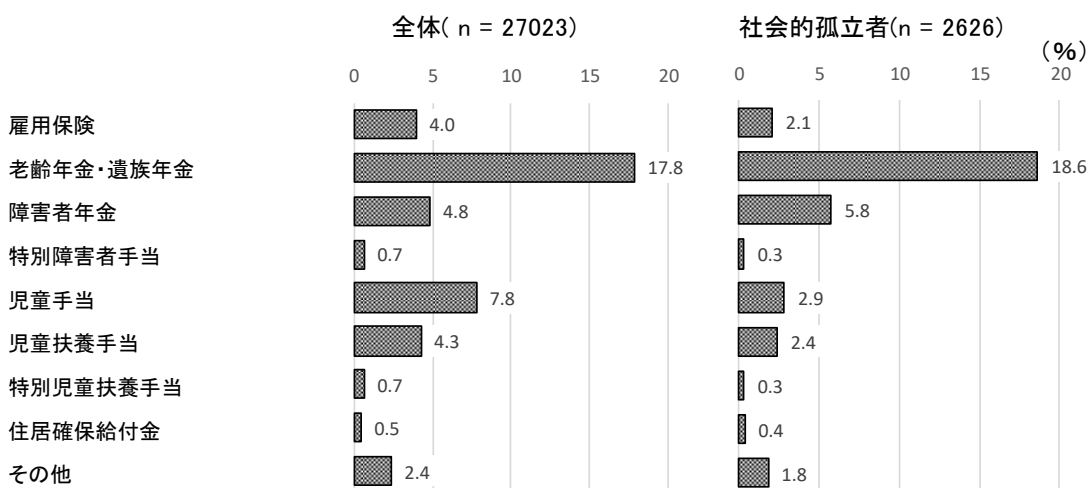
図表 3-104 滞納状況（社会的孤立者との比較）



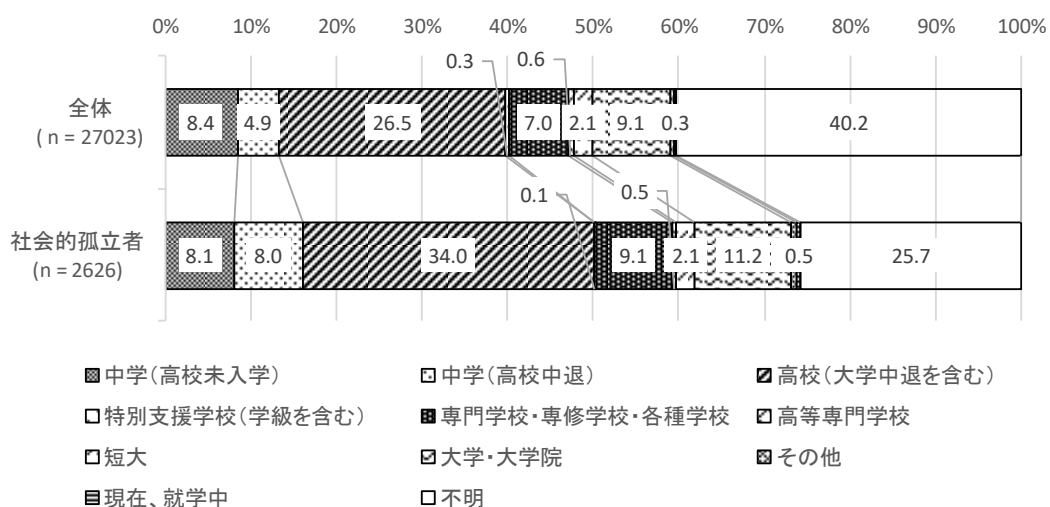
図表 3-105 債務状況（社会的孤立者との比較）



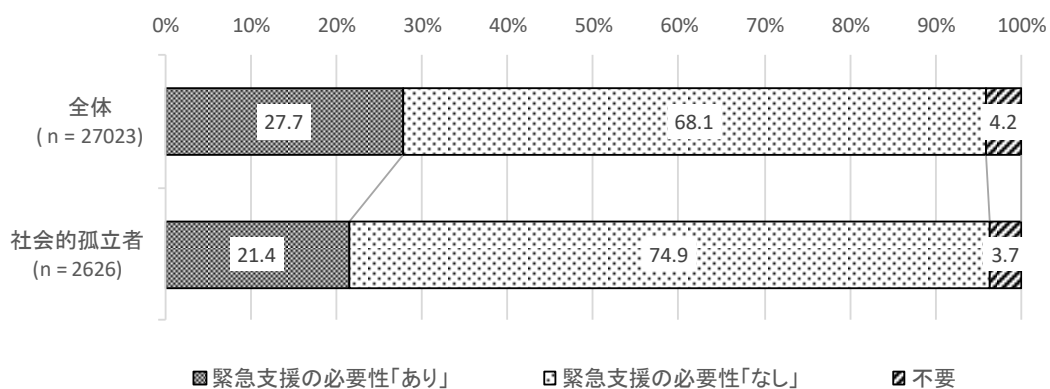
図表 3-106 受給中の公的給付（社会的孤立者との比較）



図表 3-107 最終学歴（社会的孤立者との比較）

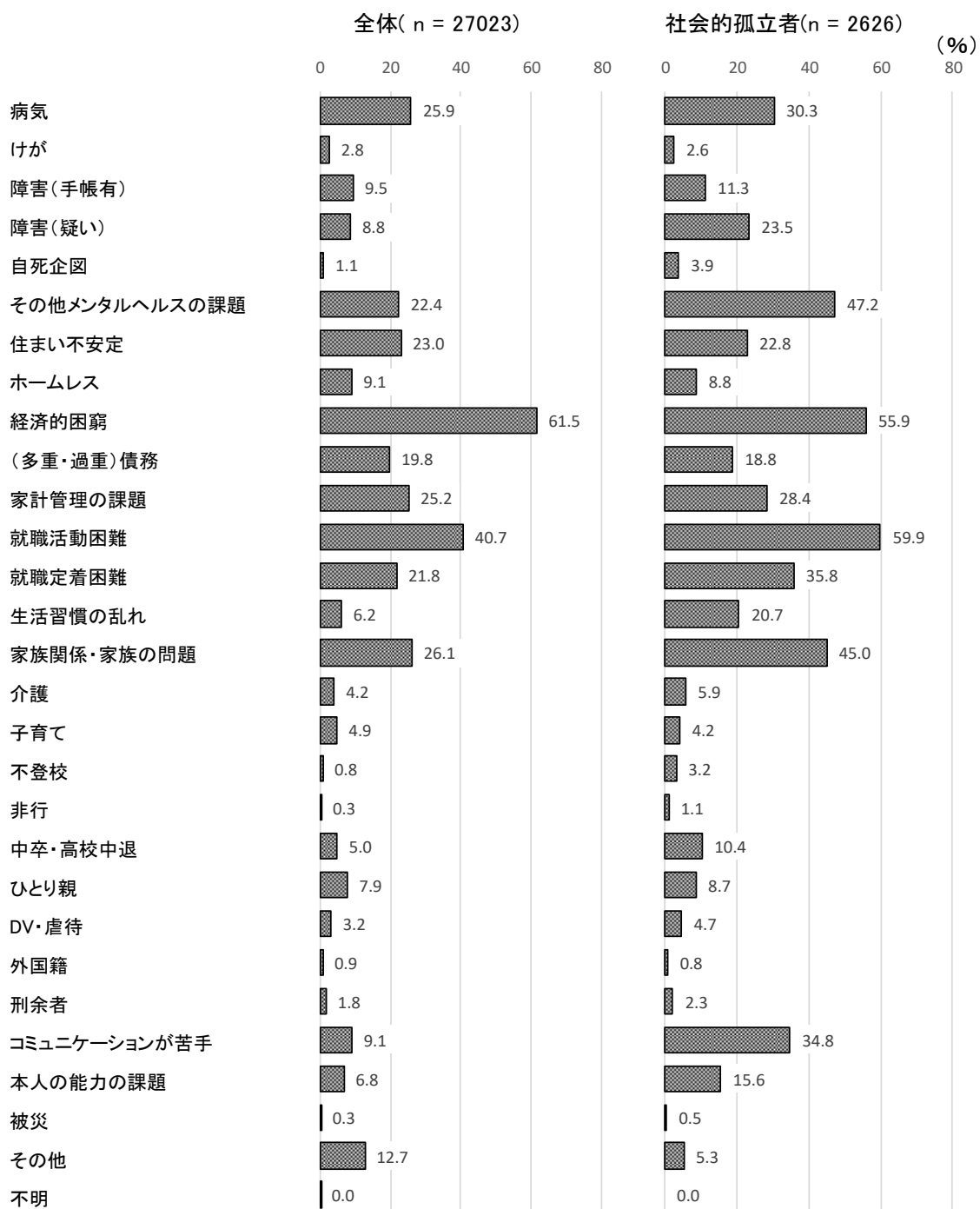


図表 3-108 緊急支援の必要性（社会的孤立者との比較）



「社会的孤立」を課題として抱えている人が、それ以外で抱えている課題としては、「メンタルヘルス」に関する課題、「就職活動困難」、「家族関係・家族の問題」、「コミュニケーション」を課題として抱えている人の割合が全体と比べて高かった。

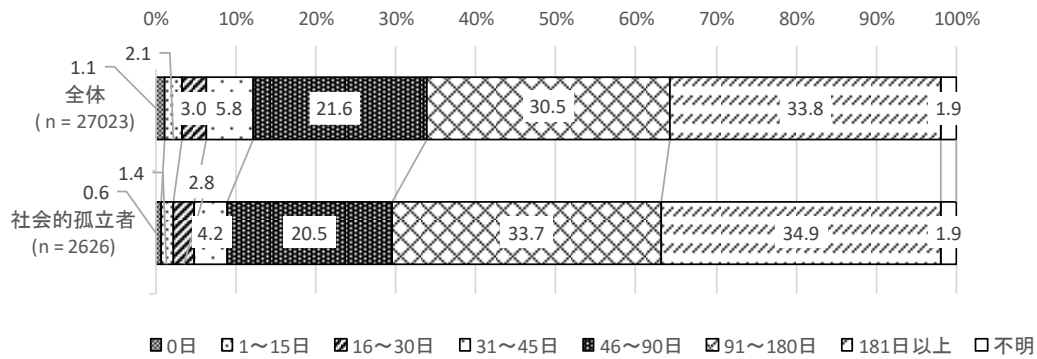
図表 3-109 抱える課題（社会的孤立者との比較）



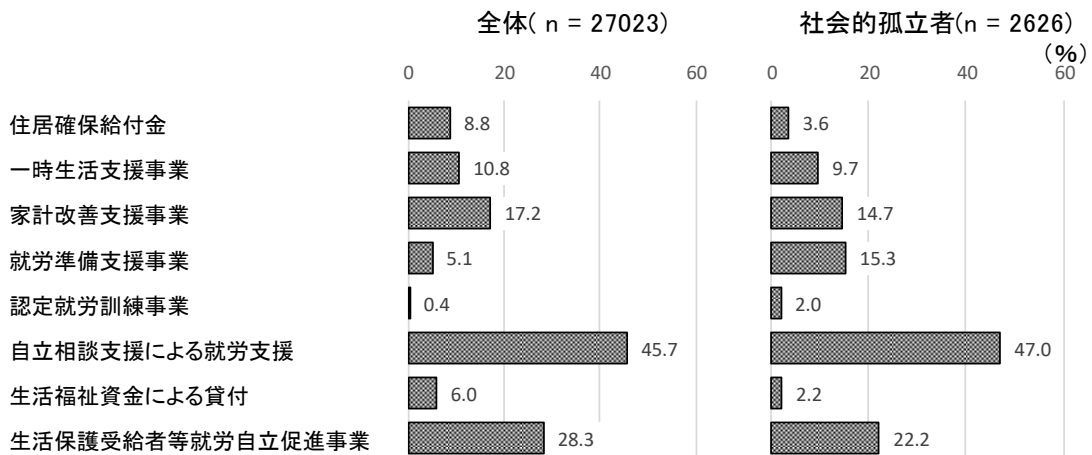
② 実施した支援

「社会的孤立」に課題がある人が受けた支援では、「就労準備支援事業」の割合が支援対象者全体よりも高かった。

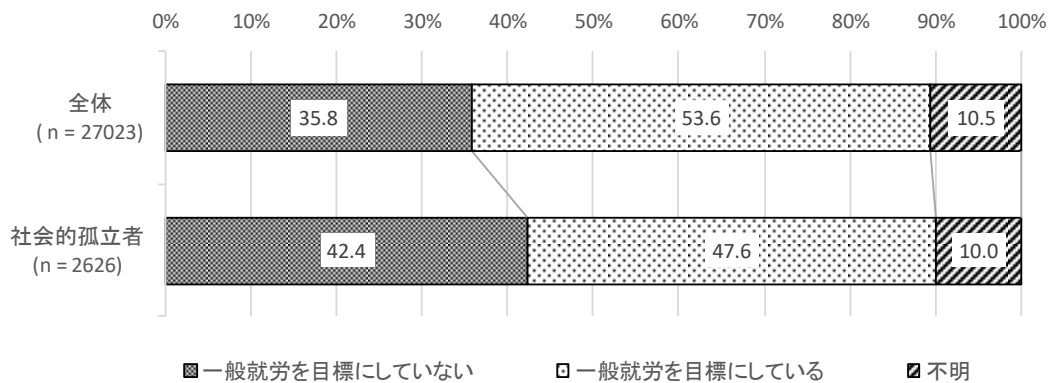
図表 3-110 支援決定・確認日からプラン終了までの期間（社会的孤立者との比較）



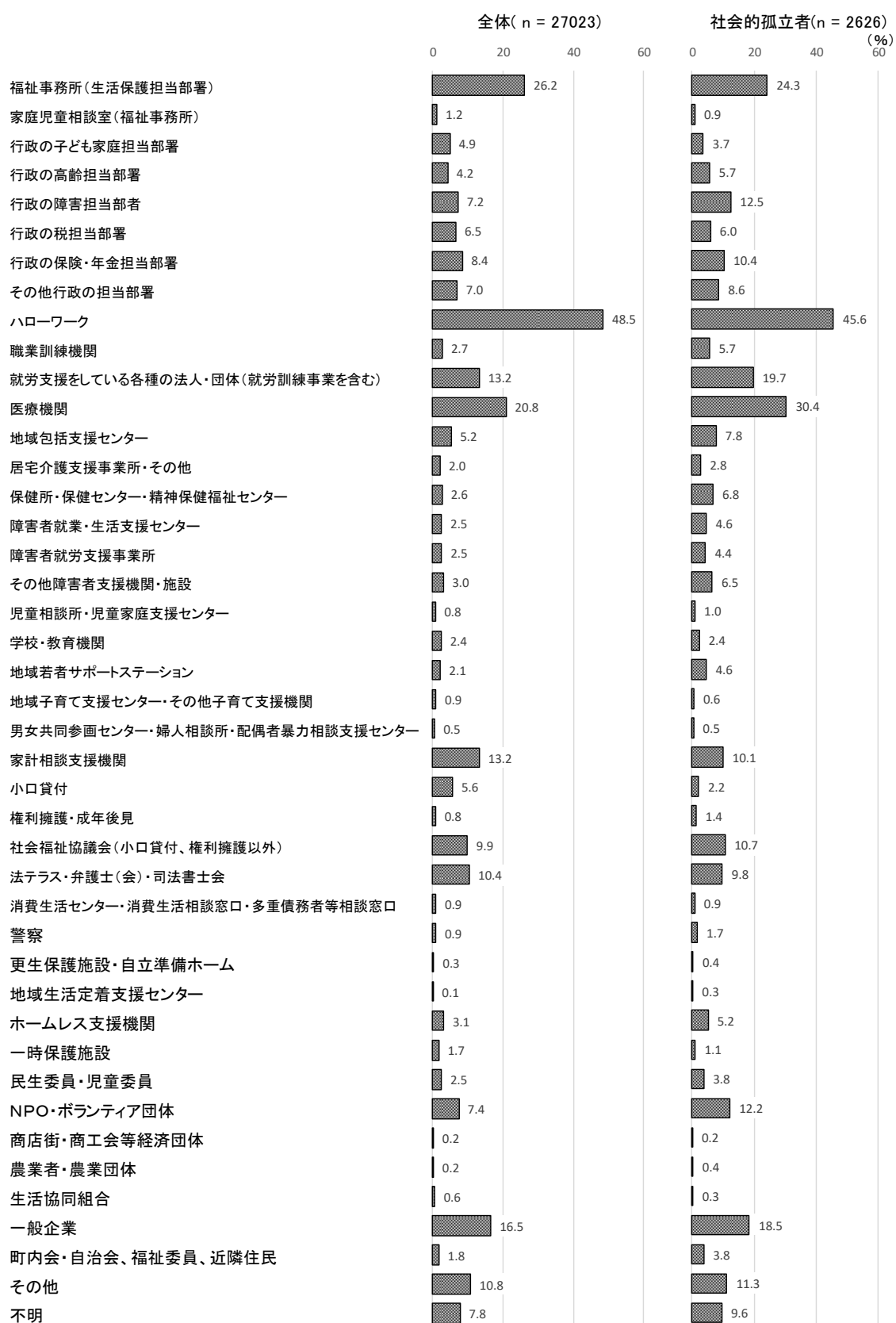
図表 3-111 サービスの利用状況（社会的孤立者との比較）



図表 3-112 一般就労目標の有無（社会的孤立者との比較）



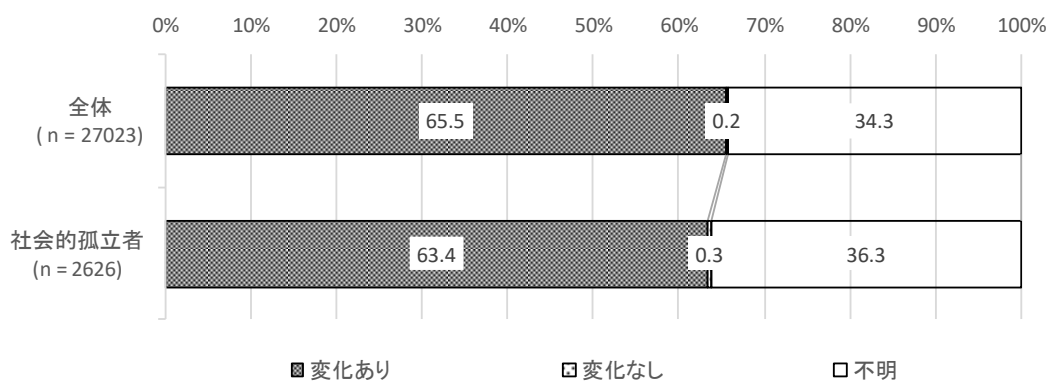
図表 3-1 1 3 プランに関わる関係機関・関係者（社会的孤立者との比較）



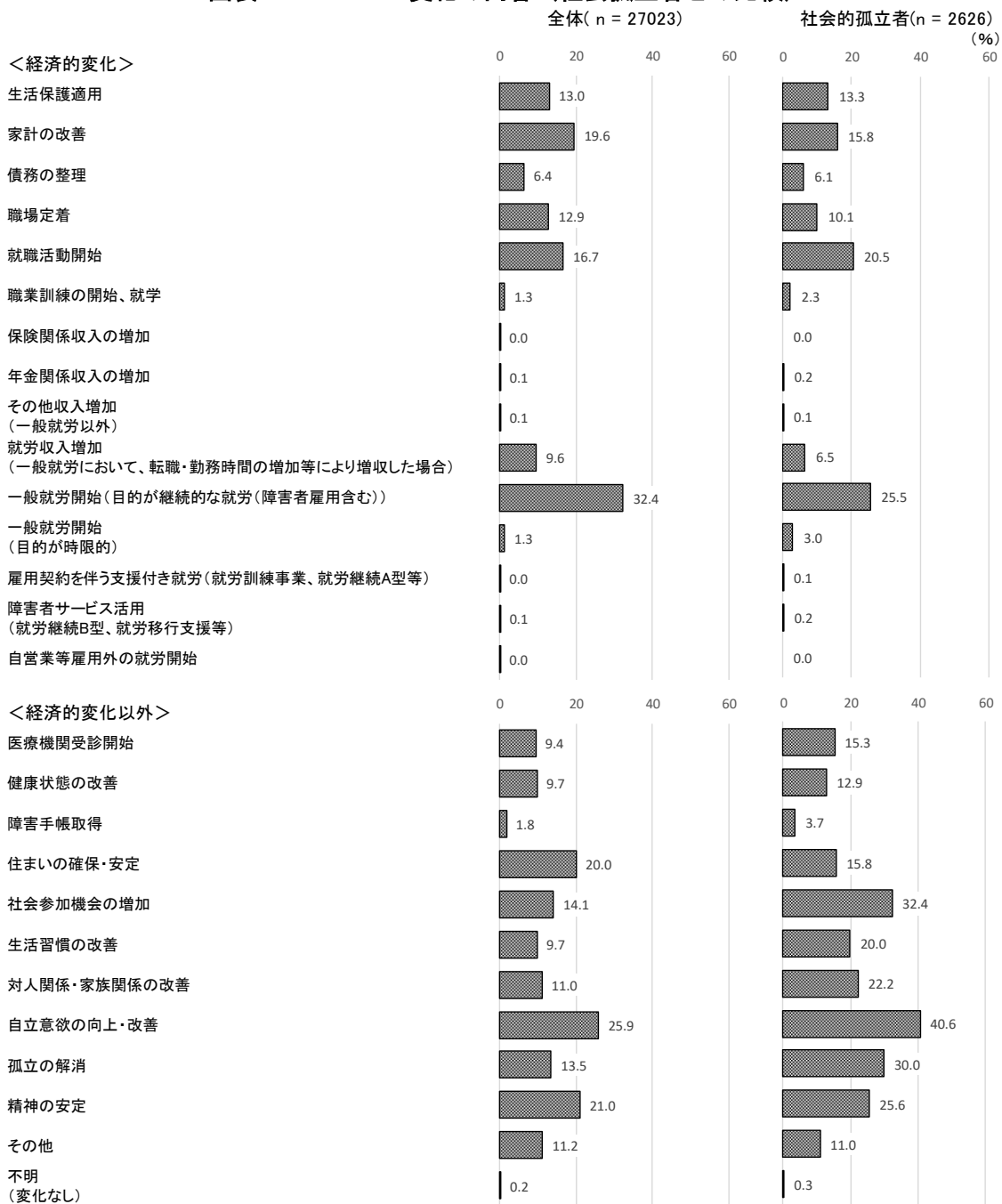
③ 支援の結果

支援の結果、見られた変化の有無について、「社会的孤立」に課題がある人と支援対象者全体では大きく変わらないが、見られた変化の内容については、「社会参加の機会の増加」や「生活習慣の改善」、「自立意欲の向上・改善」が新対象者全体よりも高かった。「孤立の解消」についても、支援対象者全体と比べると高かったが、3割程度であった。

図表 3-1 1 4 支援決定前後の変化の有無（社会的孤立者との比較）



図表 3-115 変化の内容（社会孤立者との比較）



第4部 英国における対孤独戦略政策の整理

第1章 対孤独戦略の背景その対象ならびに目標

(1) 背景

「A connected society A strategy for tackling loneliness」によると英国の成人の5～18%が、頻繁にまたは常に孤独を感じると推定されており、孤独による身体的、精神的リスクの増加は、医療費の増加と生産性の低下を招くとされている。

英国では、孤独問題に熱心に取り組んでいたジョー・コックス議員が2016年に右翼過激派によって殺害された。彼女は殺害される前に孤独問題に関する委員会を設立しており、孤独問題を解決するための行動を主導する大臣を任命するように求めていた。このショッキングな出来事が後押しとなったこともあり、英国政府は、故コックス議員の仕事を引き継ぎ、英国の10人に1人以上が感じている孤独問題に取り組むために、孤独担当大臣を任命した。また、当時の英国首相メイは、故コックス議員の遺志を引き継ぎ、2018年に対孤独戦略の政策に2,000万ポンド²⁵を支出することを発表した。さらに、英国政府は、すべての年齢の人々を対象とした、調査研究で使用できる孤独に関する指標の開発に取り組むことを発表した。

以降では、主として英国の政府発表資料を中心にまとめた対孤独戦略の内容について紹介していく。

(2) 対孤独戦略の対象者²⁶

対孤独戦略の対象者は全国民であり、政府は常にまたは頻繁に孤独を感じる状態を防ぐことに焦点を当てている。

対孤独戦略の政府のビジョンでは、全国民が社会と強い繋がりを持ち、家族、友人、コミュニティが互いにサポートし合い、互いに配慮し合う社会になることを達成するには、社会全体の協力と変化が必要だ、とされている。

²⁵ 1ポンド=150円とすると、30億円に相当。

²⁶ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.3,6,10)

https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/750909/6.4882_DCMS_Loneliness_Strategy_web_Update.pdf (2021/2/15 accessed)

(3) 対孤独戦略の包括的な目標²⁷

対孤独戦略には、3つの包括的な目標がある。

1つ目は、孤独の原因と影響、それに取り組むために、どのような介入が機能するのかを理解すること。そのために、エビデンスに基づいた改善を行っていくこと、そして、政府の計画と介入に関するレビューの最新情報を提供していくことである。

2つ目は、孤独感を悪化させることや、人々の幸福と回復力をサポートする可能性のある様々な要因を認識し、政策全体の考慮事項としていくこと。この戦略では、社会全体に対する横断的な政策とリスクの高い人々をサポートする介入が含まれており、広範な政策立案全体に、より社会との繋がりを考慮されるような方法について考察していくことである。

3つ目は、人々の身体的、精神的、社会的健康を守る必要があること、孤独について皆で話し合うこと、その影響についての認識を高め、スティグマに取り組むこと（調査対象のイギリス人の約30%が孤独を感じていると言うのは恥ずかしいと答えている）である。社会的な繋がりを守ることが国民の幸福の鍵となることを理解することも含まれている。

(4) 戦略の目標設定²⁸

対孤独戦略は長期的な取組みが必要であり、定量的目標は設定されていない。何が孤独に機能するか、それに基づいたエビデンスを開発することにより、孤独の蔓延について、より明確な全体像を確立していくことを目指している。

長期的な孤独に対する政府のアプローチの成功は、最終的な政府の孤独感尺度によって評価し、孤独の蔓延の削減を達成することである。しかし、短期的には、情報に基づいた定量的目標を設定する前に、様々な年齢やグループの孤独の原因、およびそれに対処して防止するための効果的な方法に関するデータをさらに収集する必要があると考えられている。政府が孤独へのアプローチを見直し、そのプロセスの中で学習していくことで、変化の定量的目標を設定する可能性と整合性を探求する予定である。

²⁷ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.7,20)

²⁸ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.10)

(5) 孤独の定義²⁹

孤独は孤立と互換的に使われることがあり、両者はリンクしていることも重なることもあるが、同じではない。孤独を感じることなく孤立することも、人に囲まれて孤独を感じることもある。孤立は交友関係の数や他人と話す頻度などから測定可能だが、孤独は客観的な情報だけでは測定できない。

孤独には種類があり、親密な友人がいないときに感じる孤独と、家族や友人との関係性に焦点を当てた孤独がある。このニュアンスの違いに着目することは、効果的な介入のデザインとターゲティングに役立つとされている。そして、政府の戦略はこの両方のタイプの孤独を考慮している。

国家統計局は、より頻繁に孤独を感じる人の特徴についてまとめた。その特徴は、16歳から24歳であること、寡婦であること、健康状態が悪いこと、長期的な病気や障害があること、介護の責任があること、失業していることなどだった。

英国政府は、孤独の定義を「交友関係の欠如や喪失の主観的な受け入れがたい気持ちを持つこと。その気持ちは、私たちの社会的関係の量と質が、私たちの望むものとは異なるときに発生するもの。」としている。

²⁹ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.18-20)

第2章 具体的な取組内容

(1) 協働する対孤独戦略³⁰

対孤独戦略は、孤独と社会的繋がり的重要性に関する話し合いへの、最初の主な貢献と考えられている。より繋がりのある社会を構築するために、他者と協力するという長期的な展望を政府は示している。また、孤独のリスクが高くなる、特定のトリガーポイント（例：引っ越し、転職、失業、愛する人を失う、介護者になる、死別、子どもの誕生、子どもが家をでるなど）において、社会と人々の両方に利益をもたらす多くの初期の取組みが含まれている。

政府はこの戦略を広く周知するため、慈善団体、企業、公共部門のリーダーを含む40を超える組織が連携した Loneliness Action Group と緊密に協力した結果、それらの組織は多くのワークショップを開催した。効果的な実施を確実にするために政府と協力して2019年を通して孤独に取り組み続けるという、それらの組織のコミットメントを得ることが出来た。更に、政府は慈善団体、シンクタンク、地方自治体、医療機関、企業、信仰団体等の会議やイベントに出席したり、ソーシャルメディア介したりして、情報を共有してきた。

(2) アプローチの原則³¹

以下に政府が行う対孤独戦略のアプローチの原則をまとめた。

- ・政府は重要な触媒としての役割をすることができるが、孤独感を効果的に減らすためには、全員が行動を起こさなければならないことを認識し、企業、医療関連産業、地方自治体、ボランティア団体、一般市民との連携を図る。
- ・政府はアプローチを進めていくなかで、既存のエビデンスの限界を認識したうえで、そのアプローチを検証し、そこから得た知見を意欲的に学ぶ。
- ・省庁間の横断的アプローチを確保する。
- ・予防行動と並行して、人々を孤独感に陥らせたり、陥らせなかったりするトリガ

³⁰ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.14-20)

³¹ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.14)

一ポイントに焦点を当てる。このポイントは国家統計局によるコミュニティ・ライフ・サーベイのデータ分析に基づいている。このデータにより、人々が頻繁に孤独を感じるリスクがあるところを特定する。

- 個人に合わせたアプローチと地域の解決策の重要性の両方を認識しており、孤独の複雑で主観的な性質を考えるとこの両方のアプローチが重要である。

(3) 枠組みの整備³²

対策への変化を加速するための知識を共有し、社会のすべての人が孤独に取り組むことで自分たちの役割を果たせるような枠組みを整備する。枠組みは、大きく 5 つに分かれており、「友達、家族、コミュニティ」、「政府」、「ボランティアとコミュニティ団体」、「地方自治体と公共・医療サービス」、「雇用主」である。

友達、家族、コミュニティ	ボランティアや参加を通じて、友人、隣人、コミュニティグループを支援し、人々と繋がる。
政府	共有、学習、革新のためのネットワーク作りを奨励しながら、リーダーシップと政策を提供する。
ボランティアとコミュニティ団体	スキル、トレーニング、サービスの提供を通じて、自助・共助の力の構築を支援する。
地方自治体と公共・医療サービス	サービスを委託し、ヘルス・ウェルビーイング・ボードを通じて、およびコミュニティスペースや交通機関を提供することで、全体的な健康へのアプローチを提供する。
雇用主	従業員、顧客、および彼らがサービスを提供するコミュニティへのサポートを強化する。

³² A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.15)

(4) 人と人との繋がりをサポートする為の活動³³

政府と地方自治体、企業、市民社会が協力して行う、人と人との繋がりをサポートする為の活動予定を以下にまとめた。

- 全ての GP (General Practitioner、日本でいう開業医 (以下「開業医」)) が社会的処方を提供できるようになり、組織やサービスと孤独のリスクのある人々を結びつける方法を改善する。
- 地域のコミュニティグループや活動、支援に関する情報にアクセスしやすくする。
- 孤独に対処するための知識と優れた実践例の共有を促進する。
- 2023 年までに、すべての地域の医療およびケアシステムをサポートし、全国で社会的処方コネクター・スキームを実装し、開業医が利用できる全国的なオファーを提供することをサポートする。
- 英国全体のすべての社会的処方コネクター・スキームをマッピングして、地域の社会的処方スキームの全国データベースを作成する。
- 社会的処方に関するベストプラクティスガイドを公開する。
- コミッショナーと開業医のための社会的処方オンラインプラットフォームを立ち上げる。
- 社会的処方リンクワーカーのための新しい認定学習プログラムを試験的に実施する。
- 地域の社会的処方運営グループを設立する。
- 社会的処方のための共通成果フレームワークを公開する。
- 保健省、NHS イングランド、労働年金省は、さまざまな組織やサービスが現在どのように各個人に社会的処方制度と地域的対策を紹介しているのか評価する。

³³ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.24-34)

- ・内務省は、コミュニティで暮らす孤独な高齢者を支援するための革新的なデジタルソリューション「セーフ&コネクテッド」を試験的に実施する。
- ・英国公衆衛生局は、公衆衛生の成果フレームワークの改訂に関する協議に、政府が承認した孤独感尺度を盛り込む。
- ・運輸省は、7つのモビリティセンターと協力して、孤独の兆候や社会的繋がりへの欠如の特定に役立つ方法を模索する。
- ・内務省の支援で国家取引基準詐欺監視員制度が拡大され、孤独や社会的に孤立した高齢者の詐欺、悪徳商法、経済的虐待に対する制度上の耐性を向上させる。
- ・ビジネス・エネルギー・産業戦略省は、従業員の社会的ウェルビーイングを支援するための誓約を採用するよう雇用主に奨励する。また、政府は「孤独をなくすキャンペーン」や企業と協力して、地域社会で孤独に取り組むために行っている活動を把握および共有し、その活動を促進させる。
- ・雇用年金局は、ジョブセンターを通じて、社会復帰の準備をしている人や、社会復帰を進めている人に、ウェルビーイング、自尊心、自信などの問題を含めて、適切な支援を案内する。
- ・保健省は、成人向けチーフ・ソーシャルワーカーとそのセクター・ネットワークを通じて、ソーシャルワーカー間の知識共有を改善する。

＜英国政府機関概略図＞



(5) 社会的繋がりを強化するコミュニティ・インフラ³⁴

政府が地方自治体、民間非営利部門、輸送供給者、デジタルおよびソーシャルメディア企業と協力して行う、コミュニティ・インフラの活用予定について以下にまとめた。

- ・未利用のコミュニティスペースの活用方法を考える。
- ・人々の社会的繋がりをサポートし、地域社会との繋がりを助ける交通ネットワークを構築する。
- ・デジタルツールを最大限活用し、人と人とを繋ぐ。
- ・教育省は、学校の施設を活用することで収入を得て地域に役立てるためのガイドランスを発表する。また、既にどの学校が施設利用の許可をしているかについてのデータを収集する。
- ・運輸省は未使用または十分に活用されていない鉄道資産の利用を希望するコミュニティグループをサポートする。
- ・ビジネス・エネルギー・産業戦略省は、企業と協力して、営業時間外にコミュニティスペースの貸し出しをし、コミュニティと関わる方法を模索する。
- ・将来の交通システムが孤独や社会的排除などの問題を克服するために機能することを確認する。
- ・政府は、コミュニティ主導の住宅や共同住宅の孤独解決策の影響に関する研究に資金提供をする。
- ・デジタル・文化・メディア・スポーツ省の40万ポンドの新設基金の入札基準に孤独を組み入れる。

³⁴ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.36-45)

(6) 繋がるコミュニティを支える文化の醸成³⁵

政府が人々と協力して行う、コミュニティを支える文化の醸成への活動予定について以下にまとめた。

- ・孤独に関して国全体で討論し、意識を高め、孤独を取り巻くスティグマを減らす。
- ・地域の社会的な繋がりや絆を強めるための草の根運動を支援する。
- ・孤独における、特にメンタルヘルスへの影響を確実に伝えるために、その影響についてガイダンスコンテンツに掲載する。英国公衆衛生局のメンタルヘルスキャンペーンでは、孤独がメンタルヘルス問題の潜在的な危険因子であることを強調し、心の健康のために強力な社会的繋がり的重要性を強調している。
- ・キャンペーンを通じて、デジタル・文化・メディア・スポーツ省は、社会的ウェルビーイングの重要性の認識を高めるための最善の方法と、メッセージや情報を通じて人々に行動を促す方法を模索する。
- ・教育の場においては、メンタルヘルスサポートを改善し、特に大学に進学する学生が必要とするサポートを検討するためにワーキンググループを設立する。
- ・英国公衆衛生局の新しいメンタルヘルスキャンペーンでは、メンタルヘルスを管理するための重要な方法として、強力な社会的繋がり的重要性を強調する。
- ・政府は、10万ポンド³⁶を研究に使用し、若者組織を通じて、若者の孤独に対処する方法についての理解を深める。
- ・デジタル・文化・メディア・スポーツ省は、最大5つのパイロットを立ち上げる。これらは、柔軟で包括的なボランティア活動の新しいモデルを試験的に開発し、生活環境のためにボランティアに参加できない可能性のある人々を支援する。
- ・スポーツ・イングランドは、スポーツや身体活動を通じて55歳以上の人々の孤独対策に特化した2つのプログラムに、Active Ageing Fund から総額100万ポ

³⁵ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.47-58)

³⁶ 1ポンド=150円とすると、1,500万円に相当。

ンド³⁷の新たな助成金を授与する。

- ・政府は英国芸術評議会と協力して、プログラムを通じて、芸術と文化が孤独に対処する上で果たすことのできる役割を促進する。
- ・デジタル・文化・メディア・スポーツ省は、新たな孤独感尺度に準拠して、孤独の軽減に図書館サービスが与える影響の評価と測定についてのマスタークラスを実施する。
- ・2018年の図書館週間では、ウェルビーイングテーマの一環として孤独をテーマにあげる。

³⁷ 1ポンド=150円とすると、1.5億円に相当。

(7) 戦略の構築³⁸

戦略を構築する為に行う活動予定について以下にまとめた。

- 政府は、助成機関がプロジェクトの影響を評価し、調査結果を照合して分析するのを支援するために、独立評価機関を任命する。
- スポーツ大臣は、孤独対策に関する政府間の取組みを主導する。
- 閣僚は、孤独に関する政府の取組みを推進し、戦略における約束の実現を監督する。
- 孤独の検討課題に関する年次進捗報告書を発表する。政府は、対策方法を検証し、さらに詳しい知識を得ながら、定量的目標を設定して方法を変更する可能性と適性を模索する。
- 主要省庁の大臣は、孤独戦略を含めて、この検討課題の重要性を幅広い政策分野で示すようにポートフォリオを拡大する。
- 各省庁は、この戦略の約束を含め、孤独への取組みの進捗状況を、単年度年次計画書で明らかにする。
- 政策決定プロセス全体に孤独と人間関係の検討事項を組み込む。
- セクターを超えてパートナー関係を結ぶ重要性を認識し、Loneliness Action Group は、少なくとも 2019 年末まで政府と手を携えて活動を続ける。

³⁸ A connected society A strategy for tackling loneliness – laying the foundations for change (p.60-62)

第3章 実績・評価

(1) 初年度の実績報告概要³⁹

政府の目標は、今後10年間で孤独な人の数を大幅に減らすことである。そのためには、政府、企業、市民の社会全体による長期的な行動と、国民の意識改革が必要である。2018年に、政府は以下のことを行った。

- ・孤独への取組みを主導する世界初の大臣を任命した。
- ・宝くじ基金および Co-op Foundation と提携して、1,150万ポンド⁴⁰の Building Connections Fund を立ち上げた。
- ・推奨される測定パッケージを開発した。
- ・孤独に関する根拠となる基準の改善に着手した。
- ・世界初の政府の対孤独戦略「繋がりのある社会：孤独に取り組むための戦略、変化の基盤を築く」を発表した。

更に、2018年以来、政府の全省庁が60の約束を実現するために取り組んできた活動について以下にまとめた。

- ・ソーシャルワーカー、19,000人のワークコーチ、その他ジョブセンターの窓口対応スタッフなど、公共部門全体の最前線の職員は、孤独を認識して行動するために支援を受けている。NHSは、英国の半数以上のモビリティセンターで働く社会的処方リンクワーカーとスタッフに資金を提供した。地方自治体協会と全国地方議会協会も、地方自治体の孤独への取組みに関する包括的なガイド Reaching Out⁴¹を作成した。
- ・社会的処方の拡大と改善のために、2021年4月までにプライマリケアネットワ

³⁹ LONELINESS ANNUAL REPORT THE FIRST YEAR (p.4-13)

https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/858909/Loneliness_Annual_Report_-_The_First_Year.pdf
(2021/2/15 accessed)

⁴⁰ 1ポンド=150円とすると、17.25億円に相当。

⁴¹ <https://www.local.gov.uk/reaching-out>

ーク内で 1,000 人の社会的処方リンクワーカーの追加採用が支援される。これにより、より多くの人々が必要なケアとサポートを利用出来るようになる。

- 2019 年 6 月の開始以来、26,500 回を超える「Let's Talk Loneliness」サイトの訪問があり、320 を超える組織がツールキットをダウンロードしており、政府の「Let's Talk Loneliness」キャンペーンはさまざまなセクターから幅広い支持を得ており、孤独がいかに日常的であるか、話し合うべき人間の感情であるかを強調するのに役立っている。また、英国公衆衛生局は 2019 年 10 月に開始された「Every Mind Matters」キャンペーンを通じて、社会的繋がりや孤独に関する資料をスレッド化した。
- 郵便局員と地方自治体との間で、孤独のリスクがある独居高齢者を特定するための試みを行い、高齢者にボランティア活動や地域活動への参加を奨励する新しい方法を試験・開発した。
- 孤独に取り組む雇用主ネットワークは、90 万人以上の従業員を雇用する 30 以上の組織で構成され、従業員が孤独を克服するための支援方法を探るために、1 年を通して会合を開いた。このネットワークが見出したベストプラクティスは、2020 年初頭に公表され、全国の組織が従業員の手助けとなるさらなる取組みを支援する。
- 人間関係教育、人間関係と性教育（RSE）、健康教育という新しい教科の法定指針では、2020 年 9 月から小中学生に孤独について教育することと規定している。
- 閣僚グループが監督する孤独に取り組む政府間の取組みは、イベントや公共政策大学院などを通じて政策立案者の孤独に対する意識を高めることにより、政府の政策立案全体に孤独の検討事項を組み込んでいる。
- 国家統計局は、孤独感尺度に関する包括的な情報と、測定ツールの使用に関するガイダンスを公開した。
- 孤独感尺度は、全国旅行調査、英国住宅調査、英国健康調査など、より多くの政府調査に含めることが承認された。
- 公衆衛生の成果フレームワークに孤独感尺度が初めて組み込まれた。データが利用可能になると、地方自治体は他の地域と比較して孤独の結果を評価できるようになる。

以下は、人を繋ぐコミュニティプロジェクトへの資金提供の実績についてまとめた。

- 2018年12月、特に若者の取組みを行っている22の組織を含む、126の組織に3万ポンドから10万ポンド⁴²の範囲の助成金が与えられた。
- 総額260万ポンド⁴³で、人々が繋がり、協力できるコミュニティスペースの改善を支援した。
- 2019年10月、人々を繋げる草の根運動の組織に助成金を提供する追加の200万ポンド⁴⁴の政府資金が発表された。この投資は、最大400万ポンドまでの資金を利用可能にするために、財政的に貢献している宝くじ基金と提携して提供される。

(2) 2年目の実績報告概要^{45, 46}

2020年はコロナウイルスを制御するために、日常の社会的交流が減った。しかし、そのような中でも、何十万人もの人々がNHSボランティアとして活動し、自己隔離中の人に電話サポートを提供したり、地元のコミュニティグループが孤立した隣人に食べ物や薬を届けたりした。コロナ対応で大変な時に、お互いに手を差し伸べ、繋がり、支え合うことが出来た。政府は、このような活動を、今後の孤独対策に活用したいと考えている。2020年4月、ロックダウンの開始時に、以下のような包括計画を実施した。

- 7億5000万ポンド⁴⁷のチャリティー資金調達パッケージの優先事項に孤独を分類した。

⁴² 1ポンド=150円とすると、450万円～1,500万円に相当。

⁴³ 1ポンド=150円とすると、3.9億円に相当。

⁴⁴ 1ポンド=150円とすると、3億円に相当。

⁴⁵ Loneliness Annual Report January 2021

<https://www.gov.uk/government/publications/loneliness-annual-report-the-second-year/loneliness-annual-report-january-2021> (2021/2/15 accessed)

⁴⁶ F. Bu, A. Steptoe, D. Fancourt, Who is lonely in lockdown? Cross-cohort analyses of predictors of loneliness before and during the COVID-19 pandemic, Public Health, Volume 186, September 2020, Pages 31-34

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0033350620302742?via%3Dihub> (2021/2/15 accessed)

⁴⁷ 1ポンド=150円とすると、1,125億円に相当。

- ・政府キャンペーン「Let's Talk Loneliness」を再度実施。
- ・自身や他の人をサポートする方法に関するガイダンスの更新。
- ・民間、公的、慈善団体の組織で構成された新しい対孤独ネットワークを1つにまとめる。
- ・新しい500万ポンドの基金を使用し、9つの全国慈善団体が対孤独に関する重要な取組みを実施または拡張することを発表。

今後も、次の3つの目標に焦点を当てて対孤独政策を続ける。

- ① 孤独について国家的な話し合いを築くことでスティグマを減らし、人々が孤独について話し、助けを求めることができるようにする。

例) 孤独に取り組むための組織を支援するツールキットは、2019年6月にキャンペーンが開始されて以来、1,000回以上ダウンロードされている。2020年6月の孤独意識週間の中に、地域や全国のニュースやソーシャルメディアを通じて孤独に取り組むためのヒントを共有した。また、Royal Mailとの提携により、平日に配達される郵便物にLet's Talk Lonelinessの消印が押される手紙を書くことを奨励した。ロンドンのピカデリーサーカスの映画館でキャンペーンビデオが流され、BTタワーでは1週間を通して#LetsTalkLonelinessが表示された。冬の間、Loneliness Winter Calendarのキャンペーンを中心に活動した。#LetsTalkLonelinessは、ASDA、Ukie、Alzheimer's Society、Royal Mailなどの協力先がメッセージの普及を支援し、12月中に同広告が1200万回表示された。

- ② 政策立案と実施において、人間関係と孤独が検討事項となるように永続的な転換を推進し、人と人を繋ぐ組織の影響力を支援し、増幅させる。

例) 企業、慈善団体、公共部門もさらに力を入れ、現在対孤独対策ネットワークには70を超える組織が関わっている。特に若者の孤独、高齢者の孤独、地域および場所をベースとしたアプローチ、デジタルインクルージョンを優先分野としていく。

③ 孤独に関する根拠となる基準を改善し、必要不可欠な取組みとし、この困難な時代に情報に基づいた意思決定を行うために必要な情報を誰もが確実に得られるようにする。

例) 新たな研究結果によると、現在最も孤独のリスクが高い人々は、コロナウイルスの発生前に最もリスクが高かった人々と同様だった。リスクが高い人々には、16～24歳の若年成人、障害者や長期的な病気を持つ人、長期的な健康状態にある人、低所得世帯の人などが含まれている。一方、2017～2019年の英国の成人31,000人と、コロナウイルスパンデミック時の英国の成人60,000人のデータを比較した研究によると、若年成人、女性、教育や所得水準が低い人々、失業者、一人暮らしの人々、都市部在住者は、孤独になるリスクがもともと高かったが、18～30歳の若年成人や低所得者層、一人暮らしの成人は、パンデミック前と比較して孤独のリスクがさらに高まった。また、ロックダウン中は学生であることが通常よりリスクが高くなることが明らかになった。孤独の指標は現在、10の政府調査で使用されており、結果はCommunity Life Survey Focus on Loneliness Reportなどのレポートを通じて報告する。

(3) 生活実態調査 (Community Life Survey) における孤独項目⁴⁸

Community Life Survey のレポートを翻訳したものを次に示す。

⁴⁸ Community Life Survey, England 2018 to 2019: Loneliness Fact Sheet
https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/820602/Community_Life_Survey_2018-19_Loneliness_fact_sheet.pdf
(2021/2/15 accessed)

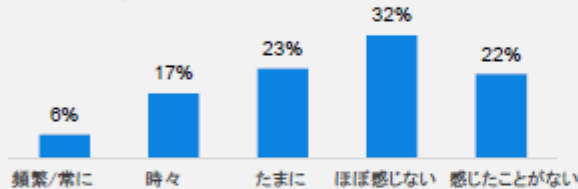


Department for
Digital, Culture,
Media & Sport

Community Life Survey: Loneliness

このファクトシートは、英国成人（16歳以上）の孤独に関する公式統計を、2018～2019年度地域生活調査のデータに基づいてまとめたものである。

どのくらいの頻度で孤独を感じますか？

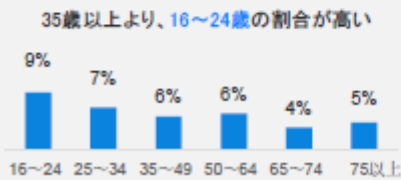


6%の成人(16歳以上)が頻繁にまたは常に孤独を感じている



頻繁にまたは常に孤独を感じている層

頻繁にまたは常に孤独を感じる割合が高いグループ



ただし...

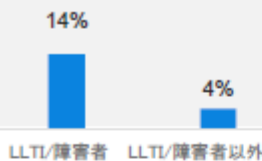
男女差はあまりみられない



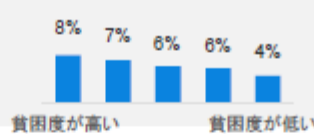
6% 7%

民族や地域間の差もあまりみられない

長期的に病気を持つ人(LLTI)や障害者の割合が高い



最も貧しいエリアに住む人々の割合が高い

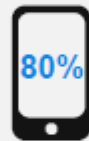


週に1回以上、友人や家族との交流がある

メッセージのやり取り

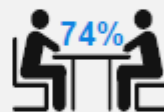


電話またはビデオ電話による会話



80%

直接会う



Eメールまたは手紙



36%

支援ネットワーク

96%の人が、話し相手が必要な場合、話を聞いてくれる頼れる人がいる



91%の人が、誰かと会った場合、呼び出せる人がいる



95%の人が、助けが必要な場合、助けてくれる人がいる



詳しくは次のURLを参照：<https://www.gov.uk/government/collections/community-life-survey--2>